

# 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば 集成 : 第18巻 福岡・大分・宮崎

著者	国立国語研究所
ページ	1-279
発行年	2008-07-22
シリーズ	国立国語研究所資料集 ; 13-18
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00002258">http://doi.org/10.15084/00002258</a>

全国方言談話データベース

# 日本のふるさとことば集成

第18巻 福岡・大分・宮崎

国立国語研究所資料集 13-18

国立国語研究所

2008

国書刊行会

## 刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13～17年度には「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」により、平成18年度からは、「日本語に関する蓄積資料の整備」プロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9～18年度に科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けました。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門資料整備グループの井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成20年3月

独立行政法人  
国立国語研究所長 杉戸 清樹

## 利用にあたって

### 1. 内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

#### 福岡県北九州市 1981

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
<b>【調査地の現況と変遷】</b>			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

#### 大分県大分郡挾間町 1978

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【昔の結婚式，正月の思い出，昔の節句】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

宮崎県宮崎市 1981

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【船乗りの時の話，同級生や友だちのこと】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		

各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	
----------------------	--	---	--

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，  
waveファイル，ステレオ

CD-ROMは，CDプレイヤーで再生しないでください。CDプレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点に御配慮のうえ，お使いください。

## 2. 著作権

この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータの著作権は，国立国語研究所にあります。

## 3. 利用条件

利用にあたっては，以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータは，どのような目的においても，また，どのような媒体（紙，電子メディア，インターネットを含む）によっても，他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータは，非営利の教育・研究目的に限り，自由に利用できます。ただし，上記(2)は守ってください。

(4) この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は，

「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」  
などのように，明記してください。

あわせて，成果物を国立国語研究所に御寄贈いただければさいわいです。

(5) 以上の利用条件に合致しない場合，あるいは，利用について不明な点がある場合は，国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒190-8561

東京都立川市緑町10-2

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：042-540-4339

#### 4. 付記

データの電子化，CD-ROM，CDの作成については，平成9(1997)～18(2006)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-18

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第18巻 福岡・大分・宮崎

目次

刊行のことば	3
利用にあたって	5
I. 福岡県北九州市1981	11
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	19
談話	24
【調査地の現況と変遷】	25
注記	89
II. 大分県大分郡挾間町1978	91
地図	92
話者・担当者	93
解説	94
凡例	100
談話	105
【昔の結婚式，正月の思い出，昔の節句】	106
注記	170

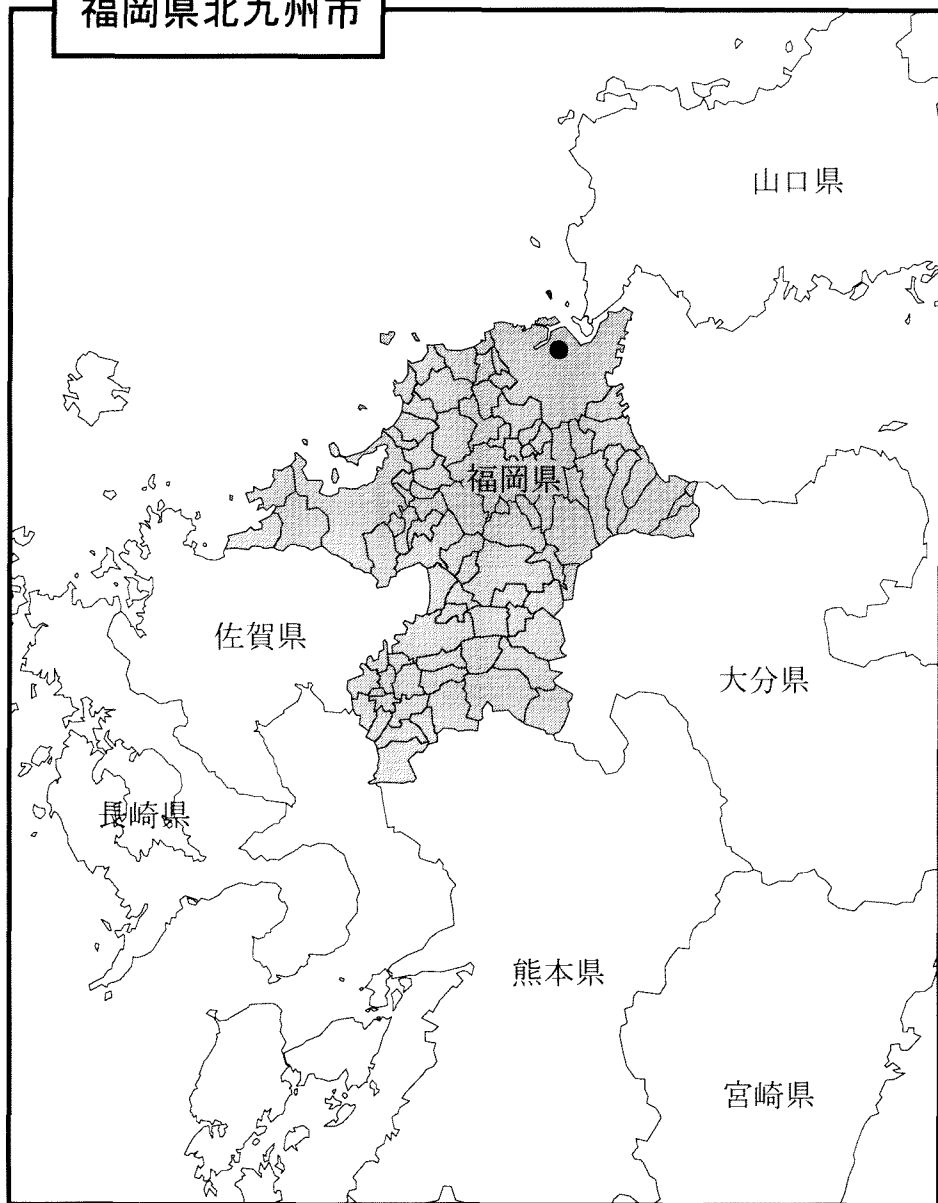


Ⅲ. 宮崎県宮崎市1981 .....	175
地図 .....	176
話者・担当者 .....	177
解説 .....	178
凡例 .....	183
談話 .....	188
【船乗りの時の話，同級生や友だちのこと】 .....	189
注記 .....	244
作成・公開の経緯 .....	249
「各地方言収集緊急調査」について .....	251
「各地方言収集緊急調査」地点一覧 .....	255
「各地方言収集緊急調査」地点地図 .....	260
各地方言収集緊急調査補助全体計画 .....	261
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項 .....	262
各地方言収集緊急調査実施要領 .....	263
各地方言収集緊急調査の実施について .....	266
調査実施上の留意事項について .....	268
「全国方言談話データベース」について .....	274

# **I . 福岡県北九州市**

## **1981**

# 福岡県北九州市



## 福岡県北九州市1981話者・担当者

### 「各地方言収集緊急調査」

話者	秋山 やす子 九郎田 茂美 九郎田 チトセ 野黒美 好松
収録担当者	安部 逸雄
文字化担当者	安部 逸雄
共通語訳担当者	安部 逸雄
解説担当者	安部 逸雄

(敬称略 項目別50音順)

### 「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一 江川 清 田原 広史 井上 文子
編集協力者	加藤 論子 鳥谷 善史 熊谷 康雄

## 福岡県北九州市1981解説

### 収録地点名

ふくおかけんきたきゅうしゅうしや はたひがしくおおあざおおくらあざかわち  
福岡県北九州市八幡東区大字大蔵字河内

### 収録地点の概観

#### 位置

河内は、八幡東区の南に位置している。

#### 交通

鹿児島本線八幡駅から河内行きのバスで南へ約6 km、約15分である。

#### 地勢

八幡東区は、福知山系に連なる帆柱連峰（標高622mの皿倉山を中心に、帆柱・権現・花尾の4山）を背後にひかえ、北は洞海湾をへだてて若松区と対し、西は小倉北区と接する北九州工業地帯の郊外にある。

河内は、製鉄所の施設である「河内貯水池」の東側の標高200mの丘陵地帯、北九州国定公園皿倉山山麓に点在する集落である。

#### 行政区画

1889(明治22)年の町村制施行により、尾倉村・大蔵村・枝光村が合併して遠賀郡八幡村が成立。その後、1900(明治33)年に町制が施行され八幡町となり、さらに、1917(大正6)年、市制を施行し八幡市となる。1963(昭和38)年、北九州5市合併が実現し、政令指定により区制が施行され、北九州市八幡区となる。1974(昭和49)年、行政区再編成により東西に分区し、八幡東区・八幡西区が新設された。

#### 戸数・人口

1981(昭和56)年4月現在、八幡東区は、世帯数36,083戸、人口105,703人。大蔵は、世帯数985戸、人口3,122人。河内は、世帯数64戸、人口258人。

#### 産業

八幡東区は、1901(明治34)年、八幡製鉄所が操業を開始して以来、北九州工業地帯の中心として発展してきた。丘陵地帯なので農地は少なく、タケノコ・シイタケの栽培が行われている。兼業農家が多く、後継者難である。

## 収録地点の方言の特色

### 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

福岡県方言は、東部方言（豊前および筑前東端）、西部方言（筑前の大部分）、南部方言（筑後および筑前南端）に3区分される。北九州市八幡東区は、行政区画上は筑前に属するものの、遠賀川より東側、豊前との境界近くでもあり、東部方言に含まれている。たとえば、豊前アクセントをとること、また、逆接の助詞として、西部方言の特色である九州弁的な「バッテン」は用いず、「ケンド」を使うことなど、東部方言として大分県方言に近いことを示している。

### 音韻

- (1) ガ行鼻濁音がない。
- (2) 「ジ」と「ヂ」, 「ズ」と「ヅ」の区別がない。
- (3) 口蓋化した「シェ」「ジェ」は、高年層の一部に認められる程度である。
- (4) 合拗音「クッ」「グッ」が聞かれることがある。
- (5) 母音の無声化が顕著である。
- (6) オ段の長音に、豊前南部地方におけるような開合の区別はない。
- (7) 連母音「アイ」「オイ」は、エ段長音に発音される。

キタネー（汚い）

アルメー（あるまい）

ヒデー（ひどい）

ただし、連母音の融合については、九州全域の中ではむしろ少ないほうに属している。連母音「エイ」は、長母音化せずに発音される。

トケイ（時計）

キレイナ（きれいな）

### アクセント

北九州市全域が豊前アクセントの地域に含まれる。豊前・筑前の間にはアクセント上の差異は見られない。東京アクセントに比べて、2拍名詞の第2類が平板型に発音されるなどの小異はあるが、類似点も多い。豊前南部方言のアクセントとも差が小さい。しかし、人口の流入出が著しくアクセントにも若干のゆれが見られる。

## 文法

- (1) 動詞の二段活用は、筑前西部よりも多く保存されている。

オクル (起きる)

デクル (できる)

- (2) 一段活用動詞・二段活用動詞の意思・勧誘形、否定形は、語幹が1音節の場合、五段化する。

キロー (着よう)

デロー (出よう)

キラン (着ない)

デラン (出ない)

2音節以上の場合、語幹にそのまま「ヨー」が接続して、融合する。

オキョー (起きよう)

アキョー (開けよう)

- (3) 一段活用動詞・二段活用動詞の命令形は、語幹が1音節の場合、五段化する。

キレ (着ろ)

デレ (出ろ)

2音節以上の場合、語幹にそのまま「イ」が接続して、融合する。

オキー、オケー (起きろ)

アケー (開けろ)

- (4) ナ行変格活用動詞「死ぬる」「往ぬる」が用いられている。

- (5) バ行・マ行連用形は、ウ音便と撥音便が併存している。

トーダ、トンダ (飛んだ)

ノーダ、ノンダ (飲んだ)

- (6) 「する」「来る」の命令形は「セー」(しろ), 「コイ」(来い), 意思・勧誘形は「ショー」(しよう), 「コー」(来よう) である。

- (7) 形容詞終止形の語尾は、もっぱらカ語尾である。ただし、「よい」「ない」は、イ語尾と併存している。

ヨカ, ヨイ (よい)

ナカ, ナイ (ない)

(8) 形容動詞終止形の語尾は、「ナ」のほか「ジャ」「ヤ」もある。

ゲンキナ, ゲンキジャ, ゲンキヤ (元気だ)

(9) 受身・状況可能は、「ルル」「ラルル」を用いる。能力可能には、「キル」を使う。

ノマルル (飲める)

ミラルル (見られる)

ノミキラン (飲めない)

(10) 使役は「ス」「セル」を用いる。

クワス (食わせる)

サセラレヨッタ (させられていた)

(11) 否定は「ン」を用いる。

デラン (出ない)

キラン (着ない)

オキン (起きない)

アケン (開けない)

(12) 断定には「ヤ」系と「ジャ」系とが用いられるが、「ヤ」系が優勢である。

ヤロー (だろう)

ヤッタ (だった)

ヤツツロー (だっただろう)

ジャツタロー (だっただろう)

(13) 比況は「ゴタル」「ゴト」「ゴツ」を用いる。

イランゴタル (いらなようだ)

マイニチノゴト (毎日のように)

(14) 接続助詞「て」、引用の「と」は「チ」となる。

イッチ (行って)

クーチ (食って)

ナナマガリチ ユーケ (七曲と言うから)

(15) 文末詞には「ワイ」「バイ」「タイ」などが盛んに用いられる。

オー イコーワイ (うん、行こうよ)



コラー ウチノ カサバイ（これは私の傘だよ）

ソレカラ ヤメタデスタイ（それ以来やめましたよ）

- (16) 尊敬表現には、敬意の高い順に、「ゴザル」「ナサル」「ナザス」「ナス」「ナル」などが用いられる。助動詞「ルル」「ラルル」も敬意の高いものとして用いる。

キテゴザル（いらっしゃる）

キナサル（いらっしゃる）

コラルル（いらっしゃる）

（以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。）

## 福岡県北九州市1981凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

### 文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が方言談話音声の文字化、下段がその共通語訳である。ただし、方言の語形と共通語の語形が必ずしも1対1で対応しない場合もあり、方言の語形と共通語訳とがずれている場合もある。

方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造などは、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとられず、読みやすさ、意味の取りやすさを優先して処理をした部分がある。

### 発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中に、話し相手のあいづちや同じ単語の繰り返しなどが入る場合もある。

## 発話番号 <半角>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

## 話者記号 <全角>

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1 A

## 固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X1, X2, X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X1, X2, X3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

## 記号

### 。(句点) <全角>

文字化については、ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所に句点を打った。ただし、実際の発話では、一文の終わりがわかりにくい場合もある。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス      ソーデス

そうです。      そうです。

### 、(読点) <全角>

文字化については、基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所に読点を打った。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、

意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケイトイテ？

預けておいて？

↓ 〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタンダナー↓

よく やったんだなあ。

( ) 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時に同意を示したり、さえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……)のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。( )の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、( )内のあいづちと、独立した発話として扱ったあいづちに近い発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑い、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

\*\*\*

〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

///

〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」なんですね。

[ ]

〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

=

〈全角〉

[ ] 内の＝は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| |

〈全角〉

注意書きなど。

例：| A に対して |

[ ]

〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[ ] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサノオモチ [1]

## 音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある「再生」の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

## CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「福岡01-1」はCDトラック番号が01で、その1ページ目ということである。「福岡01-1」「福岡01-2」……「福岡01-8/02-1」……「福岡11-8」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分でトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑01, 01↑02, ……10↑11, 11↑のように表示される。

第18巻のCD（67分11秒）には、福岡県北九州市の談話、【調査地の現況と変遷】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間：分：秒
01	p. 25・ℓ. 1	p. 32・ℓ. 1	00：02：09
02	p. 32・ℓ. 1	p. 37・ℓ. 1	00：01：59
03	p. 37・ℓ. 3	p. 43・ℓ. 7	00：02：04
04	p. 43・ℓ. 9	p. 50・ℓ. 1	00：02：09
05	p. 50・ℓ. 1	p. 54・ℓ. 3	00：02：09
06	p. 54・ℓ. 5	p. 59・ℓ. 7	00：02：07
07	p. 59・ℓ. 9	p. 63・ℓ. 19	00：02：02
08	p. 64・ℓ. 1	p. 71・ℓ. 1	00：02：11
09	p. 71・ℓ. 3	p. 77・ℓ. 3	00：02：07
10	p. 77・ℓ. 3	p. 81・ℓ. 13	00：02：09
11	p. 81・ℓ. 15	p. 88・ℓ. 3	00：02：31
計			00：23：37

## 福岡県北九州市1981談話

収録地点 ふくおかけんきたきゅうしゅうしや はたひがしくおおあざおおくらあざかわ ち  
福岡県北九州市八幡東区大字大蔵字河内

収録日時 1981(昭和56)年 4 月 1 日

収録場所 福岡県北九州市八幡東区大字大蔵字河内 話者 A 氏自宅

話題 調査地の現況と変遷

話者

A	男	1901(明治34)年生	(収録時79歳)	林業, 農業
B	男	1907(明治40)年生	(収録時73歳)	農業
C	女	1903(明治36)年生	(収録時77歳)	農業
D	女	1904(明治37)年生	(収録時76歳)	農業

調査者

E	男	1941(昭和16)年生	(収録時39歳)	教員
---	---	--------------	----------	----

収録時間 (CD) 23分37秒

【調査地の現況と変遷】

話し手

A	男	1901(明治34)年生	(収録時79歳)	
B	男	1907(明治40)年生	(収録時73歳)	
C	女	1903(明治36)年生	(収録時77歳)	
D	女	1904(明治37)年生	(収録時76歳)	
E	男			調査者

- 1 B：マア ヤッパ アノー オーキュー カワッタノガ  
まあ やはり あの 大きく 変わったのが

↑01

センサーゴデスナー。  
戦争後ですね。

- 2 A：ハー センソーゴ。  
はあ 戦争後。

- 3 B：オーイニ (A ウン) カワリマシタ。  
大きく (A うん) 変わりました。

- 4 A：モー センソー、マエワー (B ハー) ソーワ  
もう 戦争前は (B はあ) そうは

ナーカッタナー。  
なかったね。

- 5 B：ハー。 オーキク カワッタデスバイ。 ホント。 ウン。  
はあ。 大きく 変わりましたよ。 本当[に]。 うん。



福岡 01-2

6 A : ソイデ ヤーイ。 ドコ イキヨルカーイ チューチ  
それで「おい。 どこ[に] 行っているかね」と

(B ハーイ) ユーグライナ コトデ。

(B はい) 言うぐらいの ことで。

7 B : ハーイ  
はい。

8 A : モー ソノ オー オリャー イマー アスコラヘンニ  
もう その「おお 私は 今 あそこらへんに

タキモン カリー イキョライ チ チューチ (B ハー ハー)  
薪[を]刈りに 行ってるぞ」× と (B はあ はあ)

ユー (B ハー) ユーチ ユーグライノ コトヤッタヨ。  
言う (B はあ) と 言うぐらいの ことだったよ。

(B ハー) ナー。

(B はあ) ねえ。

9 B : ハー。  
はあ。

10 C : アータノ コドモン トツカラ ズイブン カワッタ トコガ  
あなたの 子どもの 時から ずいぶん 変わった ところが

アリャーセンデスカ。  
ありはしないですか。

11B：ハー。 カワッタ コト アルケド。 {笑} ワタ  
はあ。 変わった こと[は] あるけれど。 {笑} ××

(C コマーカ トッカラ) ハーイ。 ワタシドモ

(C 小さい 時から) はい。 私など[は]

アンタ モー ヤッパ ソノ オヤジガ ハヤ

あなた もう やはり その 父親が 早く

シンダモンヤケネー。 モー チーサイ トキカラ

死んだものだからね。 もう 小さい 時から

アンタ ヤッパー アノー シゴトワ サセラレヨッタワーネー。

あなた やはり あの 仕事は させられていたよね。

ドーカ モー (C {笑}) ダイブン ムカシヤケ。

どうか もう (C {笑}) だいぶ 昔だから。

12C：エヘー イマノ ザイサンノ イミッタ[1] コトマレ

ええ 今の 財産の 増えた ことまで

ハナシテミナイ ショーショー アル。

話してみなさい 少々 ある。

13B：{笑} イヤー モー ソンナ コト モー ヌキニ。

{笑} いや もう そんな こと もう 抜きに[して]。

マー。

まあ。

14C：モー。  
もう。

15B：モー。  
もう。

16C：{笑} モー ヒトキリャー ヤッパー ネー。  
{笑} もう 一頃は やはり ねえ。

17B：ハーイ。  
はい。

18C：ナンギシタ コトヤロケーネー。  
苦労した ことだろうからね。

19B：ソーリャ ナンギシタモ ナンモ アンタ  
それは 苦労したも なにも あなた

クーツ クワズタイ アンタ。  
食うか 食わないかだよ あなた。

20A：ウーン。  
うん。

21C：ウーン ウン。  
うん うん。

22B：オヤジガ アンター。  
父親が あなた。

23A：マー ソノー。

まあ その。

24C：マー タイシタモンヤネ。

まあ たいしたものだね。

25B：ハー。

はあ。

26A：ハヨ〔2〕 モドランカー チューゲナ コトワ

「急いで 戻らないか」 というような ことは

イーヨッタヤロ。

言っていたらう。

27B：ウン。 ハヨ モドランカ (A ナー) チュー

うん。「急いで 戻らないか」 (A なあ) という

コトバオ ツカイヨッタ。

ことばを 使っていた。

28A：イーヨッタヤロ。

言っていたらう。

29B：ハー ハー。

はあ はあ。

30A：ハヨ コッチー コーイ ッチュー {笑}

「急いで こちらに 来い」 という {笑}

31B：{笑} コトバガ アラーマシ[3] チューカ ナンカ。  
{笑} ことばが 粗雑 というか なにか。

32A：ウン。(B {笑}) アラマシノゴタアロー。 ソリャー  
うん。(B {笑}) 粗雑なようだろう。 それは

モー ソッコソ X1チャンニ X2サン (B ハイ)  
もう それこそ X1ちゃんに X2さん (B はい)

ソシテ (B イヤ) アラマシノ コトバヤッタケナー。  
そして (B いや) 粗雑な ことばだったからね。

33B：アラマシノ コトバ ツカイヨッタ ソラー モー  
粗雑な ことば[を] 使っていた それは もう

(C {笑})  
(C {笑})

34A：X3サンナ モー シノーゴタッタケ  
X3さんは もう 死にそうだったから

チョット アノー (B ソーデスカネー) スクナカッタガ。  
ちょっと あの (B そうですかね) 少なかったが。

X1チャン (B ハー) X2サン (B ハー)  
X1ちゃん (B はあ) X2さん (B はあ)

ソシテ X4サンナ オトナシカッタカナー。  
そして X4さんは おとなしかったかな。

35 B : ウーン ウン ウン。  
うん うん うん。

36 A : ウン。  
うん。

37 B : ソーヤッツローナー。 アノヒトワ イー ヒトヤッタモン。  
そうだったろうね。 あの人は いい 人だったもの。

(A アー)

(A ああ)

38 C : ウーン。  
うん。

39 A : アノコロワ ヤッパ ハゲシカッター (B ハー)  
あの頃は やはり 激しかったね。 (B はあ)

オーイ。 X5 チュチ (B ハー)

「おおい。 X5」 と (B はあ)

イワレヨッタンヤケ。  
言われていたのだから。

40 B : ソーヤローナー。 (A ウン) (C {笑}) ウン。  
そうだろうね。 (A うん) (C {笑}) うん。

ケド アノヒトタチモ ワリアイ ナガイキセンヤッター。  
けれど あの人たちも わりあい 長生きしなかったね。

41A：ウーン。 {間} ソレダケ ヤッパ ハゲシカッタナー。  
うん。 {間} それだけ やはり 激しかったね。

01↑02

42B：ハーイ。 マー ズット イマ カンガエタラー  
はい。 まあ ずっと 今 考えたら

アラー ヤッパ ジダイガ カワツタゴタルネー。  
あれは やはり 時代が 変わったようだね。

43A：ジダイワ マー トニカクー ガサット カワツタナー。  
時代は まあ とにかく ガラッと 変わったね。

(B ハー) モー ソノー ヤッパ カワチガ ソノー  
(B はあ) もう その やはり 河内が その

イテンニ ナル コロガ イチバン  
移転に なる 頃が いちばん

(B ハーイ ハイ ハイ) アレカラ イテンニ  
(B はい はい はい) あれから 移転に

ナッチカラ ゴットリ モー カワツチシモータナー。  
なってから すっかり もう 変わってしまったね。

44B：ハー ハー。 アノコロ カワチワ ケイキガ  
はあ はあ。 あの頃 河内は 景気が

ヨカッタケナー。  
よかったからね。

45A：アー。

ああ。

46B：アー。 ヨカッタバイ。 ワタシャー アノー

ああ。 よかったよ。 私は あの

オシオイトリ〔4〕ー ツイチイタ コトガ アル。(A {笑})

御潮斎とりに ついていった ことが ある。(A {笑})

ナーンテ アンター ソノコロ モー ミタ コトモ ナイ

なんと あなた その頃 もう 見た ことも ない

アンタ ヒャクエンフダ チュー アンタ ソノコロ

あなた 100円札 という あなた その頃

ミル モンナ アンマリ オランヤッタケナー。(A ハー)

見る 者は あまり いなかったものね。(A はあ)

ソレナコトイ〔5〕 アンタ オシオイトリー イチ

そのようなことに あなた 御潮斎とりに 行って

アンタ ダシテ ツカイヨッタモ。 コラー マー

あなた 出して 使っていたもの。 これは まあ

ケーキガ イーナー ト オモテ オモイヨッタガナー。

景気が いいね と ××× 思っていたがね。

ソーユー コトガ ワスレラレン オモウ。

そういう ことが 忘れられない [と]思う。



モー アンター アノコラー ケーキガ ヨカッタ。  
もう あなた あの頃は 景気が よかった。

47A：マー ヤPPER フント カワリヤー (B ハー)  
まあ やはり 本当[に] 変われば (B はあ)

カワルモンジャー。  
変わるものだね。

48B：ハイ。ソヤキ センソーガ (A ウーン) ハジマッテカラ  
はい。そうだから 戦争が (A うん) 始まってから

アンタ。ソシチカラ アンタ ハキモンガ ノーテナー。  
あなた。そして あなた 履き物が なくてね。

ナンモカンモ ナカッタケレドモ。(A ハー ハー)  
なにもかにも なかったけれども。(A はあ はあ)

アー ウチガタノ コドモガ ヤPPa ゲタ ハイチー  
ああ 私の家の 子どもが やはり 下駄[を] 履いて

コッカラ アルイテ イキヨッタノワ  
ここから 歩いて 行っていたのは

ミンナ ソーヤットローガ。(A ハー)  
みんな そうだったろうが。(A はあ)

49C：ワタシドモワ ゴーリ ハイチ イキヨッタヨー。  
私たちは 草履[を] 履いて 行っていたよ。

ガッコーエ。  
学校へ。

50B：ハー。 ソリャー ソーデショナー。  
はあ。 それは そうでしょうね。

51C：ウン。 ゴーリバーッカリ。  
うん。 草履ばかり。

52B：ハイ。 ミンナ ワタシドモデモ ミンナ ゴーリヤッタモン。  
はい。 みんな 私たちでも みんな 草履だったもの。

クツナンタラナンテ イー モナー ズックヤラ  
靴なんかやなどと[いう] いい ものは ズックなど

ナイデスモン。  
ないですもの。

53C：アンタチャー モー ナン ハキヨッタカナ。  
あなたたちは もう なに[を] 履いていたかね。

54D：アタシタチャー アノー アレ アノー アサバキ〔6〕チ  
私たちは あの あれ あの 麻履きと[いうのが]

アリヨッタロー。  
あっただろう。

55C：ウン。  
うん。

56B：アー。

ああ。

57D：アレヤラ ソレカラ ゲタヤラ。

あれやら それから 下駄やら。

58C：ウン ウン。 アノー X6チャント フタリデ ゴーリオ

うん うん。 あの X6ちゃんと 二人で 草履を

ハイテ X7ノ アノ ババサンガ キレイナ ゴーリオ

履いて X7の あの おばあさんが きれいな 草履を

ツクリヨッタヨネ。

作っていたよね。

59D：ウン ウン。 ツクリヨッタ。

うん うん。 作っていた。

60C：ソノカワリ モー イチンチカ イチンチナカデー ヤブレヨッタイ。

そのかわり もう 1日か 1日半で 破れていたよ。

61D：ハー。 {笑}

はあ。 {笑}

62B：イヤ アノ ゴーリワ ナゴ モテンデネー。

いや あの 草履は 長く もたなくてね。

63C：モテン モテン。 (B アー) シッポガ ヤブレチネー。

もたない もたない。 (B ああ) 後ろが 破れてね。

64B : アー アー。

ああ ああ。

02↑03

65A : マー ソリャ ホンート ムカシャー モー アシタ

まあ それは 本当[に] 昔は もう 明日

アゲー スル ッチャー モー マチー イク ッチャー

あのように する といえば もう 町に 行く といえば

ゾー ワラジカラ (B ハイ ハイ) ウシノ クツ

×× わらじから (B はい はい) 牛の 靴

66B : ハイ。 マー マチー イクサー オーゴトヤッチョロー。

はい。 まあ 町に 行くのは たいへんだっただろう。

(A ウーン) アノー ムカシワ ウマヤットトカ ユー

(A うん) あの 昔は 馬だったとか いう

ハナシヤケネー。

話だからね。

67A : ハー。 ウマワナ ヨカッタケンド ウシワナー。 (B ハー)

はあ。 馬はね よかったけれど 牛はね。 (B はあ)

クツ ツクラニャナ。

靴[を] 作らなければね。

68B : ハー ハー。 {笑} (C {笑})

はあ はあ。 {笑} (C {笑})

福岡 03-2

ウシノ クツワ ワシャ ツクッタバイ。 ヤPPER。  
牛の 靴は 私は 作ったよ。 やはり。

69A：ソーナ？

そうね。

70B：ハーイ。 アンター (A ウン) モー アゲー シモーイ  
はい。 あなた (A うん) もう あのように 下のほうに

アンタ コエ トリー イキヨッタケ。  
あなた 肥[を] 取りに 行っていたから。

71A：ウーン。(C ウーン)

うん。(C うん)

72B：モー。 ソリャー ウシノ クツダケ ヨケー  
もう。 それは 牛の 靴だけ 余計[に]

ツクッタネー コリャー。(A ウン)  
作ったね これは。(A うん)

ジブンノ ハキモノワ ツ克蘭ヤッタケド。  
自分の 履き物は 作らなかったけれど。

(A ウーン) コリャー アンタ モー。

(A うん) これは あなた もう。

ヤPPER イッチ モドルマデ ナカッタモンナー。  
やはり 行って 戻るまで なかったものね。

73A：ハー。 ナーカッタ。

はあ。 なかった。

74B：ハー ハー。 ソヤケ ヤッパー アノ クラニ

はあ はあ。 だから やはり あの 鞍に

サゲチョッカナー。 アンター。

さげていないとね。 あなた。

75A：ウーン。

うん。

76B：アレ アシガ イタンダラ イケンケ ト オモチ アンタ。

あれ 足が 痛んだら いけないから と 思って あなた。

(A アー) モー ソリャー ツクッタヨ ヨケー。 {間}

(A ああ) もう それは 作ったよ たくさん。 {間}

77A：モー ヤッパー ホントー ヨールドモ ワタシガ ガッ

もう やはり 本当[に] 夜など 私が ××

ノーガッコーニ イキヨル コロワナー。

農学校に 行っている 頃はね。

78B：ハー ハー。

はあ はあ。

79A：モー ソノー イッチ モドリャー トーイーヤロー。

もう その 行って 戻れば 遠いだろう。

(B ハー) ウノマデヤシ。 ソヤケナ。

(B はあ) 宇野までだし。 だからね。

80B：ホント ヤッパ アノコロワ ゴーリヤッチョローケナ アンタ。  
本当[に] やはり あの頃は 草履だったろうからね あなた。

81A：ゴーリヤッタ。  
草履だった。

82B：オーゴトヤッチョローナー。  
たいへんだったろうね。

83A：ホカノ トコロノ モノワナー。  
ほかの ところの 者はね。

84B：ウーン。 トイーケナー。  
うん。 遠いからね。

85A：ゲ ゲタ ハイチ イキヨッタケドナ。  
× 下駄[を] 履いて 行っていたけどね。

86B：ハー。  
はあ。

87A：ワシドモワ シナ モー ヤマサカヤロー。  
私などは そんな もう 山坂だろう。

88B：ハー。  
はあ。

89A：ナナマガリ コシチ イキヨッタヤロー。(B ハイ ハイ)  
七曲[を] 越して 行っていたら。 (B はい はい)

ソヤモンジャケー ゴーリデナカラナ モタンモンジャケー  
それだものだから 草履でなければ もたないものだから

(B ウン) ソノ ナナマガリ ゲタドモ ハイチ  
(B うん) その 七曲[を] 下駄など 履いて

クダロー ッチャナー。  
下っていこう というのはね。

90B：ハー ハー ハー。 イーヤー ミチ ワルカッタケ。  
はあ はあ はあ。 いや 道[が] 悪かったから。

イマ (A ハー) アンタ。 イーンヤガー。  
今 (A はあ) あなた。 いいんだよ。

91A：ハー ハー。  
はあ はあ。

92C：ナン ナナマガリワ イー ミチガ ツイトリマスカ。  
なに 七曲は いい 道が ついていますか。

93B：ハーイ。 イマ モー ホソーガ ゼンブ デキマスバイ。  
はい。 今 もう 舗装が 全部 できますよ。

94C：ハー ソーデスカ。  
はあ そうですか。



95 B : ハイ。  
はい。

96 A : ウン。  
うん。

97 B : マー ソイデモ アゲシテ ニネンクライ カカローネ。  
まあ それでも あのようにして 2 年くらい かかるだろうね。

98 A : ウーン。  
うん。

99 B : キノー ホソーワ アノ イマ ヤリカケチョルダケ スンダ  
昨日 舗装は あの 「今 やりかけている[分]だけ すんだ」

チ イーヨリマス。 ギョーシャ イーヨリマシタ。  
と 言っています。 業者[が] 言っていました。

100 A : ウーン。  
うん。

101 B : モー ナンチカ トーラレンヤッタ。 ゼンメンツコーコードメヤケ。  
もう 何日か 通れなかった。 全面通行止めだから。

102 C : ホー。  
ほう。

103 A : ウーン。  
うん。

104 B : ハイ。 ソヤモンヤケ アンタ タケノコ モッチ  
はい。 それだから あなた タケノコ[を] 持って

ハタ[7]サイ[8] マワッタ。 タシロカラ。  
[貯水池のある]畑のほうへ 回った。 田代から。

105 A : ホー。  
ほう。

106 B : ハセッチ イキヨッタヨ。 ミンナ。  
慌てて 行っていたよ。 みんな。

03↑04

107 A : ウーン。  
うん。

108 B : ソレモ アンター ジドーシャガ アルモンヤケネー。  
それも あなた 自動車が あるものだからね。

ソレガ デクルケンド アンタ。  
それが できるけれど あなた。

109 A : フーン。  
ふうん。

110 B : コノゴロ キノー アノー スンダ チ  
この頃 昨日 あの [舗装工事が]すんだ と

イーヨリマシタケ。 モー トーレルヤロ。  
言っていましたから。 もう 通れるだろう。

111A：ホー。

ほう。

112B：モー クルマノ トーリ オーイデスバイ。

もう 車の 通行[が] 多いですよ。

113C：フーン。

ふうん。

114B：ハイ。 モー ニチヨー ドヨー ナー。

はい。 もう 日曜 土曜 ねえ。

ウント トーリマスバイ。

たくさん 通りますよ。

115A：ウーン。 イヨイヨ ソノー ムカシノ アレワ

うん。 いよいよ その 昔の あれは

ホーホーワ ノーナッタナー。

[通行]方法は なくなったね。

116C：X8シャン[9]ガタイ イキヨッテ ヨカッタナ。

X8さんのお宅へ 行っていて[=通院して] よかったね。

117B：ハー。

はあ。

118D：ハー。 X8サンガタイ イキヨッタ。

はあ。 X8さんのお宅へ 行っていた。

福岡 04-3

119A：ムカシノ ホーホーワ ノーナッタナー。  
昔の 方法は なくなったね。

120B：ハイ。ムカシノー アレワ ナイナー。  
はい。昔の あれは ないね。

121D：ナツヤスミ トーシ イッテ。  
夏休み ずっと 通って。

122C：フーン。  
ふうん。

123D：クスリモライネ。  
薬[を]もらい[に]ね。

124C：ハー ハー。  
はあ はあ。

125B：モー オイシャチュータラ ソノ X8サングライシカ  
もう 医者といったら その X8さんくらいしか  
  
ナカッタケナー。 ヤッパー コノ キンジョニワ。  
なかったからね。 やはり この 近所には。

126A：ハー ハー。  
はあ はあ。

127B：ソヤケ アンター ナン ナンチュータチャー  
だから あなた ×× なんていったって

128 A : ウーン。 クスリ モライー イッタ コトガ アルガナー。  
うん。 薬[を] もらいに 行った ことが あるがね。

ソリヤー モー フント ヤッパー アスコノー  
それは もう 本当[に] やはり あそこの

イチムラヘンノ チート ムコーノ コージャク ホーニナ。  
いちむらあたりの ちょっと 向こうの 上津役[の] ほうにね。

129 B : ハー。  
はあ。

130 A : イッタ ホーニ アッタガ  
行った ほうに あったが

131 B : ハイ ハイ ハーイ。 アノ ウエノハルン ホーニネ。  
はい はい はい。 あの 上の原の ほうにね。

132 A : ウン ウン。  
うん うん。

133 B : イマンゴト アンター マチー アノー オークラヘンニ  
今のように あなた 町に あの 大蔵あたりに

アンダケ イシャガ アリャーネー。  
あれだけ 医者が あればね。

134 A : ウーン。  
うん。

135 B : ラクヤッタケンド。 (C {笑})

[通院も]楽だったけれど。 (C {笑})

イエガ ナカッタモンヤケ。 オークラヘンニワ {笑}

家が なかったものだから。 大蔵あたりには {笑}

(C {笑}) ハー。

(C {笑}) はあ。

136 E : アノコロ オークラワ ナンゲングライ アリマシタデスカネー。

あの頃 大蔵は 何軒ぐらい ありましたですかね。

ソノコロワ。

その頃は。

137 B : オオクラデスカ。

大蔵ですか。

138 A : ナニ

なに

139 B : イヤ オークラデスカ。

いや 大蔵ですか。

140 E : ハイ。

はい。

141 B : オークラ サー ナンゲングライ アッタカナー。

大蔵 さあ 何軒ぐらい あったかな。

福岡 04-6

イシャチュー イシャー ナカッタガナー。 アソコ  
医者という 医者は なかったがね。 あそこ

142C : ウンニャ アノー  
いや あの

143E : イヤ イシャワ アレデスガ  
いや 医者は あれですが

144C : コジンノ  
個人の

145E : コジンノ イエワー  
個人の 家は

146B : アレネー。 ア オークラ ドノクライ  
あれね。 ああ 大蔵[に] どのくらい

アッタデショーカ。  
[家が]あったでしょうか。

147A : オークラニナ。(B ハー) X9サンチ ウチガ  
大蔵にね。(B はあ) X9さんという 家が

ヤッパ アッタケンドナー。  
やはり あったけれどね。

148C : イヤ オイシャサンヤ ナイデ フツーノ イエノ コトタイ。  
いや お医者さんでは なくて 普通の 民家の ことだよ。

149A：オークラワナー。

大蔵はね。

150B：オ ハー。

× はあ。

151A：オークラワナー。 アノー カツヤマチョーニ ジュー  
大蔵はね。 あの 勝山町に 10

(D ジュー) ナンゲン アッタ。

(D 10) 何軒 あった。

152D：ジューニサンゲン アッタヤローネー。 アソコニ。  
12、3軒 あっただろうね。 あそこに。

153A：ウン。 アソコワナ。 ジュー ヤッパ ニサンゲングライ  
うん。 あそこはね。 10 やはり 2、3軒ぐらい

アッチョロー。(D ウン) ソレカラ マー アソコニ  
あっただろう。(D うん) それから まあ あそこに

クダッチャー X10ガ ヤPPER ムラデ イチバン フルイ。  
下っては X10が やはり 村で いちばん 古い。

(B ハー ハー ハー ハー。 フルイ フルイ)

(B はあ はあ はあ はあ。 古い 古い)

ソシテ アソコニ X11トカ X12トカ ユーフウナ。  
そして あそこに X11とか X12とか いうような。



(B ハー) ミンナ アノー X13サンガタ

(B はあ) みんな あの X13さんのお宅[の]

04↑05

マエン ホウニ X12 X12ノ イットーガ

前の ほうに X12 X12の 親族が

オットンジャモンナ。 X12チュー ソノ

いたんだものね。 X12という その

154B : ハイ ハイ。 X12 X12ノ イットーガ オッタヨ。

はい はい。 X12 X12の 親族が いたよ。

(C {笑}) アソコワネー。

(C {笑}) あそこはね。

155A : アソコガ イッケン ニケン ソシャー アソコニ

あそこが 1軒 2軒 そうすると あそこに

カンダヤチューチカラ (B ハイ) X14ガ オルシ。

神田屋といって (B はい) X14が いるし。

(B ハイ) ソレカラ マー ノチニ ナッチャラー

(B はい) それから まあ のちに なったら

X15ヤラ (B ハー) デ デケタンジャケンド アノー

X15やら (B はあ) × できたんだけど あの

イマノー ソノダマチノ アソコニ オークラノ アレガ

今の 園田町の あそこに 大蔵の あれが

イエガ チート カタマッチョッタガー (B ハー ハー)  
家が 少し かたまっていたが (B はあ はあ)

ハー。(B ハー) アソコニ X16サンモ オルシ  
はあ。(B はあ) あそこに X16さんも いるし

ソノー アノー X17ガ ケイトーガ アソコニ  
その あの X17の 系統が あそこに

156 B : ハイ ハイ。 X17ノ ケイトーガ アソコニ オルモンナ。  
はい はい。 X17の 系統が あそこに いるものね。

157 A : ハー。  
はあ。

158 E : ソノ イテントカ ユーノワ (A エー?) オークラデ  
その 移転とか いうのは (A え?) 大蔵で

イテング アッタトカ サッキ オハナシガ アリマシタガ。  
移転が あったとか さっき お話が ありましたが。

159 A : オークラデ ナニ。  
大蔵で なに。

160 B : イテング アッタ ッチャー イテンノ アッタネ。  
移転が あった といえば 移転が あったね。

161 A : イテンナ?  
移転ね。

162B：イテン。

移転。

163E：イテン。 ナンカ ウツー ドッカニ ウツラレタデスカ。

移転。 なにか ××× どこかに 移られたんですか。

164A：ナニガ。

なにが。

165B：ドコカニネ。(A ウン) アー ウツラレタ

どこかにね。(A うん) ああ 移られた

ソノ イテンノ コトオ オハナシヨッテデスヨ。

その 移転の ことを お話しされてますよ。

166C：イテンチャー

移転といえば

167A：イテンチ オークラデ ベツニ イテンワ アンマリ

移転って 大蔵で 別に 移転は あまり

シチョランワナー。(E アー ソーデスカ) エー。

していないよね。(E ああ そうですか) ええ。

168B：ヤッパー ヨソカラ キタ ヒトガ オーイナー。 アスコワ。

やはり よそから 来た 人が 多いね。 あそこは。

169A：ハー。 モー (B ハイ) ヨソカラ キタ ヒトバッカリデ。

はあ。 もう (B はい) よそから 来た 人ばかりで。

170B : モー ジノ ヒトワ アンマリ スクナイナー。 アスコワ。  
もう 土地の 人は あまり 少ないね。 あそこは。

171A : ハー。 モー イマー X12ノー アッチガ イッケン  
はあ。 もう 今は X12の あちらが 1軒

ノコッチョルノト、 モー アンマリ オランナ。  
残っているのと もう あまり いないね。

モー オークラニャ カサヤカラ チョーチンヤカラ  
もう 大蔵には 傘屋から 提灯屋から

(B ハーイ) ナンモ アリ アリヨッタナー。

(B はい) なんでも ×× あったね。

(B ハー ハー {笑}) {間}

(B はあ はあ {笑}) {間}

172D : ムカシ オークラノ アノー コー デンシャミチカラ コー  
昔 大蔵の あの こう 電車道から こう

ハイッタ トコロニ ソレカラ カツヤマチョーマデ チュタラ  
入った ところに それから 勝山町まで といったら

アノ ムカシーノ ジノ ヒトチュータラ ヒャッケンモ  
あの 昔の 土地の 人といったら 100軒も

アッタヤローカネー。(A ウーン ウン) ネー。  
あったらうかね。(A うん うん) ねえ。

(A うん)

(A うん)

173 B : ヒャッケン アツローカネー。 ダイブン フルイト  
100軒 あっただろうかね。 だいぶ 古いと

05↑06

174 D : ヒャッケンナンテ ナカロネー。(A ハー?)  
100軒なんて ないだろうね。(A はあ?)

ヒャッケンチューチャ ナカロネー。  
100軒については なかろうね。

(A オークラナ) (B アー。 オークラナ)  
(A 大蔵ね) (B ああ。 大蔵ね)

175 A : アノ トージ  
あの 当時

176 D : イチバン サイショノ ソノー ジノ ヒト。  
いちばん 最初の その 土地の 人。

177 A : アー。 アノ ジノ (B イヤー) ヒト。  
ああ。 あの 土地の (B いや) 人。

ナンゲンモ ナカッタ。  
何軒も なかった。

178 B : ヒャッケンモ ナカッタバイ。 ワタシガ オモ オモイダシテモ。  
100軒も なかったよ。 私が ×× 思い出しても。

179A：ウン。

うん。

180D：アッコノ

あそこの

181B：カミオークラチュー イミワ イマ カツヤマチョーチ ユーカナ。

上大蔵という 意味は 今 勝山町と いうかな。

アスコワ。(A アー アー) アスコニー チョット

あそこは。(A ああ ああ) あそこに ちょっと

カタマッチ イエ ナンゲンカ アッタネー。

かたまって 家[が] 何軒か あったね。

(A ウン。アスコガ \*\*\*)

(A うん。あそこが \*\*\*)

182C：ウン。アスコワ ヒャクショーヤケーネー。

うん。あそこは 百姓だからね。

183B：ハイイ。ヒャクショーデ。(A ウーン) マダ アンター

はい。 百姓で。(A うん) まだ あなた

アッコ コーコーガ デケン トキ ワタシドモ

あそこ[に] 高校が できない 時 私など

アスコニ アノー オヤジガ アノー ホニューショノ アノ

あそこに あの 父親が あの ほ乳所の あの

ヤマ キリトルトニ ア ウマ ダンシヨッタモンネ。  
山[を] 切り取るのに あ 馬[を] 出していたものね。

(A ウーン) ソントキ ソノ ウマヒキー ワタシガ アー  
(A うん) その時 その 馬引きに 私が ああ

モー ショーガッコー サンネンセーグライヤツロー。  
もう 小学校 3年生ぐらいだったろう。

モー ソノコロ イキヨッタバイ。{笑} (A ウーン)  
もう その頃 行っていたよ。 {笑} (A うん)

ソイデ ソントキヤー アスコイ ヤド  
それで その時は あそこに 宿屋[を]

シチョッタゴタルバイ。アスコイ イエガ  
していたようだよ。 あそこに 家が

チョット カタマッチョッタバイ。  
ちょっと かたまっていたよ。

184A : ウン。カタマッチョッタ。(B ハイ) ソヤケー  
うん。かたまっていた。(B はい) そうだから

ンナー アスコワ X18 (B ハイ ハイ。X18チ)  
それなら あそこは X18 (B はい はい。X18と)

ソレカラ X19 (B ハー)  
それから X19 (B はあ)

ソレカラ ナンチューカナー アノ  
それから なんというかね あの

185 D : X20チューテ アルヤロ。 (A ハー?)  
X20といって あるだろう。 (A はあ?)

X20チューテ アルヤロ。  
X20といって あるだろう。

186 A : X20ワナー。 (D アレワ ヤッパ) スクナカッタ。  
X20はね。 (D あれは やはり) 少なかった。

(D スクナカッタ) ジューダンニ  
(D 少なかった) 重田の[ほう]に

(D ウン。 ジューダンニ) ハー。  
(D うん。 重田の[ほう]に) はあ。

ジューダン X20ヤッタ。 (D ウン) アノ ヤマンタノ  
重田の X20だった。 (D うん) あの 山の田の

187 C : ヤマンタヨネ。  
山の田よね。

188 A : アー。 {間} モー ホント ワスレチョルバイ。  
ああ。 {間} もう 本当[に] 忘れてるよ。

アノー X21ノ バーサンノ ヨメジョノ  
あの X21の おばあさんの お嫁さんの



アノー X21ノ オイサンガ アノー ヨメジョノ  
あの X21の おじさんが あの お嫁さんの

サトガ オークラノ X12チューチナー、 アッタガ  
里が 大蔵の X12とってね、 あったが

ソノヒトガ (D X11ヤ ナカッタ) ハー。  
その人が (D X11では なかった) はあ。

(D アッチワ X11ヤ ナカッタ) X11ワー  
(D あちらは X11では なかった) X11は

アノー アレタイ。 カサヤヤラ ソレカラ ナンヤラ (D ウン)  
あの あれだよ。 傘屋やら それから なにやら (D うん)

アッチワ カエッチョッタガナー。 モー イマ マター  
あちらは [こちらに]帰っていたがね。 もう 今 また

オーサカニ イッタトカ ナントカ イーヨッタ。  
大阪に 行ったとか なんとか 言っていた。

189D：ハー。 アノー ナンチューカ X11サンガタノ  
はあ。 あの なんとか X11さんのお宅の

チョット コッチノ ホー チューカ アノー  
ちょっと こっちの ほう というか あの

カシヤノ トコロノ コー イッタ トコロノ サンカクカラ  
貸家の ところの こう 行った ところの 三角から

コー ハイッタ トコロニ コー チョット ハイッタ トコロニ  
こう 入った ところに こう ちょっと 入った ところに

アノ ワラヤノ イエガ アッタヨネ。(A ハー)  
あの 葉ぶきの 家が あったよね。(A はあ)

アレガ アノー X21ノ オバサンノ  
あれが あの X21の おばさんの

トチ ユー ハナシオ キートルヨ。  
土地 [と]いう 話を 聞いているよ。

06↑07

190C : イマノ X22サンガタノ シタイ ミチオ  
今の X22さんのお宅の 下の 道を

(D ハイ) ズーット イキヨッタロー。(D ハー)  
(D はい) ずっと 行っていたろう。(D はあ)

191B : ホー。アーイッタ トコロオナー。  
ほう。ああいった ところをね。

192C : イク トキ イッショニ ガッコー イキヨッタヨ。  
行く 時 一緒に 学校[へ] 行っていたよ。

193D : ホー。X11チ イーヨリャセヤッタ。ソノヒト。  
ほう。X11とは 言ってはいなかった。その人。

194C : X11ヤ ナーイ。  
X11では ない。

福岡 07-2

195D : ヤッパー アノ X12チ イーヨッタ。  
やはり あの X12と 言っていた。

196C : X12ヤ ナーイ。 {笑} シモヤガ X17ヨネ。  
X12では ない。 {笑} 下家が X17よね。

197D : ハー ハー。  
はあ はあ。

198C : ソレカラ ンー ナンチュータカネ。 ナントカ  
それから うん なんといったかね。 なんとか

X23チョッタネー。 (B \* \* \* \* \*)  
X23といていたね。 (B \* \* \* \* \*)

ソーネー。 ロクジューモ  
そうね。 60も

199D : モー ヒチジューネンマエノ コトヨ。  
もう 70年前の ことよ。

200C : ヒチジュー。 ソーヤネー。  
70。 そうよね。

201B : アー。  
ああ。

202D : ソーヤ。 {笑} (A・B・C {笑})  
そうだ。 {笑} (A・B・C {笑})

203 C : アノコロワ ヨー マー トークマデ ガッコー  
あの頃は よく まあ 遠くまで 学校に

イッタコッタ オモウ。  
行ったことだ [と]思う。

204 D : ソーナー。  
そうね。

205 A : ソーシャー モー シミズマチニ アル X24チュー イエガ  
そうすると もう 清水町に ある X24という 家が

イッケン ノコッチョル。(B {笑})  
1軒 残っている。(B {笑})

206 C : ウン。 アチラー ナガイラシーネー モー。  
うん。 あちらは 長いらしいね もう。

207 A : アー。  
ええ。

208 C : ナガイヤネー。  
長いよね。

209 A : シー。 ソレカラ アノ X20チャー アンタ アスケー オッタ。  
うん。 それから あの X20といえば あなた あそこに いた。

シミズマチノ ムコーノ ホーニナ。 アー。  
清水町の 向こうの ほうにね。 ああ。

210B：ハー。 {間}

はあ。 {間}

211E：ショーガッコーワ ナナマガリオ コエテ ドコニ  
小学校は 七曲を 越えて どこに

イッテアッタンデスカ。

行っておられたのですか。

212A：イエ。 ソレワ アノー アノー アレデス。 ノーガッコーニ  
いえ。 それは あの あの あれです。 農学校に

ワタシャ イキヨッタモンジャケ。

私は 行っていたものだから。

213E：ハイ。

はい。

214A：オンガ オンガゲンノ グンリツノ ウレニ  
××× 遠賀郡の 郡立の うれに

(E ハー。 ウレニ) アッタンデス。

(E はあ。 うれに) あったんです。

215C：オリオチュー トコイ。

折尾という ところに。

216E：ハイ。 ア ソーデスカ。

はい。 ああ そうですか。

217A：ソイデ マー ア コッチノ アレデ \* \* \* ヤラ  
それで まあ あ こちらの あれで \* \* \* やら

X25サンヤラ ワタシガ ト アノー マー  
X25さんやら 私× と あの まあ

ニサンニン イッタンデスタイ。  
2、3人 行ったんですよ。

218E：アー ソーデスカ。  
ああ そうですか。

219A：ハーイ。  
はい。

220E：ナナマガリテ イーマスノワ ドチラノ ホーデスカ。  
七曲と いいますのは どちらの ほうですか。

221A：アノー オクダカラデスネ。  
あの 奥田からですね。

222E：ハイ。  
はい。

223A：モ ヤマー コシテデスネ。 ホンゴー ソレコソ  
もう 山を 越してですね。 本当に それこそ

コノクライナ ミチデデスネ。  
このくらいの 道ですね。

07↑

224 E : ハー。

はあ。

↑08

225 A : コー コー コー コー ナナマガリニ シジュー  
こう こう こう こう 七曲に 40

(E ハー) ナナマ ナナマガリチ

(E はあ) ××× 七曲と

226 C : シジューク。

49。

227 B : シジュークヤッタヤローナ。 ナナマガリチ ユーケ。  
49だったろうね。 七曲と 言うから。

228 C : ウン。 ナナマガリ。 {笑} (A・B {笑})  
うん。 七曲。 {笑} (A・B {笑})

229 B : ソートー マガッチョッタモンナ。 アノミチワ。  
相当 曲がっていたものね。 あの道は。

230 A : ハー。 ナガカッタバイ。  
はあ。 長かったよ。

231 B : アー ナガカッター。  
ああ 長かった。

232 E : カワチカラ ズーット ウエニ。  
河内から ずっと 上に。

233A：ハー。 オクダサニ イッテデスネ。(E ハタ)

はあ。 奥田へ 行ってですね。(E 畑)

オクダカラ ヤマー コス。(E ハイ) コシヨッタデス。

奥田から 山を 越す。(E はい) 越していました。

トーゲオ ヒトツ コシテデスネ。(E ハイ)

峠を 一つ 越してですね。(E はい)

ソシチ コー コー コー コー コー コー モー ソノー

そして こう こう こう こう こう こう もう その

ナンチュカナー。 ソノー ナンゲンモ ナイデスタイ。

なんというかね。 その 何軒も ないですよ。

アレガ (E ハイ) (C {笑}) アガル。

あれが (E はい) (C {笑}) 上がる。

ソレデ ナナマガリ ナナマガリチューテ (E ハー)

それで 七曲 七曲と (E はい)

イーヨッタ。 ソレデモ コーシテデスネ。

言っていた。 それでも こうしてですね。

234E：ハイ。

はい。

235A：ソシテ アノー ヒキ ヒキノオ トーッテ タケスエオ トーッテ

そして あの ×× 引野を 通って 竹末を 通って



モリワ モリガタニオバ アレオ コシテデスネ。  
森は 森ヶ谷を あれを 越してですね。

ノリマツサイ デヨッタ。  
則松のほうへ 出ていた。

236 E : ノリマツデスカ。(A ハー) ハー。  
則松ですか。(A はあ) はあ。

237 B : イヤ アノ ミチワ トーイカッタバイ。  
いや あの 道は 遠かったよ。

238 A : アー トーイカッター。  
ああ 遠かった。

239 B : アー。ワタシガ アノー モー コドモノ コロ ホレ ヤPPER  
ああ。私が あの もう 子どもの 頃 ほら やはり

アノー オリオマデ スミー ウリー イキヨッタ。  
あの 折尾まで 木炭を 売りに 行っていた。

240 A : ナニ ウリー イキヨッタ。  
なに[を] 売りに 行っていた。

241 B : オリオマデ スミ ウリニ。  
折尾まで 木炭[を] 売りに。

242 A : ホー。  
ほう。

243 B : ハーイ。 ワタシャー ダイブ イキマシタバイ。  
はい。 私は ずいぶん 行きましたよ。

244 A : ソーナ。  
そうね。

245 B : ハー。 アノー ウイタノ アレ コシタラー イケガ アッテナー。  
はあ。 あの ういたの あれ 越したら 池が あってね。

246 A : アー アー。  
ああ ああ。

247 B : アレ オソロシー モー。  
あれ[は] 恐ろしい もう。

248 A : アー。  
ああ。

249 B : ホーント。  
本当。

250 A : ウン。 ソレコソ  
うん。 それこそ

251 B : ハー。  
はあ。

252 A : オーミズノ オーミズノ トキワナー ナカノ ミゾガ  
大水の 大水の 時はね 中の 溝が

ツブレチナー。

埋まってね。

253 B：ソーヤッチョローネー。

そうだったろうね。

254 A：アー。

ああ。

255 B：ハー。 アノミチャー イマニモ カンガエリヤー

はあ。 あの道は 今にも 考えれば

256 A：ウーン。 ソシチナー (B ハー) ソンナ アノー

うん。 そしてね (B はあ) そんな あ

X26サンカタノ ヨメジョノ サトノ ニキカラ

X26さんのお宅の お嫁さんの 里の 近くから

コシヨッタモンナー。(B ハー) キツネガ デル チュチネ。

越していたものね。(B はあ) 狐が 出る と言ってね。

(B ハー ハー) オッタラ オトロシーヤラ。

(B はあ はあ) [狐が]いたら 恐ろしいやら。

(B ハー ハー) オーケナ イケヤロガ アレー。

(B はあ はあ) 大きな 池だろうが あれ。

257 B：ハー。 オーケナ イケ。 リョーホー アッテ

はあ。 大きな 池。 両方[に] あって

ナカ        ホンノ   コレクライ   チーサナ   ツツミ〔10〕ヤロガ。  
中〔には〕   ほんの   これくらい   小さな   池だろうが。

258 A：ハー。  
はあ。

259 B：ダイブ   ナガイケ。   アレモ。  
ずいぶん   長いから。   あれも。

260 A：ナガイ   ナガイ。  
長い   長い。

261 B：ハー。（A   ウン   ウン）   ソヤケ   アンタ   ウマガ   アンタ  
はあ。（A   うん   うん）   だから   あなた   馬が   あなた

オチコーダラ   ドーショーカ   ト   オモチカラ。  
落ち込んだら   どうしようか   と   思って。

262 A：アー。  
ああ。

263 B：ウン。   イッカケ   ヤッパ   ヤオーナカッタ。  
うん。   行きがけ〔は〕   やはり   容易ではなかった。

264 A：ウーン。  
うん。

265 B：イロイロナ   コトオ   カンガエテミタラ   アッタデスバイ   ホント。  
いろいろな   ことを   考えてみると   ありましたよ   本当。

266A：ウーン。

うん。

267D：アタシタチャ ソンナ クロー シチョランモンヤケ  
私たちは そんな 苦勞[は] していないものだから

ワカラン。 {笑}

わからない。 {笑}

268B：アンタタチャ アンター ユーックリ サレチョルケド  
あなたたちは あなた ゆるりと してらっしゃるけど

ワタシドモ ホント クローシチョリマスワ モー。

私など[は] 本当[に] 苦勞していますよ もう。

ソリャー モー (C・D ウーン) ユーニ イワレン。

それは もう (C・D うん) 言うに 言えない。

269D：ウーン。 モー ネー。 アンタチノ クローワ モー アンタ。  
うん。 もう ねえ。 あなたたちの 苦勞は もう あなた。

270B：ハー。

はあ。

271D：アンタチノ クローワ モー アンタ ヒトトリーノ  
あなたたちの 苦勞は もう あなた 一とおりの

クローヤ ナイケネ。

苦勞では ないからね。

272 B : バッテ

だけど

08↑09

273 A : オビタイケオ クダッテ デチナ チート クダッチ イキャー  
帯田池を 下って 出てね 少し 下って 行けば

アノー ソシャー アノー オカーサンガ サトヤケ。

あの そうすると あの おかあさんの 里だから。

274 B : ハー ハー ハー。

はあ はあ はあ。

275 A : アソコガネー。

あそこがね。

276 B : ハー。 ハイ ハイ。

はあ。 はい はい。

277 A : ソヤモンジャケー モー イク トキャー アレヤケンド  
それだもんだから もう 行く 時は あれだけれど

カエリカタ ナニカ (B ハー ハー ハー)

帰りがけ[に] なにか (B はあ はあ はあ)

マメオ イッチクレチョルカネ (B ハー ハー)

豆を 炒ってくれているかね (B はあ はあ)

カキモチ ヤイチクレチョルカ

かき餅[を] 焼いてくれているか

278 B : ハー。 チョード ハラガ ヘル  
はあ。 ちょうど 腹が 減る

279 A : チョードナー。  
ちょうどね。

280 B : ハラ ヘルノー。  
腹[が] 減るね。

281 A : ポシリ ポシリナ タブル タブル モドリヨッタ。  
むしり むしりね 食べ 食べ 戻っていた。

282 B : アー アー。 アラ ヤッパ チョット コッカラ  
ああ ああ。 あれは やはり ちょっと ここから

アノー マー アッコマデ アルイテミナサイネー。  
あの まあ あそこまで 歩いてみなさいね。

ノーガッコーマデ アルイタラ (A ウーン)  
農学校まで 歩いたら (A うん)

チョット トーイバイ。 ソリャー。 ヤッパー  
ちょっと 遠いよ。 それは。 やはり

283 A : ニジカンイジョー カカリヨッタ。  
2 時間以上 かかっていた。

284 B : ソージャロネー。 (A アー) ニジカングライ  
そうだろうね。 (A ああ) 2 時間くらい

カカルデスバイナー。

かかりますよね。

285 A : ソシテ コメガ サンジョー ムギガ ロッコージューナフーデ  
そして 米が 3 升 麦が 6 合というようなことで

(B ハー ハー) カルーチ イカナー (B ハー)

(B はあ はあ) 背負って 行かないと (B はあ)

ソノー ダイタイ イッシューカンノ ブンヤッタケ。

その だいたい 1 週間の 量だったから。

286 B : ハー ハー。 {間} イマー アンタ ソノ ナナマガリノ  
はあ はあ。 {間} 今は あなた その 七曲の [=は]

モー ホソーイ オーカタ ナッシマオーカ チューケナー。

もう 舗装に だいたい なってしまいそう というからね。

(A ナー) ナー。 マッタク ベンリニ ナリマシタガ。

(A ねえ) ねえ。 まったく 便利に なりましたが。

アノ ナナマガリノ ムカシノ ミチワ

あの 七曲の 昔の 道は

アンマリ トール シトワ オルマイガナー。

あまり 通る 人は いないだろうね。

287 A : オルメーナー。

いないだろうね。



288 B : ハー。 ドケナ コトカ シランケド  
はあ。 どのような ことか 知らないが

トーリャ スミア ト オモーガナ。  
通りは しない と 思うけどね。

289 A : ウーン。  
うん。

290 B : ウーン。 マーネ。 シャカイノ オンチュー モンナ  
うん。 まあね。 社会の 恩という ものは

アリガタイモン。 アーユー ミチガ  
ありがたいもの。 ああいう 道が

ツクゲナ アンタ。  
つく [=できる] ような あなた。

291 C : アンタモ ソンナ ハタライテルケド オカーサンモ  
あなたも そんな [に] 働いているけれど おかあさんも

ヤッパー ソートー ハタライチョルヤローネ。  
やはり 相当 働いているだろうね。

292 B : ハー。 ヤッパ オカーサンモ ハタライチョルデスワナ。  
はあ。 やはり おかあさんも 働いていますよね。

293 C : ウン ウン。  
うん うん。

294 B : ハー。 ソリャー ヤッパー ハタライチョルゴターアル。  
はあ。 それは やはり 働いているようだ。

295 C : オトーサン インモンヤケネ。  
おとうさん[が] いないものだからね。

296 B : ハー。 ドーシテ アンター ソリャー ヌメーヤッチャ。  
はあ。 どうして あなた それは //////////////

ソシテ ソノー ヒチネンカン ビョーキオ  
そして その 7年間 病気を

シチョッタゴトアルケネ。  
していたようだからね。

297 C : フーン。  
ふうん。

298 A : ホー。  
ほう。

299 B : ハー。 ソヤモンヤケネー。 ソノアイダニ モー トテモ  
はあ。 それだものだからね。 その間に もう とても

ビンボーシチョルヨネ。  
貧乏しているよね。

300 A : ホー。  
ほう。

301C：ウン。

うん。

302B：X27カラ マー ヨッポド マーネー (C {笑})

X27[が結婚して]から まあ よほど まあね (C {笑})

カタズイテ (A ウーン) ソレカラ ソレマデガネー。

かたづいて (A うん) それから それまでがね。

ヤッパー クローヤツツロー ト オモイマスバイ。 エー。

やはり 苦労だっただろう と 思いますよ。 ええ。

303C：{笑} クローワ シランナ。 {笑} (D {笑})

{笑} 苦労は 知らないね。 {笑} (D {笑})

ワタシャ ナンニモ シラン。

私は なにも 知らない。

304D：クローワ ナーンモ ワカランモンヤケ。

苦労は なにも わからないものだから。

305B：モー アレヤッタラ アンタ ボシネンキントカ ナントカ イッテ

もう あれだったら あなた 母子年金とか なんとか いって

アゲナモン モラワルーケド アンタ トージワ ソゲナモン

あんなもの もらえるけれど あなた 当時は そんなもの

アリャセン アンタ。

ありはしない あなた。

306 C : ウーン。 ホントヨネ。

うん。 本当よね。

307 B : ハー ウン。 イマ アンタ オーキナ カオ シテ  
はあ うん。 今 あなた 大きな 顔[を] して

09↑10

ミンナ モライヨルケ アンタ ラク シヨルケ。  
みんな もらっているから あなた 楽[を] しているから。

(C {笑}) ソラー モー キビシーコトヤツタケ。

(C {笑}) それは もう 厳しいものだったよ。

イヤー マー ヨー ソヤケド ヨー  
いや まあ よく そうだけど よく

イキノビテキタ ト オモイマスバイ。  
生きのびてきた と 思いますよ。

ヨー マー (C {笑}) {間}

よく まあ (C {笑}) {間}

308 A : マー シカシ ソントキカラ カンガエリャー ヤッパ イマ  
まあ しかし その時から 考えると やはり 今

ラクナモンバイ。

楽なものだよ。

309 B : ハーイ。 ラクヤガ ホント ゴクラクヨ。 アンター。

はい。 楽だよ。 本当[に] 極楽よ。 あなた。

福岡 10-2

(A ハー) ナンタラカントラ ユーチ アンタ

(A はあ) なんとかかんとか 言って あなた

(A ハー) ヨー オーカタ マイニチノゴト アンター

(A はあ) よく おおかた 毎日のように あなた

コドモガ デテイクガ アンター。 モー ガッコー ヤスミノニ  
子どもが 出ていくよ あなた。 もう 学校[は] 休みなのに

ヤッパー ナンカカンカ ユーチ イキヨルゴタルガ。

やはり なにかかにか 言って 行っているようだ。

(C {笑}) マー トニカクナ。

(C {笑}) まあ とにかくね。

310A : オヤワ ナカナカ。 モー ホント ヤスミチャナー  
親は なかなか。 もう 本当[に] 休みといえね

ボンカ ショーガツデナカリャ (B ハーイ ハイ)

盆か 正月でなければ (B はい はい)

ヤスミワ ナーカッタンジャケー。

休みは なかったんだから。

311B : ボンカ ショーガツデナカリャナー。

盆か 正月でなければね。

312A : アー。

ああ。

313B : ソレカラ マー アノー ウーン アキグチ ナッタラ  
それから まあ あの うん 秋口[に] なったら

マツリッチュガ アリヨッタネー。

祭りというのが あったね。

314A : アー アー。

ああ ああ。

315B : アーレワ シンルイジューガ ミナ ヨッテ  
あれは 親類中が みんな 集まって

ノミヨッタゴトアッタ。

飲んでいたようだった。

316A : ウン。 {笑} コレバッカリワ ソノー ミナ  
うん。 {笑} こればかりは その みんな

ヨリヨッタケナ。

集まっていたからね。

317B : ハー。 ソシテ アンタ マツリバヤシ ズーット  
はあ。 そして あなた 祭りばやし[が] ずっと

イキヨッチョロガ。(A ハー) ナンチノ ヒワ ドコ。

行っていたよね。(A はあ) 何日の 日は どこ。

ナンチノ ヒワ ドコ チ ヨー イキヨッタゴトアル。

何日の 日は どこ と よく 行っていたようだ。

318A：ウーン。

うん。

319B：イマワ ソーユー コトワ チョットモ ナイ。

今は そういう ことは 少しも ない。

320A：イマワ ソレデ。 ソレガ ソノー (B ハイ)

今は それで。 それが その (B はい)

マー ヤッパ ヒトツノ タノシミジャツツローナ。

まあ やはり 一つの 楽しみだったろうね。

321B：ハイ。

はい。

322A：キョーワ アッチノ クミ チ (B ハイ)

今日は あちらの 組 と (B はい)

アシタワ アソコノ クミ チ ユーテカラ。

明日は あそこの 組 と 言って。

323B：ハイ。 オフクロガ アンタ オクンチ〔11〕ノ

はい。 母親が あなた 御九日の

オミヤゲ マッチョル。 {笑} (A・C {笑})

おみやげ[を] 待っている。 {笑} (A・C {笑})

324A：モー ヤッパ モー モチト アマザケト ソノー

もう やはり もう 餅と 甘酒と その

(B ハイ ハイ) スシダケワ モーナ。(B {笑})

(B はい はい) 鮎だけは もうね。(B {笑})

カナラズ (B うん) ショッタモンナー。

必ず (B うん) 作っていたものね。

325 B : モー アンタ

もう あなた

326 A : ソイデ モー ナンチューカナ。 トーノ コージュクカラ

それで もう なのというかね。 ××× 上津役から

アレ ヒキノカラ ノリマツヘンナナ (B ハー)

あれ 引野から 則松あたりはね (B はあ)

カキノハズシチューチナー。(B ハー) スシオ ニギッチ

柿の葉鮎というそうだね。(B はあ) 鮎を 握って

(B うん) カキノ ハニ ツツンデナ (B ハー)

(B うん) 柿の 葉に 包んでね (B はあ)

10↑11

ソレオ モー アレナ モローチ ショッタガナー。

それを もう あれね もらって 作っていたけどね。

(B うん) ツカンデ イー。

(B うん) くっつかなくて いい。

カキノ ハワ。(B ハー) ハー。

柿の 葉は。(B はあ) はあ。



327 B : アー アー。 ツクマイ ホソートナー。 カキノ ハワナー。  
ああ ああ。 くつつくまい 本当にね。 柿の 葉はね。

ギザギザガ ナイケー。  
ぎざぎざが ないから。

328 A : ソジャケー モト (B ウン) ジューバコヤラ ナンヤラ  
それだから 昔 (B うん) 重箱やら なんやら

(B ハイ) ショッツロー。 (B ハー)  
(B はい) 入っていたろう。(B はあ)

ケンド アゲナンナラ アレヤケド  
だけど あんなものなら あれだけれど

カキノハズシノヨーナ モン ソノママ ヤッテ  
柿の葉脂のような もの[は] そのまま [人に]やって

モー (B ハー) モドシモ ア アゲ センデ  
もう (B はあ) 返すことも × あのように しなくて

イージャロー。(B ウン)  
いいだろう。(B うん)

ジューバコモ ジキ モドサニャデケンケナー。  
重箱も すぐ 返さなければいけないからね。

329 B : ソーヤナー。 ソリャ イーナー。  
そうだね。 それは いいね。

330 A : ナカナカ アレ ショッタラ (B ウン)  
なかなか あれ[を] [重箱に]していると (B うん)

タランモン。 モー ノリマツカラ ヒキノニモ  
[数が]足りないもの。 もう 則松から 引野にも

バーサンガ イッチョッタケ アゲ  
おばあさんが [嫁に]行っていたから あのように

ショッタガ。 モー カキノハズシジャー。   
していたよ。 もう 柿の葉鮎だね。

331 B : ハー ハー。  
はあ はあ。

332 A : ウーン。  
うん。

333 C : ウチャ コッチ キチ ハジメテ ヨバレタンヨ。  
私は こっち[に] 来て 初めて ごちそうになったのよ。

334 B : ホー。  
ほう。

335 C : コレガ カキノハズシ チ ユーテ。 (B ハー) {笑}  
これが 柿の葉鮎 と 言って。 (B はあ) {笑}

336 A : モー カナラズ (B ハー) カキノハズシオ クレヨッタヨ。  
もう 必ず (B はあ) 柿の葉鮎を あげていたよ。

福岡 11-4

337 B : ネー。 ソリャ ホント イー カンガエヤ。  
ねえ。 それは 本当[に] いい 考えだ。

338 A : チョード エー クガツノ ココノカカナ。  
ちょうど ええ 9月の 9日かな。

339 B : ハー ハー。  
はあ はあ。

340 A : マツリワ。  
祭りは。

341 B : ナンチャッタカナー。  
何日だったかな。

342 C : クガツヤ ナイ。  
9月では ない。

343 A : カワチワナー。  
河内はね。

344 B : ハー。 カワチワ オソカッタ。  
はあ。 河内は 遅かった。

345 A : ジューガツノ ニジュークンチ。  
10月の 29日。

346 B : ハー。 ナンカ アノー イネー アンタ アレ コドモノ コロ  
はあ。 なんか あの 稲を あなた あれ 子どもの 頃

アンター アノー マー カッタ イエモ アルゴトアッタ。  
あなた あの まあ 刈った 家も あるようだった。

(A ハー) アリヨッタゴトモアッタ。

(A はあ) あったようでもあった。

347A : ソヤケド ソレカラナー。  
そうだけど それからね。

348B : ウン。  
うん。

349A : アンマリ ニジュークンチワ チョード (B ハー ハー)  
あまり 29日は ちょうど (B はあ はあ)

イネノ アレ スル トキジャケー チュチ  
稲の あれ[を] する 時だから といって

クガツノ アラ ジューゴンチ アノー アラタメタンタイ。  
9月の あれは 15日[に] あの 改めたんだよ。

(B ハー ハー) ハー。(B ソレデ ヒニチ)

(B はあ はあ) はあ。(B それで 日にち)

モトワ ニジュークンチャッタケナ。  
昔は 29日だったからね。

モー ソラー エー マツリモ セニヤイケン チュー  
もう それは よい 祭りも しなくてはいけない という

福岡 11-6

イネャ ホシチョラー アメガ フルバイ チ ユーフーニ。  
稲を 干してたら 雨が 降るよ と いうふうに。

350 B : ハー ハー。

はあ はあ。

351 A : ソレカラ モー セワイガルヨッタ。

それから もう 忙しがっていた。

352 B : ハー。

はあ。

353 A : ソシタラ マー キョーギショー チ。 ジューゴンチニ。

そうしたら まあ 協議しよう と。 15日に[なった]。

354 B : ハー。

はあ。

355 A : モー ホカノ マツリサント サシアワン[12]ゴトナー。

もう ほかの 祭りと 重ならないようにね。

356 B : ハー。

はあ。

357 A : アノー ノリマツガターヤラ アッチガターガ

あの 則松のほうやら あっちのほうが

ジューガツノ ココノカ トーカ チューヨーナフーデ

10月の 9日[か] 10日 というようなふうで

福岡 11-7

(B ハー ハー) アッタンジャケナー。(B ハー)

(B はあ はあ) あったのだからね。(B はあ)

ソレット サシアワンゴトー ソノー (B ハー)

それと 重ならないように その (B はあ)

マー ジューガツノー ジューゴンチカ ニジューゴンチカ

まあ 10月の 15日か 25日か

チュナフーデ (B ハー ハー)

というようなふうで (B はあ はあ)

ソリャ モー ホント ワシノ ホーガ オモイタッチ

それは もう 本当[に] 私の ほうが 思い立って

カイカクシタンジャケナー。

改革したのだからね。

358B : ハー。ソーヤナー。

はあ。そうだね。

359A : ウーン。フーント アノ ジューガツノ アレー

うん。 本当[に] あの 10月の あれ

ニジュークンチ ハチンチ クンチノ ヒワ

29日 8日 9日の 日は

イネカンノ マッサイチューデナ。

稲刈りの 真っ最中でね。

福岡 11-8

360 B : アノコロワ ホント ヤッパー  
あの頃は 本当[に] やはり

イソガシカッチョローナー。

忙しかっただろうね。

11↑

## 福岡県北九州市1981注記

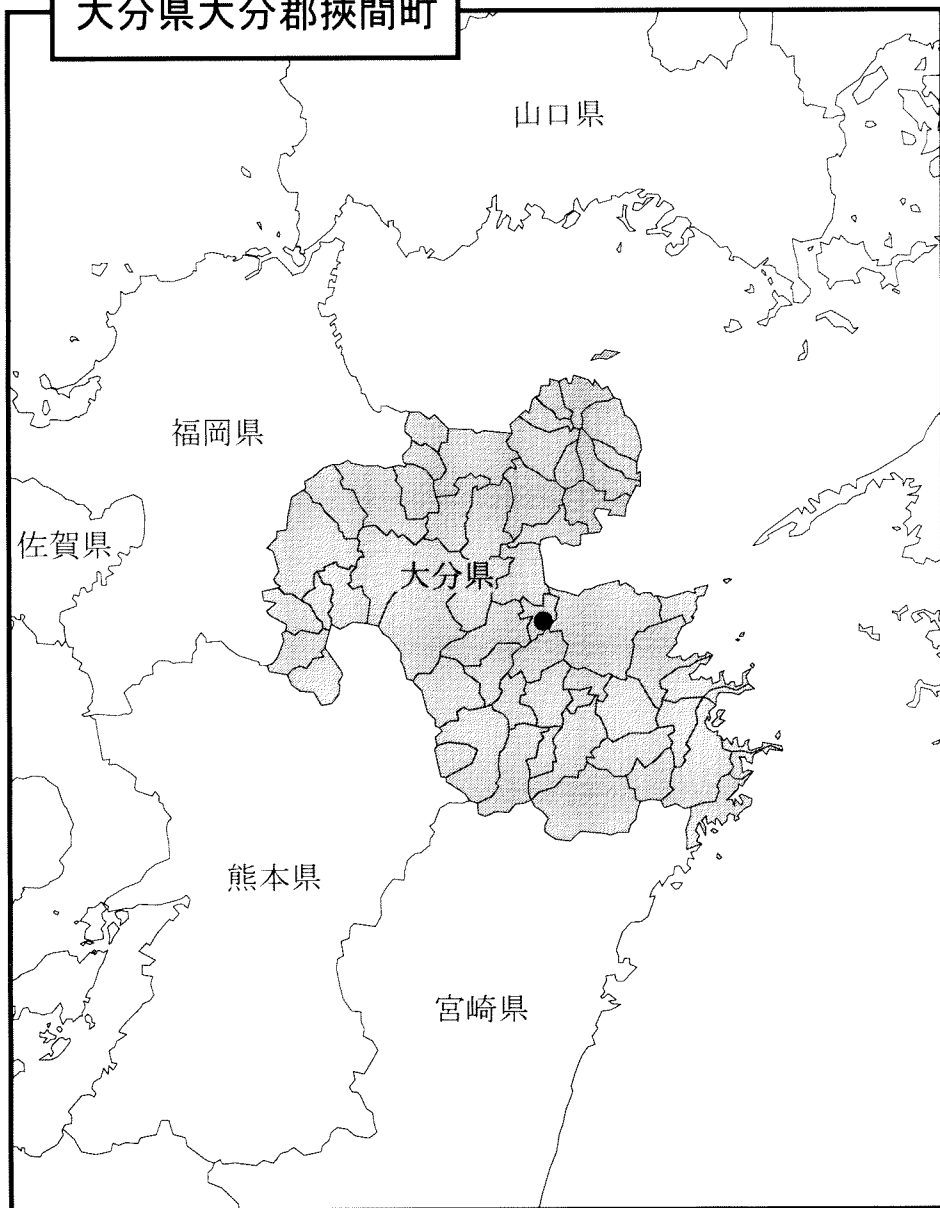
- 〔1〕 イミッタ  
「イミル」の過去形。ものが増える。多くなる。だんだんに増やす。
- 〔2〕 ハヨ  
急いで。急ぎ慌てて。
- 〔3〕 アラーマシ、アラマシ  
粗雑なさま。ぞんざいなさま。
- 〔4〕 オシオイトリ  
「御潮斎」とは、海水で清めること。また、その海水。「御潮斎とり」とは、その海水を海から汲んでくること。正月・祭礼だけでなく、日常でも、手桶に海水を汲んできて家の内外などにまいて清める。
- 〔5〕 ソレナコトイ  
「レ」は「ゲ」になるべきところ。ソゲナコトイ。そのようなことに。
- 〔6〕 アサバキ  
麻履き。麻縄を編んで作った履き物。
- 〔7〕 ハタ  
畑。地名。貯水池がある。
- 〔8〕 サイ  
のほうへ。
- 〔9〕 シャン  
さん。様。
- 〔10〕 ツツミ  
池。沼。
- 〔11〕 オクンチ  
御九日（おくにち）のこと。9月9日。この日を氏神の祭礼日にすることが多いため「お」をつける。九州地方では祭礼日を「くんち」と言う。
- 〔12〕 サシアワン  
重ならない。「サシアウ」とは、「行事や物事が同時に重なる」の意。



## **Ⅱ．大分県大分郡挾間町**

### **1978**

大分県大分郡挾間町



## 大分県大分郡挾間町1978話者・担当者

### 「各地方言収集緊急調査」

話者	小野 チエノ
	小野 百人
	木村 ウメ
収録担当者	野崎 邦康
文字化担当者	野崎 邦康
共通語訳担当者	野崎 邦康
解説担当者	野崎 邦康

(敬称略 項目別50音順)

### 「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	日高 貢一郎
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

## 大分県大分郡挾間町1978解説

### 収録地点名

おおいたけんおおいだぐんはさ ま まちに  
大分県大分郡挾間町谷（現・大分県由布市挾間町谷）

### 収録地点の概観

#### 位置

挾間町は、大分県の中部に位置し、南は野津原町、北は別府市、東は大分市、西は庄内町に接する。

#### 交通

挾間町は、大分駅から久大本線で約20分、向之原駅または鬼瀬駅下車。バスの場合、始発地大分市より約40分で地区の中心部に達する。

#### 地勢

挾間町は、起伏に富んだ地形で、町内には東西に大分川が流れている。

#### 行政区画

1954(昭和29)年、谷村・挾間村・由布川村・石城川村が合併して挾間村となり、1955(昭和30)年、町制を施行して挾間町となる。挾間町は大きく5大字(小野・篠原・筒口・谷・鬼崎)に分かれ、15の集落で形成されている。

#### 戸数・人口

1978(昭和53)年3月現在、挾間町の世帯数2,820戸、人口10,995人。

#### 産業

面積140km<sup>2</sup>中、耕地が326haあり、米作を中心とする農村地域であるが、第二種兼業農家が3分の2、非農家が3分の1を占めている。

### 収録地点の方言の特色

#### 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

大分県の方言は、肥筑方言・薩隅方言に対立して豊日(豊前・豊後・日向)方言として一括されている。東は瀬戸内に面して言語・文化にその影響が認められ、一般に、県民は、九州においてはアクセント面・文法面ともに共通語にもっとも近いという意識を有しているようである。

## 音韻

- (1) 連母音「アイ」が「エー」に, 「オイ」が「イー」または「エー」に発音される。また, 「ウイ」「ウィ」は「イー」に発音される。

アケー (赤い)

ツイー (強い)

ネミー (眠い)

- (2) 連母音「エイ」が「イー」と発音されることがある。

ミー (姪)

- (3) 共通語の「せ」が「シェ」, 「ぜ」が「ジェ」に発音される。しかし, 若い世代では消滅している。

シェケン (世間)

カジェ (風)

- (4) オ段長音の開合の区別が聞かれることがある。

「オー」←「アウ」

コーチ (←買うて) (買って)

モータ (←舞うた) (舞った)

「ウー」←「オウ」

オムーチョル (←思うちよる) (思っている)

ウーカジェ (大風)

キューワ (今日は)

- (5) 四つ仮名の使い分けは, 早くに「ジ」と「ヂ」の区別を失い, 現在では「ズ」と「ヅ」の区別も音韻上の対立を失っている。

- (6) 清音「ツ」を「トゥ」と発音する年配者が多く見られる。

ナトゥカシー (懐かしい)

モチトゥキ (餅つき)

- (7) 合拗音「クッ」「グッ」が聞かれることがある。

クッシ (菓子)

クワイギ (会議)

グワイコク (外国)

ハチグッツ (8月)

- (8) 「ザ」「ズ」「ゼ」「ゾ」の音を、それぞれ「ダ」「ドゥ」「デ」「ド」と発音する傾向が大分県全域に見られる。

ダブトン（座布団）

ドゥイブン（ずいぶん）

デンデン（全然）

ドーキン（ぞうきん）

- (9) 長音を短く発音することがある。

オイタ（大分）

トテミー（←問うてみい）（尋ねてみろ）

スチョル（←吸うちょる）（吸っている）

- (10) 促音の脱落が見られる。

イテ、イチェ、イチ（行って）

カテ（←借って）（借りて）

- (11) 連声の現象が見られることがある。

サンニョー（算用）

ホンノ ヨム（本を読む）

エンニョーギョギョー（遠洋漁業）

- (12) 語によって、「シ」を「ヒ」、「ソ」を「ホ」と発音することがある。

ヒチ（七）

ヒタシー（親しい）

ホイデ（それで）

ホッカラ（そこから）

## 文法

- (1) 上二段活用動詞は、下二段に活用することがある。

オケン（起きない）

オケチ（起きて）

オケタ（起きた）

オクル（起きる）

オキー（起きろ）

オキュー（起きよう）

- (2) 上一段活用動詞・下一段活用動詞は、ラ行五段に活用する。ただし、連用形が促音便にならない点で、完全にラ行五段化しているわけではない。

キラ<sup>ン</sup> (着ない)

キタ<sup>ン</sup> (着た)

キル (着る)

キレ (着ろ)

キロー (着よう)

ネラン (寝ない)

ネタ<sup>ン</sup> (寝た)

ネル (寝る)

ネレ (寝ろ)

ネロー (寝よう)

- (3) 格助詞の「を」「は」、接続助詞の「ば」などは、前に来る名詞や動詞と融合することが多い。

コリュー (これを)

カミョー (紙を)

アキャー (秋は)

アリャー (あれば)

クリャー (来れば)

語の末尾がア段、ウ段、オ段の場合は、長音に発音される。

カソー (傘を)

カサー (傘は)

ハロー (春を)

ハラー (春は)

ソコー (そこを)

ソカー (そこは)

- (4) 使役の助動詞、受身・状況可能・自発・尊敬の助動詞は、「スル」「サスル」「ルル」「ラルル」である。

イカスル (行かせる)

カカルル (書ける)

ミラルル (見られる)

オケラルル (起きられる)

ウケラルル (受けられる)

- (5) 「キル」は能力可能, 「ルル」「ラルル」は状況可能を表す。

ヒトリデ タチキル (一人で立てる)

クサッチョルキー クワレン (腐っているから食べられない)

ジューハッサイミマンワ ミラレン (18歳未満は見られない)

- (6) 一段動詞が可能動詞化した形, および, 五段動詞の可能動詞形にさらに「ルル」がついた形が, 主観的判断による可能を表す。

オナカガ イッパイデ モー タベレン

(おなかがいっぱいでもう食べられない)

バスニ コレイジョーワ ノレレン (バスにこれ以上は乗れない)

- (7) 進行態を表す「ヨル」と存続態を表す「チョル」が使い分けられる。両者がともに「チョル」で表される場合もある。

ハシリヨル (走っている) 〈進行〉

モー ハシッチョル (もう走っている) 〈存続〉

ア ハシッチョル (あ、走っている) 〈進行〉

- (8) 断定の助動詞には「ジャ」「ヤ」がある。伝統的には「ジャ」であるが, 若年層, 特に女性においては「ジャ」は聞かれない。

ソージャ (そうだ)

メイゲツヤ (名月だ)

- (9) 推量は「終止形+ロー」で表す。

アルロー (あるだろう)

ヨガ アケンロー (夜が明けないだろう)

- (10) 意志は「未然形+ロー」で表す。

デロー (出よう)

- (11) 尊敬語「ナサル」の命令形は, 「ナハリー」「ナリー」「ナイ」「ナンナ」となる。

キチミナハリー (来てみなさい)

キチミナイ (来てみなさい)



- (12) 原因・理由を表す接続助詞には「キー」、逆接の接続助詞には「ケンド」がある。

ヨメジョ イタキー（嫁 [に] 行ったから）

イーヨッタキ（言っていたから）

ハンタイシタケンド（反対したけれど）

- (13) 接続助詞「て」は「チェ」「チ」「テ」となる。

ショワシチ（世話をして）

カワッチシモータ（変ってしまった）

- (14) 「ウチ」が一人称代名詞として用いられる。

（以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿、および、『大分県文化財調査報告 第70輯 大分県の方言』（大分県教育委員会、1985年）によるものである。）

## 大分県大分郡挾間町1978凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

### 文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が方言談話音声の文字化、下段がその共通語訳である。ただし、方言の語形と共通語の語形が必ずしも1対1で対応しない場合もあり、方言の語形と共通語訳とがずれている場合もある。

方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造などは、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとられず、読みやすさ、意味の取りやすさを優先して処理をした部分がある。

### 発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中に、話し相手のあいづちや同じ単語の繰り返しなどが入る場合もある。

### 発話番号 <半角>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

### 話者記号 <全角>

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1 A

### 固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X1, X2, X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X1, X2, X3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

### 記号

#### 。(句点) <全角>

文字化については、ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所に句点を打った。ただし、実際の発話では、一文の終わりがわかりにくい場合もある。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス      ソーデス

そうです。      そうです。

#### 、(読点) <全角>

文字化については、基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所に読点を打った。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、

意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケイトイテ？

預けておいて？

↓ 〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタンダナー↓

よく やったんだなあ。

( ) 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時に同意を示したり、さえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……)のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。( )の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、( )内のあいづちと、独立した発話として扱ったあいづちに近い発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑い、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

\*\*\* <全角>

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

/// <全角>

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」なんですね。

[ ] <全角>

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

= <全角>

[ ] 内の＝は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| | <全角>

注意書きなど。

例：| A に対して |

[ ] <全角>

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[ ] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサノオモチ [1]

## 音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある「再生」の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

## CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「大分12-1」はCDトラック番号が12で、その1ページ目ということである。「大分12-1」「大分12-2」……「大分12-5/13-1」……「大分23-4」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑12, 12↑13, ……22↑23, 23↑のように表示される。

第18巻のCD（67分11秒）には、大分県大分郡挾間町の談話、【昔の結婚式、正月の思い出、昔の節句】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間：分：秒
12	p. 106・ℓ. 1	p. 110・ℓ. 13	00：02：04
13	p. 110・ℓ. 15	p. 116・ℓ. 19	00：02：02
14	p. 117・ℓ. 1	p. 122・ℓ. 17	00：02：02
15	p. 122・ℓ. 19	p. 124・ℓ. 7	00：00：28
16	p. 124・ℓ. 9	p. 130・ℓ. 15	00：02：00
17	p. 130・ℓ. 15	p. 136・ℓ. 13	00：02：02
18	p. 136・ℓ. 15	p. 143・ℓ. 7	00：02：00
19	p. 143・ℓ. 9	p. 148・ℓ. 3	00：01：29
20	p. 148・ℓ. 5	p. 154・ℓ. 1	00：01：59
21	p. 154・ℓ. 3	p. 159・ℓ. 19	00：01：59
22	p. 160・ℓ. 1	p. 166・ℓ. 11	00：01：59
23	p. 166・ℓ. 13	p. 169・ℓ. 15	00：00：54
計			00：20：58

## 大分県大分郡挾間町1978談話

収録地点 おおいたけんおおいたぐんはき まちたに 大分県大分郡挾間町谷 おおいたけん ゆ ふ し はき まちたに (現・大分県由布市挾間町谷)

収録日時 1978(昭和53)年10月24日, 26日

収録場所 大分県大分郡挾間町小野字阿鉢 話者 A 氏自宅

話題 昔の結婚式, 正月の思い出, 昔の節句

話者

A	男	1906(明治39)年生	(収録時72歳)	農業
B	女	1909(明治42)年生	(収録時69歳)	農業
C	女	1899(明治32)年生	(収録時79歳)	農業, 商店

調査者

男	(収録談話中に発話なし)	高等学校教諭
---	--------------	--------

収録時間 (CD) 20分58秒

なお、「各地方言収集緊急調査」の報告書として、『大分県文化財調査報告 第70輯 大分県の方言』(大分県教育庁文化課編集・大分県教育委員会発行, 1985(昭和60)年3月29日)が作成されている。

【昔の結婚式、正月の思い出、昔の節句】

話し手

- A 男 1906(明治39)年生 (収録時72歳)  
B 女 1909(明治42)年生 (収録時69歳)  
C 女 1899(明治32)年生 (収録時79歳)

- 1 B：ヤッパー ホントー ジダイノ ナミト ユータ モンノ、  
やっぱり 本当[に] 時代の 波と 言った ものの、

↑12

ホントー カワッチシモータ[1]ワナ。  
本当[に] 変ってしまったよね。

- 2 C：カワッタナ。  
変わったね。

- 3 B：へー ヤッパシ ホントー カワッテシマッタワノー、  
ええ やっぱり 本当[に] 変わってしまったよね、

ホント。  
本当[に]。

- 4 C：モト アンタ モー、ホテー[2] ムカイ イチ  
以前[は] あなた もう、そして 迎えに 行って

シキチューチ イヤー[3]、 モー イマワ ダーレデモ ミンナ、  
[結婚]式と いえば、 もう 今は だれでも みんな、



大分 12-2

モー アル ヒトワ オル ヒトワ スルケン、  
もう ある 人は いる 人は するけれど、

モトワ アンタ アノー、 ケッコンノ シキ、  
以前は あなた あの、 結婚の 式、

アン トリアワセワナー、 チャーット モー ナンジャー、  
あの 取り合わせはね、 きちんと もう なんだ、

オンナン オゴ オーゴ〔4〕、 オトッコノ オトゴ〔5〕チ、  
女の子は ×× 長女、 男の子は 末子と〔決まっています〕

オシャクニン〔6〕ワ ターント モー ソコニ  
お酌人は ちゃんと もう そこに

ソロエン カギリニャ センジャッタ。  
そろえない かぎりには しなかった〔＝式が始まらなかった〕。

5 A：ソージャー。  
そうだ。

6 C：モー イマ バーサンデン ムスメデン ナンデン  
もう 今〔は〕 おばあさんでも 娘でも だれでも

アリアイジカラニ コー ショルゴタル。  
間に合わせで〔よいということ〕で こう しているようだ。

7 A：ソージャー。 アリガ ヤッパー ムカシノ  
そうだ。 あれが やっぱり 昔の

大分 12-3

ケッコノ シキタリジャッタンジャローナ。  
結婚の しきたりだったのだろうね。

8 C：ソージャー シキタリジャッタンジャナ。  
そうだ しきたりだったのだね。

9 A：イチバン スエッコノ、 オトッコノ スエッコト、  
いちばん 末っ子の 男の子の 末っ子と、

ソレカラ オナンコン スエッコ。  
それから 女の子の 末っ子。

10 C：オナンコン オーゴ、 オーゴジャ。  
女の子の 長女、 長女だ。

11 A：オーゴカナ？  
長女かね？

12 C：オーゴジャ。  
長女だ。

13 A：オナンコン オーゴカ。  
女の子の 長女か。

14 C：オナンコノ オーゴ、 オトッコノ オトゴデナ。  
女の子の 長女、 男の子の 末子でね。

(A ハーン ハン) ホイテ ショッタ。

(A はあ はあ) そして [お酌人を]していた。

大分 12-4

15A：コンフタリガ オシャクトリジャッターナー。

この二人が お酌取りだったね。

16C：ソージャー。

そうだ。

17B：モー イマー アンタ イエデ センカラ〔7〕

もう 今は あなた 家で 〔結婚式を〕しないから

モー ミナ デアイジャーカラナー。 (C フーン)

もう みんな 出会い〔=外で行うこと〕だからね。(C うん)

フン ソゲナフーナ コトワ モー デンデン〔8〕

うん そんなような こと〔=習慣〕は もう 全然

18C：イエニ モライウクンノジャーケン

家に もらい受けるのだから

コー イエジ シタラ コー ヨサソーナヨーニ アルケドナー。

こう 家で したら こう よさそうに 思うけれどね。

19A：ソージャ。

そうだ。

20C：コレ ムカシビトン グチカモシレンケド。

これ〔は〕 昔の人間の 愚痴かもしれないけれど。

(A {笑}) {間}

(A {笑}) {間}

マー アンタダチマジワ イエジャッタケンナ。  
まあ あなたたち[の頃]までは [結婚式は]家だったからね。

21A : アー ワシガ モロー トキャ オマエ {笑}  
ああ 私が [嫁を]もらう 時は あなた {笑}

(C {笑}) ウチデナーエ[9]。

(C {笑}) 私の家でね。

22C : アー ソーヨ。  
ああ そうよ。

23A : ハー。 アンタガタン X1サンガナーエ、  
ああ。 あなたの家の X1さん[=Cの夫]がね、

(C {笑}) {笑} アン ナカモッチャッタデ。 {笑}

(C {笑}) {笑} あの 仲人だったんだよ。 {笑}

24C : ソージャー。 {笑}  
そうだ。 {笑}

12↑13

25A : バーサン[10] モラウ トキャ X1サンガ  
おばあさん[を] [嫁に]もらう 時は X1さんが

ヨーイ オマーイ ドゲー スンノカー チューチ  
「おい おまえ どう するのか」 と言って

オコリヨッタ。(C {笑}) {笑}

怒っていた。(C {笑}) {笑}

大分 13-2

ドゲー シュー タチ オラ オマエ、  
「どんなに しょう と言ったって 私は あなた、

ヘイタイニ イカンナラン ナンノ ユーチナーエ、  
兵隊に 行かなければならない」などと 言ってね、

ワシャ ホゲンジョー〔11〕 イーヨッタワ。{笑}  
私は でたらめばかり 言っていたよ。{笑}

26C：ハーン。

ああ。

27A：ホゲカラ ホゲオ イーヨッタキ  
でたらめから でたらめを 言っていたから

オコラルルバツカリ。  
怒られるばかり。

28B：モー アレジャー、アレカラ ゴジューネンニ  
もう あれだ、 あれから 50年に

ナルンジャキーナー。  
なるのだからね。

29C：ソーナー。

そうね。

30B：ユータモンノ ヤッパー、ウーン。  
そういうものの やっぱり、うん。

大分 13-3

31A : コトシャ オバン〔12〕 ドーデン オレ  
今年は おばさん どうやら 私

キンコンシキラシー〔13〕ワ。  
金婚式らしいよ。

32C : オメデト。 (A {笑}) {笑}  
おめでとう。(A {笑}) {笑}

33B : モー ケンド ホント。  
もう だけど 本当。

34A : ゴジューネン タッタ。  
50年〔も〕 経った。

35C : ホントナー。  
本当ね。

36B : ホント ヤッパ、 ジブンナガラ オモウワー ヤッパナー。  
本当 やっぱり、 自分ながら 思うよ やっぱりね。

37A : ワシガ アン、 ショーワサンネンニ パーサン  
私が あの、 昭和 3 年に おばあさん〔を〕

モロータキナー。 ホジャキー  
〔嫁に〕もらったからね。 だから

38C : サンネンジャッタカイナー。  
3 年だったかね。

大分 13-4

39A : ハー。 コトシガ ゴジューサンネンジャーキナ  
はい。 今年が [昭和]53年だからね

チョーズ キンコンシキト。 (C フン)  
ちょうど 金婚式と[いうことだ]。 (C うん)

ホイジ コナイダ アーン ヤクバン シ[14]ガ  
そして この間 あの 役場の 人が

シラビー キタゴタル。   
調べに 来たようだ。

40C : ハーン ソーカイ。  
ほう そうかね。

41A : ナンネンニ ケッコンシタカ チ。  
何年に 結婚したのか と[言って]。

42C : フン フン。  
うん うん。

43A : ソイチ ショーワサンネン チュータラ、  
そして 昭和3年[だ] と言ったら、

ドーデン キンコンシキンゴタルワ。  
どうやら 金婚式のようだよ。

ホージャキ ヒセー[15]デ オバン。  
だから 久しい[=長い]よ おばさん。

大分 13-5

44 C : ヒサイナ。(A {笑}) ホント ヒサイ。  
久しいね。(A {笑}) 本当[に] 久しい。

サイケン ソー ヒサイゴト オモーカイ。  
だけど そう 久しいように 思うかね？

45 A : アンマリ オモワン。イトゥンナカメー[16] (B・C {笑})  
あんまり 思わない。いつの間に (B・C {笑})

コゲン コチ ナッタンジャローカ ト オモチナー モー。  
こんな ことに なったんだろうか と 思ってね もう。

46 B : ゴジューネン タッタカラ アンタ ナー。  
50年 経ったから あなた ねえ。

47 A : フシギジ コタエン[17]ノヤーケドナー。  
不思議で たまらないのだけれどね。

48 C : ホント。 ハン。  
本当[に]。 うん。

49 A : ケン モー ヤッパ ショーワネーナ。(C ハハン)  
けれど もう やっぱり しょうがないね。(C はい)

ショーワネー。 マンゴンヤツ[18]ガ オマイ、  
しょうがない。孫が あなた、

モー ヨメイ イクキーナーエ。 {笑}  
もう 嫁に 行く[年になった]からね。 {笑}



50C：ソージャー。

そうだ。

51A：ヨメジョ〔19〕 イタキー モー、 モー ショーネーフ。

嫁〔に〕 行ったから もう、 もう しょうがないよ。

コッチガ ナンジャ、 キンコンニ ナンノジャワイ、

こちらが なんだ、 金婚〔式〕に なるのだよ、

ドゲー ユーテン。

どう 言っても。

52C：ホント。

本当。

53A：ハーン。 マンゴンヤター オマイ ヨメイ イター。

うん。 孫は あなた 嫁に 行った。

アンヤター オマイ、 ナンジャ、 ナンカ ジエイタイトカ

あの子は あなた、 なんだ、 なにか 自衛隊とか

ナントカ ユーニ イッチョチナ。（C フーン）

なんとか いうのに 行っていてね。（C ふうん）

54B：ショクバケツコンジャ。（C フーン） ジャーナー。 {笑}

職場結婚だ。（C ふうん） そうだね。 {笑}

（C フーン）

（C ふうん）

55A : ジエイタイノ シト オマイ  
自衛隊の 人と あなた

ヒッパリオータモンジャー。 ホイテ モー、  
引っぱりあった[=好きあった]ものだ。 そして もう、

ワシガ ハンタイシタケンド モー シヨネー。  
私が 反対したけれど もう しかたない。

56C : ソリャー モー トシヨリン マケジャ。  
それは もう 年寄りの 負けだ。

57A : アー マケジャ。 {笑} (C {笑})  
ああ 負けだ。 {笑} (C {笑})

ワシヤ マケタ。 (C {笑}) {笑}  
私は 負けた。 (C {笑}) {笑}

58B : ソーヤキ アン。  
そうだから あの。

59C : モー アンタガ カズガ スクナイキナーエ。  
もう あなたは [子どもの]数が 少ないからね。

60A : ウーン モー イマ マタ マンゴワナ、 タッタ フタリズツ  
うん もう 今 また 孫はね、 たった 二人ずつ

トウクッチカラ〔20〕 トウ克蘭ノジャーキナ。  
作って[=産んで] [あとは]作らないのだからね。

大分 14-1

ハーン ホヤカル モー シトメン[21]ワナ。  
うん そうだから もう どうしようもないよね。

↑14

61B：ヤッパー ミシケーヨーニアッチ ナゲー。  
やっぱり 短いようであって 長い。

ヤッパー ナゲーモンジャー、 ヤッパナー ヤッパー。  
やっぱり 長いものだ、 やっぱりね やっぱり。

ゴジューネン タツ チュー コチニャ ホント、  
50年 経つ という ことは 本当、

ヤッパー ズイブシ ナゲーナ ナゲーワナー。  
やっぱり ずいぶん 長いことは 長いよね。

62C：ジャー モー ホント、 アノヨト コノヨノ サカイニ  
そうだ もう 本当、 あの世と この世の 境に

オルゴタルケド、 アリガタイ コトニ (B ウーン)  
いるようだけど、 ありがたい ことに (B うん)

ウチャ アーン コドモガ ジューニンガ ヒトリモ  
私は あの 子どもが 10人が 一人も

カゲチョランヨ。  
欠けていないよ。

63A：アー ホージャナー。(C コン ホデカラ)  
ああ そうだね。(C 子の ほうで)

大分 14-2

ホイカラ オバンモ ヤッパー コドモニャ ヤッパー  
それから おばさんも やっぱり 子どもには やっぱり

メグマレチョルワ。

恵まれているよ。

64 C : ウーン ソレカラ (A {笑}) マゴガ ニジューゴニン アン。  
うん それから (A {笑}) 孫が 25人 いる。

65 A : ナニエ？  
なんだって？

66 C : マゴガ ニジューゴニン アル。  
孫が 25人 いる。

67 A : ニジューゴニン。(C ウーン) {笑}  
25人。(C うん) {笑}

コリャ マタ オイーノー。 {笑} (B {笑})  
これは また 多いね。 {笑} (B {笑})

68 C : ホレカラ ヒマゴガ モー、チョード ジューニンニ ナル。  
それから ひ孫が もう、ちょうど 10人に なる。

69 A : {笑} ヒマゴ？ (C フーン) ジューニン。  
{笑} ひ孫？ (C うん) 10人。

70 C : ジューニン。  
10人。

71A：ワー。

わあ。

72C：ホヤケン モー

だから もう

73A：コリャ マタ タマガッタ〔22〕。(B・C {笑}) {笑}

これは また びっくりした。(B・C {笑}) {笑}

へー ソゲン コトゥカ。

ほう そんな ことか。

74C：ソリャー マー (A フーン) トテン、

それは まあ (A うん) とても、

ワタシガ メオ ツブイタ〔23〕 トキニャ

私が 目を 閉じた〔=死んだ〕 時には

ワタシカタナイヤー ドゲー ナル コトカ。

私の家は どう なる ことか。

(B {笑}) {笑} (A {笑})

(B {笑}) {笑} (A {笑})

75B：オッサンモ ナニモ ナー。

おじさんも なにも なあ。

76A：アンマリ ケツタクソ ワリー コトゥー (B {笑})

あんまり 縁起 悪い ことを (B {笑})

大分 14-4

イヤー ワリーケンド、 シンダ トキャー オバン オマイ  
言うと 悪いけれど、 死んだ 時は おばさん あなた

ソリャー オマイ、 ダニ オラレンデ  
それは あなた、[身内が多くて]座敷に いられないよ

オバン。 {笑}

おばさん。 {笑}

77C : オランノヨ。 オラレンゴタルンヨ。

いないのよ。 いられないようだよ。

78A : ソンクレー キチミナイ[24]。(C フーン) {笑}

それほど[の身内が] 来てみなさい。(C うん) {笑}

モー ダニ オラルルモンジャネー コリャー。 {笑}

もう 座敷に いられるものではない これは。 {笑}

(B {笑})

(B {笑})

79C : ホケン X2ガー アンター アン ヒロメカテ、 ミンナガ

だから X2が あなた あの [新築の]披露の時、 みんなが

オバサン ホント オシーナ。 アンタダチ ショワシチ

「おばさん 本当[に] 惜しいね。 あなたたち[が] 世話して

リッパナ イエーオ タテタカ ト オモータラ

立派な 家を 建てたか と 思ったら

大分 14-5

マタ オマイ アレ ドーモ ナッチョランニ、  
また あなた あの どうも なっていないのに、

コワシチナーエ タトゥル チューケンド (A {笑})  
壊してね 建てる」 と言うけれど (A {笑})

イエー ソレガナ ワシ オモチ シテクレヨルンジャ。  
「いいえ それがね 私[のことを] 思って してくれているのだ。

アンタ コドモガ オーイ マゴガ オーイキ、  
あなた 子どもが 多い 孫が 多いから、

イマン ハナ[25]ン イエナラ ドーニモ ナランケド、  
今の 前の 家なら どうにも ならないけど、

コンダー X2ガ ヒローシチクルルキ、 アリガテー コトジャ  
今度は X2が 広くしてくれるから、 ありがたい ことだ

ト オモチ ワシャ オモーガナー チ、  
と 思って 私は 思うんだよ」 と[言えば]、

アー ソゲー オモチョラ ケッコージャナ チューチ  
「ああ そのように 思っていれば けっこうだね」 と言って

ワロータ。(A {笑})  
笑った。(A {笑})

ワタシャ ソゲー オモチョンノジャ。  
私は そのように 思っているのだ。

80A：ソリャ ソーじゃ。 モー オマイ アン マエン イエナラ  
それは そうだ。 もう あなた あの 以前の 家なら

オバン オラルラセンデー アレ。  
おばさん [弔問客は]いられやしないよ あれ[は]。

81C：オラー ハン。  
いない ええ。

82B：ソーリャ オラレン。  
それは いられない。

83A：タッタホーガ イー。 ダシキワ オマイ ヒトマシカ ナイ。  
立ったほうが いい。 座敷は あなた 一間しか ない。

84B：ウン。 ソリャー オラレン。  
うん。 それは いられない。

85C：ソージャー。  
そうだ。

86A：ウーン ソラー ヤッパー アンイエジャー ヤッパー  
うん それは やっぱり あの家では やっぱり

チョイト (C {笑}) ヤッパー ワリー。  
ちょっと (C {笑}) やっぱり [具合が]悪い。

14↑15

マー ヒマゴガ ニジューゴニンモ オッチミナイ、  
まあ ひ孫が 25人も いてみなさい、



大分 15-2

オマイ マゴンジョーガ マタニ スワル ワケ ネーガイ。  
あなた 孫たちが 股[=膝]に 座る わけ ないよ。

(B・C {笑}) {笑} コリャー モー トゥマラン。

(B・C {笑}) {笑} これは もう だめだ。

87C：マゴガ アンタ ニジューゴニンジャキ ナー。  
孫が あなた 25人だから ねえ。

ホシテ アイテガ ヒトーリモ  
そして [それぞれ]相手[=妻や夫]が 一人も

コー カゲチョランキ。  
こう 欠けてないから。

88A：ホージャー。  
そうだ。

89B：ハーン。  
ほう。

90C：コドモガ ジューニンジ ニジューニンジャロ。  
子どもが 10人で [夫婦だと]20人だろう。

91A：ホージャ。  
そうだ。

92B：フーン。  
うん。

93C：ホーカラ アンタ マゴガ モーナー、  
それから あなた 孫が もうね、

チョード アンタ ニジューゴニンジャケン、  
ちょうど あなた 25人だから、

アイテガ アルケン、ゴジューニン。  
[それぞれ]相手[=妻や夫]が あるから、50人。

94A：{笑} ゴジューニン。  
{笑} 50人。

15↑

—— 中 略 ——

95A：オバサン、ナニイテーン チカゴロ コラー  
おばさん、なにしても 近頃[は] これは

↑16

シノー[26]が ハヨ ナッタナー。  
[農作物の]取り入れが 早く なったね。

モー ジューガチー コラー イネジノ[27]ガ スンダガ モー、  
もう 10月で これは 稲の取り入れが すんだが もう、

アト フタトウキ スリヤー モー ショーガツガ  
あと 2か月 経てば もう 正月が

クンノジャガナーエ。  
来るのだがね。

大分 16-2

96C：ソー。

そう。

97A：オトロシイ イネトリガ ハヨ ナッタモンジャ モー。

おそろしく 稲刈りが 早く なったものだ もう。

98C：モー アータ、ナカン X3サントコワ キョー コメスリジャ。

もう あなた、中の X3さんのところは 今日は 米すりだ。

99A：コメスリカ。

米すりか。

100C：モミスリ〔28〕ジャ。

粳すりだ。

101A：アラ マー。 ケシカラシ ハヨー ナッタモンジャナ。

おや まあ。 驚くほど 早く なったものだね。

(B・C {笑}) {笑} フーン。

(B・C {笑}) {笑} ふうん。

102C：モー ナー ハヤイ。 ホント。

もう ねえ 早い。 本当〔に〕。

103A：モー ショーガツガ キテン、 ホジャーケンド

もう 正月が 来ても そうだけれど

タウェネー コチ ナッタケナー。

はりあいがない ことに なったからね。

大分 16-3

104C：ア ハーン。

ああ ええ。

105A：モー ムカシンヨーナ コター ネー。

もう 昔のような ことは ない。

ムカシャ ワシドー〔29〕 コドモン トキャナーエ

昔は 私たち〔の〕 子どもの 時はね

ショーガツー カズエチ マチヨットンジャーケンド。

正月を 〔指折り〕数えて 待っていたんだけど。

106C：モトワ アンタナー アノー オショーガトッチャー、

以前は あなたね あの お正月といえば、

マー ニジューシチニチ ロクニチゴロ、

まあ 〔12月〕27日 〔2〕6日頃、

オモチトゥキオ スリャ ソレカラ サキノ ニサンニチノ

お餅つきを すれば それから 先の 2、3日の

ナガイ コトガナー。

長い ことがね。

107A：ソージャ モチュ ツイチカラ ナカナカ

そうだ 餅を ついてから なかなか

ショーガツガ コンジナーエ。（C ソー）

正月が こなくてね。（C そう）

大分 16-4

ホヤケン ムカシャ モー アレ モチガナーエ、  
それだから 昔は もう あの 餅がね、

ヒンシャグルワ。 オマイ モチ ヨーキ ツケンデ  
つぶれるよ。 あなた 餅[を] たくさん つけなくて

オマイ、 ショーガツマジ、 クート、 クーッシマウチ  
あなた、 正月まで[に] 食べると、 食べてしまうと

オー、 (C {笑}) オッカノヤツガ オマイ  
おお、 (C {笑}) おかあさんが あなた

ソゲー モチ クヤー オマイ  
「そんなに 餅[を] 食べると あなた

ショーガツ シマイジャネーカ  
正月[には] なくなってしまうじゃないか」

チ イーヨッタ。 {笑} (B・C {笑})  
と 言っていた。 {笑} (B・C {笑})

アントキャー モチ クイトー ジ コタエンジナ。  
あの時は 餅[を] 食べたくて たまらなくてね。

108C : {笑} ナカナカ モーナー。  
{笑} なかなか もうね。

109A : ホイテ オマイ (B {笑})  
そして あなた (B {笑})

大分 16-5

110C：モー トゥカン コトワナー  
もう [餅を]つかない ことはね

イマーン ジューマンモ トゥコトウ、  
今の 10倍も つこうと[したが]、

イマ モー イットモ トウキャ、  
今[は] もう 1斗も つけば[いいほうだ]、

ソソコロワ モーナー。  
その頃は もうね。

111A：ソージャー。  
そうだ。

112C：シチハットモ トウコトウ ツイタノガ ソン、  
7、8斗も つこうと ついたのが その、

ソゲナフーニ、 ソノカワリ モー  
そんなふう[して]、 そのかわり もう

オセイボチ イヤー モー カガミノモチチュチナー。  
お歳暮と いうと もう 鏡餅といってね。

113A：ソージャー。  
そうだ。

114C：ドコンニ イクノモ ソン ソレオ、 イッコンドウクニ  
どこに 行くのも その それを、 1個ずつ

大分 16-6

テヌグイオ カテテカラ、(A ソージャー)  
手ぬぐいを 添えて、(A そうだ)

モッテイキヨッタケン マー ソトニ ダスノガ  
持っていったから まあ よそに あげるのが

オーカッタナ オーカッタケドナー。  
多かったのは 多かったけどね。

115A : ソージャー。 ショーガツアルキチ イヤー モー  
そうだ。 正月の年始回りと いえば もう

モチューー アレー カガミノモチチ イーヨッタナーエ。  
餅を あれは 鏡餅と 言っていたね。

(C ソージャ カガミ) アレオ オマエ  
(C そうだ 鏡) あれを あなた

ヒッカルーテ オマエ。 {笑} (C {笑})  
担いでいって あなた。 {笑} (C {笑})

ワシャ ヤッパー パーサンカテナ デーブン  
私は やっぱり おばあさん方には だいぶん

カガミノモチ モッチイッチ ソナエタ。  
鏡餅[を] 持って行って 供えた。

116C : ソージャー。 {笑}  
そうだ。 {笑}

117A : {笑} イマ ナーニュ モッチイクカ シラーン。

{笑} 今[は] なにを 持っていくか わからない[が]。

イマ ナニカ コータ モンノジョーコソ

今[は] なにか 買った ものばかりを

モッチイキヨルゴタル。

持っていていっているようだ。

118C : {笑} モー

{笑} もう

119A : ワンドーガ トキャ オマイー

私たちの 時は あなた

120C : フタリヨ、 オヤ アノナー。

二人用、 親 あのね。

121A : ソージャー。

そうだ。

122C : フタリ アル トコニャ フタカ アン

二人 いる ところには ××× あの

16↑17

ニマイ モッテイクンジャワエナー。

2枚 持っていくんだよね。

123A : ソージャー。 {笑}

そうだ。 {笑}



124C : {笑} オーキノト コマイノト ッチナー。

{笑} 大きいのと 小さいのと ってね。

ホイテ ソリー、 ナンカ オセイボ カテチ イキヨッタ。  
そして それに、 なにか お歳暮[を] 加えて 行っていた。

イマ モー ソンナ、 ソン アンタ モー  
今[は] もう そんな、 その あなた もう

イマワー アンタ、 モト ソノコロワー モー  
今は あなた、 以前 その頃は もう

オイシャ オテラニナ ソレオ モッテイカン コトニャ  
お医者[や] お寺にね それを 持っていけない ことには

イカレンヨーニ イーヨッタガ、 (A ソージャー)  
すまないように 言っていたが、 (A そうだ)

イマ オイシャ オテラニーニャ カガミノモチジャン  
今[は] お医者[や] お寺には 鏡餅など

モッテイク シャー コー (A モー)  
持っていく 人は こう (A もう)

モー ソリャー ゴインサンニ  
もう それは ご院家さん[=お寺の住職]に

キキャー ワカール。 (A・B {笑})  
聞けば わかる。 (A・B {笑})

大分 17-3

125 A : モー ソゲナ ソゲナ モナー デンデン ネー。  
もう そんな そんな ものは 全然 ない。

126 C : ネー。 {笑} (B {笑})  
ない。 {笑} (B {笑})

127 A : ソリャー モー デンデン ネー。 アー。  
それは もう 全然 ない。 ああ。

アー マー ホジャケンド ショーガツナーエ  
ああ まあ そうだけれど 正月ね

タノシカッタケンドナー。  
楽しかったけれどね。

128 C : ホント。  
本当[に]。

129 A : オバサンドーカタン キンジョニ イチ  
おばさんたちの家の 近所に 行って

ボン[30]ウチヤラ ゴムオ マエタリ、  
ぼん打ちやら こまを 回したり、

ホテ オキノツカハルジャ モー タカウォー アッコー  
そして 奥の塚原では もう ××××× あそこ

オキノズカハルジュ タコアゲバジャッタ。(C ソー)  
奥の塚原では 風上げ場だった。(C そう)

大分 17-4

アン ヒリー トコロン タジナーエ。  
あの 広い ところの 田でね。

130 C : ヒロカッタケンナー。  
広がったからね。

131 A : アッコガ モー タガ ヒルカッタモンジャキ。  
あそこが もう 田が 広がったものだから。

132 C : フーン。  
うん。

133 A : アッコンジョーニ イテ タコ アゲヨッタガナー。  
あそこばかりに 行って 風[を] 上げていたけどね。

134 C : ソージャー。  
そうだ。

135 A : アー。 ケン ダンダン コドモカル コー フトッテ、  
ああ。 けれど だんだん 子どもから こう 成長して、

ジューシチハチ ナッタ トコロ  
17、8[歳に] なった ところ

アサ アンタ ショーガツガ クリャナー。  
朝 あなた 正月が 来るとね。

136 C : ソー。  
そう。

137A : フツカン アサー オマイ  
二日の 朝は あなた

ワカキムカエ [31] ジャンナンノ ユーチ、  
若木迎えだなどと 言って、

138C : ソー ソー。 ワカ  
そう そう。 ××

139A : ヤメー イテ オマイ、 エダン キッタ キオ マー  
山へ 行って あなた、 枝を 切った 木を まあ

キッチキチ、 トッボン ハネー ソナエヨッタ。  
切ってきて、 庭の 端に 供えていた。

140C : ソー。 ヨッカ ヒニナ、 フクガリ。 ナー。  
そう。 4日[の] 日にね、 福刈り。 ねえ。

141A : ホンジャ コンダ フクガリ。 ナー。  
そうだ 今度は 福刈り。 ねえ。

ヨッカン アサー クリャー。 カー フツカン アサー  
4日の 朝が 来ると。 それから 2日の 朝は

アンタ ムカシャ ナエー ナエユミ シヨッタ。  
あなた 昔は ××× 縄作り[を] していた。

142C : ア ソー ソー ナニカナー。  
ああ そう そう なにかね。

大分 17-6

143A：ツノー ナイヨッタ。(C {笑}) アッハーン。

綱を になっていた。(C {笑}) ああ。

ウシュー ツカウニー アンタ、ツノー ノーチョカント  
牛を 使うのに あなた、「綱を になっておかないと

コンダ ゴガチ コマンドー トカ ユーチ。{笑}

今度は 5月に 困るぞ」 とか 言って。{笑}

144C：ホント アン。

本当 ああ。

145A：ホジャキ ショーガター イロイロ アッタンジャーケンド。

そうだから 正月は いろいろ あったんだけど。

146C：ガンジトゥワ モー ホント ガンジトゥノヨーニ チュチ、

元日は もう 本当 元日のように と言って、

モー ナンニモ センデ スミヨッタケドナー。

もう なにも しなくて すんでいたけれどね。

147A：ソージャー。

そうだ。

148C：フトウカワ モー アサ ハーイカラ、

二日は もう 朝 早くから、

カキゾメ セニヤトカ、 ワカキムカイニ イカニヤートカ。

書き初め[を] しないととか、 若木迎えに 行かないととか。

149A : ソー ソー。

そう そう。

150C : ワカミズオ ハイ クマニャトカ ユーテナー。

若水を 早く 汲まないととか 言ってね。

151A : {笑} ソージャー。

{笑} そうだ。

152C : ホイテ

そして

153A : ホイテ ウチドーワ グワンジトウ [32] ノ ヒワナー

そして 私たちは 元日の 日はね

リンボハン [33] ガ ミナ ヨッチ アーン

隣保班が みんな 集まって あの

モチュ ズート モッチ ヨッチ、 (C ウン)

餅を ずっと 持って 集まって、 (C うん)

17↑18

モチュー アンタ エーチ クーチ アンタ、

餅を あなた 焼いて 食べて あなた、

リンボハンガ アノー、 シンネンエンカイミタイナ コツ

隣保班が あの、 新年宴会みたいな ことを

シヨッタ。

していた。

大分 18-2

154 C : ホー ソーカイ。  
ほう そうかね。

155 A : ウチドーワナ。  
私たち[の頃]はね。

156 C : フン フン。  
うん うん。

157 A : グワンジトゥン ヒニ ミナ モチュ モッチ ヨッチ。  
元日の 日に みんな 餅を 持って 集まって。

158 C : アー ソーナ。  
ああ そうね。

159 A : ホイテ ソン モチュー ミーナジ イッショニ ヤイチナ。  
そして その 餅を みんなで 一緒に 焼いてね。

160 C : フーン。  
うん。

161 A : ホイテ ソンヒガ ソーン ミンナ アイサツ  
そして その日は その みんな あいさつ[を]

シヨッタモン。  
していたもの。

162 B : アレガ ショーガトゥラシカッタワナ。  
それが 正月らしかったよね。

163A：フン。

うん。

164C：フン フン。

うん うん。

165B：ホント。

本当。

166A：ホイテー オメデトーゴザイマス チューチカラ

そして 「おめでとうございます」 と言って

167B：ウチガ ココニ キチカラナ (C ウーン)

私が ここに [嫁に] 来てからね (C うん)

168A：ミナ アイサツ シヨッタ。

みんな あいさつ[を] していた。

169B：マワリコージナ。(C ホー)

持ち回りでね。(C ほう)

イエン マワリコージカラ アンター ショーガトウン

家の 持ち回りで あなた 正月の

グアンジトウン ヒワ モー ソーン オモチトカ、

元日の 日は もう その お餅とか、

ソーン ナンカ オショオケノ タイタ モンノ〔34〕ナー。

その なにか お茶受けの 煮た ものをね。



170 C : フン フン。

うん うん。

171 B : モッチ、モチヨッチ、

持って、持ち寄って、

172 C : ホー。

ほう。

173 B : ホイチ イチニチーン コー ショーガトゥラシュー タテタワイ。

そして 1 日 こう 正月らしく 過ごしたよ。

174 C : フーン。 ソゲ スンノワ ソレンブンナ

うん。 そのように するのは そのようなことは

ナカッタナ。

なかったね。

175 B : ウン アンブンナ ナカッタワー。

うん あのようなことは なかったよ。

176 A : ネーカナー。 ウン ウン。

ないかね。 うん うん。

ウチドー アレガ アリヨッタ。

私たち[のところでは] あれが あった。

177 C : ソーカイ。

そうかね。

大分 18-5

178A：ホイテー ショーガツガ コンダー ジューサンニチ ナルト  
そして 正月が 今度は 13日[に] となると

コンダ ダイジョーゴンサマ[35]ン オマトゥリジナ。  
今度は 大將軍[神社]様の お祭りでね。

179C：ソー ソー。  
そう そう。

180A：アレガ マタ オモシルカッタンジャー、 モー。  
あれが また おもしろかったんだ、 もう。

ウマト ウシノジョーガ ゴロゾロ ゴロゾロ ツズイチ  
馬と 牛たちが ぞろぞろ ぞろぞろ 続いて

マイリヨッチナー、 ハーン。  
お参りしていてね、 うん。

181C：ウシデン ウマデン オカシーノワ ヨノ ウチナ。  
牛でも 馬でも おかしいのは 夜の うち[に]ね。

182A：ソージャ ソージャ。 イーノワ ヨガ アケチカリ。  
そうだ そうだ。 いいのは 夜が 明けてから。

{笑} (B・C {笑})

{笑} (B・C {笑})

183C：ユタンデン カケチ、 キ ヨイノワ モー ヒルナー。  
布など[を] かけて、 × いいのは もう 昼[に]ね。

184 A : ソー ジャ ソー ジャー。 {笑}

そう だ そう だ。 {笑}

185 C : マイ リ ョ ッ タ ケ ド。

お 参 り し て い た け ど。

186 A : ホ イ テ ワ シ ドー コ ド モ ン ト キ ニ ャ ナ ン デ、

そ し て 私 た ち [が] 子 ど も の 時 に は な ん だ、

ダ イ ジ ョー ゴ ン サ メー イ チ ニ チ ジ ッ ペ ン グ レー

大 将 軍 [神 社] 様 に 1 日 10 回 ぐ ら い

マ イ リ ョ ッ タ。 (B {笑})

お 参 り し て い た。 (B {笑})

187 C : ア ッ ソー。 {笑}

あ ら そ う。 {笑}

188 A : ホ イ テ オ ヤ ジ カ リ ゴ セ ン ズ ツ モ ロ ー チ ナ。 (C ハー)

そ し て 父 親 か ら 5 銭 ず つ も ら っ て ね。 (C は あ)

ゼ ニ ュ ゴ セ ン モ ロ ー チ ャ ダ イ ジ ョー ゴ ン ニ マ イ ン ノ ジ ャ。

お 金 を 5 銭 も ら っ て は 大 将 軍 [神 社] に お 参 り す る の だ。

(C {笑}) ア ハ ホ テ ゴ セ ン ガ シ マ ユ リ ャ

(C {笑}) あ あ そ し て 5 銭 が な く な る と

マ タ ト リ カ エ ン ニ。 (C {笑})

ま た と り に 帰 る の だ。 (C {笑})

大分 18-7

アーン        ゴセンガ   モヌー   イーヨッタキーナー。  
あの[頃は]   5 銭が        ものを    いていたからね。

189C : ソーヨ。

そうよ。

190A : ゴセーン   モッチ、(C   フーン)   ソンカーリ  
5 銭        持って、(C   うん)        そのかわり

ジッペン   マイリャ        ゴジッシェンニ   ナルキナーエ。 {笑}  
10回        お参りすると   50銭に        なるからね。    {笑}

191C : ソー。 {笑}

そう。 {笑}

192A : ダイジョーゴンガ   チカカッタ。

大將軍[神社]が    近かった。

ジッペングレー   マイリヨッタ。    ホントジャー。  
10回くらい        お参りしていた。   本当だ。

ホーイテ   コンダー   ショーガトゥノ   ジューゴニチ   ナリヤー  
そして    今度は    正月の            15日[に]        となると

マタ   オヒマッサマ[36]   ジャンナンノナーエ    (C   ソー)  
また   お日待ち様だのなんだのね            (C   そう)

アッチカラニ   モー   オヒマチガ   マタ   ニヤコージナー。  
あって        もう    お日待ちが    また    にぎやかでね。

193C : オヒマチチャー アンタ ナー、  
お日待ちといえは あなた ねえ、

モー オトコシガ マイリャ、 ソーン オナゴシワ  
もう 男の人たちが お参りすれば、 その 女の人たちは

ソーン ダマエン ヒトワ、 モー モトワ モー  
その 座前の 人[の家に]は、 もう 以前は もう

キシャーット トマリヨッタケンナ。(A ソージャー)  
きちんと 泊まっていたからね。(A そうだ)

18↑19

フトンカラ マクラマデン チャーット モー  
布団から 枕までも ちゃんと もう

キレイニ シチカラ、 シヨッタ。  
きれいに して[=整えて]、 していた。

アーン、 イマ モー、 ホイテ オヒオ オシ ヒノデオ  
あの、 今[は] もう、 そして お日を ×× 日の出を

マチヨッタケンド。  
待っていたけれど。

194A : ソー ソー ソー ソー。  
そう そう そう そう。

195C : イマ モー ホントー。(B {笑})  
今[は] もう 本当に。(B {笑})

大分 19-2

196 A : モー イマ オヒマチエモ、 アンマリ ネーワイ。  
もう 今[は] お日待ち会も あまり ないよ。

197 B : モー オヒマチチュータテンナー ホント モー。  
もう お日待ちといたってね 本当[に] もう。

198 A : アントキヤー アンター  
あの時は あなた

ワシドーガー ワケー トキニヤー アンター、  
私たちが 若い 時には あなた、

オヒマサマチャー チット トマリヨッタ。  
お日待ち様という と 必ず 泊まっていた。

199 C : アー トマリヨッタ。  
ああ 泊まっていた。

200 A : ミーンナガ ソン イエニナ。(C ウーン ソー)  
全員が その 家にね。(C うん そう)

ホイテ アサ アンター  
そして 朝[に] あなた

201 C : ホンゼンジャロー。  
本膳だろう。

202 A : ホンデン。  
本膳。

203 C : ウン。

うん。

204 A : ホンデンヌ ソナエチナー。

本膳を 供えてね。

205 C : ソー ソー。

そう そう。

206 A : ホイテ オクルトナー、 コンダ カオー アラウニ  
そして 起きるとね、 今度は 顔を 洗うのに

アンター ソコンシガ、 オーケナ アラー  
あなた その[家の]人が、 大きな あれは

チョーダレーチ イーヨットタンジャ。  
手水だらいと 言っていたのだ。

コイツグライナ センメンキナー。(C {笑})  
このくらいの 洗面器ね。(C {笑})

オケジ トククッタ。 アンヤチー シュー  
桶で 作った。 あいつに 塩を

コーンダ トッカミクージナ。(C ソー)  
今度は つかみこんでね。(C そう)

ホイテ シオミズー トククッチ (C フン)  
そして 塩水を 作って (C うん)

大分 19-4

ホイチ オマエ ソレジ ズート ミナ  
そして あなた それで ずっと みんな

カオ アラウノジャ。 シオミズ イレタ ヤトゥ。  
顔[を] 洗うのだ。 塩水[を] 入れた やつ[で]。

207C：ソー。

そう。

208A：ホイテ コンダー カミサマー イッショーケンメイ  
そして 今度は 神様へ 一生懸命

マイッチナ、 ソレカラ ホンデンニ。(C {笑}) {笑}  
お参りしてね、 それから 本膳に。(C {笑}) {笑}

アエン コタ ヤッパナー イマ オモイダスデー。  
あんな ことは やっぱりね 今 思い出すよ。

209C：ホント。

本当。

210A：ホントニ モー ムカシャ オモシリカッタンジャ、 アレ。  
本当に もう 昔は おもしろかったんだ、 あれ[は]。

211C：オモシリーヨリモ (A へー へー)  
おもしろい[という]よりも (A ええ ええ)

ホント、 カミ ホトケオ ダイジニ シヨッタンジャー。  
本当[に]、 神 仏を 大事に していたんだね。



212A : ソー ソー。(C フン) マー ワシドーワ マー  
そう そう。(C うん) まあ 私たちは まあ

ワケーキ オモシリーヨーナ コッチャッタケドナ。  
若いから おもしろいような ことだったけれどね。

ミナー (C ハーン) ヤッパ トショレーシャー  
みんな (C はあ) やっぱり 年寄り衆は

(C ハーン ソーデ)  
(C はあ そうよ)

ミナ ヤッパ シンケンニ シンジンシヨッタキナ。  
みんな やっぱり 真剣に 信心していたからね。

(C アー ソー) ホントジャ。  
(C ああ そう) 本当だ。

ウーント ショーガツチューノワナー トテン モー  
本当[に] 正月というのはね とても もう

オモイデガ フケー。 イマ アンター、  
思い出が 深い。 今[は] あなた、

ショーガツガ キタチ ナーンノ コター  
正月が 来たって なんの ことは

アラセン。(B {笑})  
ありはしない。(B {笑})

213C : ホントジャ。

本当だ。

214A : ナンニモ ネー。

なにも ない。

19↑

— 中 略 —

215C : ホジャケンドー チゴーチ ヨイ コトモ アルナ。

そうだけれど [昔と]違って よい ことも あるね。

↑20

216A : アンマリ イー コター ネーロガエ、 オバサン。

あんまり いい ことは ないだろうが、 おばさん。

217C : イヤー アルヨ (A {笑}) {笑}

いや あるよ (A {笑}) {笑}

モトワ ソゲナ コタ ネー。

以前は そんな ことは ない。

アノ カーチャン タンジョージャケントカ、

あの おかあさん[の] 誕生[日]だからとか、

ハハ ハハノヒジャーキトカ。

×× 母の日だからとか。

218B : {笑} ホントナー。

{笑} 本当ね。

大分 20-2

219 C : ウン ナー。 (B フーン) ユーチ。

うん ねえ。 (B うん) 言って。

220 B : ホントジャ。

本当だ。

221 C : ナニカ コドモガ モッチ、 アン コーチクレルヨ ソリャ。

なにか 子どもが 持って、 あの 買ってくれるよ それは。

222 A : ウン。 アゲ アゲナ コトワ デケタナー。

うん。 ×× あのような ことは できたね。

(B・C {笑}) ハー。

(B・C {笑}) はあ。

アリャ マー ドーシチ アゲン モンガ

あれは まあ どうして あのような ものが

デケタローカナ。 (B・C {笑})

できたのだろうかね。 (B・C {笑})

223 C : サー ドーカ シランケド。

さあ どうか 知らないけれど。

224 B : ホントナーエ。

本当ね。

225 C : アレワナー。

あれはね。

226 A : ハー。 ハハノヒガ デケタリ、 チチノ、 (C チチノヒワー)  
はあ。 母の日が できたり、 父の、 (C 父の日は)

アリヤ チチノヒチューンカナ?

あれは 父の日というのかね?

オヤジンヒチューンジャネーンカエ。 {笑} (B・C {笑})

おやじの日というのではないのかね。 {笑} (B・C {笑})

オヤジンヒジャネーンカナ。 {笑}

おやじの日ではないのかね。 {笑}

227 B : ホント、 アゲナ コトワ スルナー、 コドモワ。  
本当、 あんな ことは するね、 子どもは。

228 A : アゲン コター ヤPPER。  
あんな ことは やppり。

229 C : アゲン コター キチャーット マモルナー。  
あんな ことは きちんと 守るね。

230 A : アー。 ジダイガ ヤPPER アゲンフーニ カアッタンジャナ。  
ああ。 時代が やppり あんなふうに 変わったんだね。

(C {笑}) ムカシン ショーガトゥンヨーナナ ソン

(C {笑}) 昔の 正月のようなのは その

ショーガトゥニ コー、 トウカイモンヌ モッチイクンジャノード、  
正月に こう、 おつかいものを 持っていくのではなくて、

ヤッパ キメタンジャローナー、  
やっぱり 決めたんだろうね、

ハハノヒオ キョーワ ハハオ ダイジ スルトカ。  
母の日を 今日は 母を 大事[に] するとか。

231 C : ハン キョーワ  
うん 今日は

232 A : キョーワ オヤジノヒトカ。 {笑}  
今日は おやじの日とか。 {笑}

233 C : キョーワ ケイローノヒトカナ。 {笑}  
今日は 敬老の日とかね。 {笑}

234 A : ハーン。 マー ホジャーケドー、  
はあ。 まあ そうだけれど、

サビシーヨーナ キモ スルケンド ムカシヨリャー  
寂しいような 気も するけれど 昔よりは

トショレガ イマ ユー ナッタ。  
年寄りが 今[は] よく なった。

235 C : イマン トショレワ ゼイタクヨー。  
今の 年寄り は ぜいたくよ。

236 A : アン ソリャ モー。  
ああ それは もう。

237C : フーン。

うん。

238A : マー ムカシノ アンマリ ムカシ ホメチ

まあ 昔の あんまり 昔[を] ほめて

イマオ ワルー イヤー ワリーケンド、(C {笑})

今を 悪く 言うと 悪いけれど、(C {笑})

ムカシト カワッテ マー トショリユー

昔と 変わって まあ 年寄りを

ダイジ スルヨーナ ジダイニ、ナンナ ナッタケドナー。

大事[に] するような 時代に なるのは なったけれどね。

デン ヤッパー ムカシガ ナトゥカシーワ。

それでも やっぱり 昔が 懐かしいよ。

239C : ソリャー ナトゥカシーナー。

それは 懐かしいね。

240A : ウン、ナニカ ヤッパナー。

うん、なにか やっぱりね。

241C : ムカシガナ。 ウン。(A ウン)

昔がね。 うん。(A うん)

ソン トキドキニナーエ。

その 時々ね。

242A : ソージャー。 ホイテ オセックガ クリャナー  
そうだ。 そして お節句が 来るとね

サンガトゥノ オヒナサマモ ネー モー。  
3月の お雛様も [今は]ない もう。

(B ウフン) ムカシモ ナカッタガ、  
(B うん) 昔も なかったが、

ホヤケン オナンコー デケタ トキヤー  
だから 女の子が できた 時は

ムカシャ ナンボカ スンナー シヨッタナーエ。  
昔は いくらか するのは していたね。

243C : シヨッタヨ。  
していたよ。

244A : ウン。  
うん。

245C : マー アノ、 ソリヤー アーン カザリモンワ センデン、  
まあ あの、 それは あの 飾り物は しなくても、

サンガトゥノ ミッカニヤ モモノセックジナ。  
3月の 3日には 桃の節句でね。

246A : ハハーン。  
ああ。

247C：ソリャ モー キチャット ヒシモチオ コシラエチ、  
それは もう きちんと 菱餅を こしらえて、

20↑21

モモノ ハナオ アゲチ、 カミ ホトケニャ キチャット スル。  
桃の 花を あげて、 神 仏には きちんと する。

ゴガトゥガ キチカラ モー  
5月が きて[=5月になると] もう

ショープノセックチューチナ。  
菖蒲の節句といってね。

248A：ソージャ ソージャ。  
そうだ そうだ。

249C：ショープオ トッチクッキー、 アノー ナニト、  
菖蒲を とってくるから、 あの なにと、

カヤト ショーブト、 ソレカラ フトゥ[37]ナー  
茅と 菖蒲と、 それから ヨモギね

アレオ イマデモ ワタシャ イマデン モー  
あれを 今でも 私は 今でも もう

トショレン スル コトワ ソレダケジャキー、 アトワ アン  
年寄りの する ことは それだけだから、 あとは あの

オセックモチュ タコート タキメート  
お節句餅を 炊こうと 炊くまいと[=作ろうと作るまいと]



大分 21-2

ワタシャー スル コトダケワ シュー ト オモーチ。  
私は することだけは しょう と 思って。

アーラ ココン シワ ショーブオ アゲチャル チューケド、  
「あら ここの 人は 菖蒲を あげてある」と言うけど、

ソリャ アンタ オセックデ (B ハハハン)  
「それは あなた お節句だよ」[と言うと] (B ああ)

アー キョー シェーックカエ チチ ユーケド。  
「ああ 今日 節句かね」と 言うけど。

ホント モー ソレンブンワー スル。 キチャート。  
本当[に] もう そういうことは する。 きちんと。

250 A : ヤッパ イマデム スッ ショルカエ、 オバサン。  
やっぱり 今でも ×× しているかね、 おばさん。

251 C : アー ワタシャ スル。  
ああ 私は する。

252 A : フーン。 ソリャ イー コッチャ。  
うん。 それは いい ことだ。

253 B : ヤッパナー トショレガ コー ヤッパー。  
やっぱりね 年寄りが こう やっぱり。

254 A : ウーン ウン。  
うん うん。

大分 21-3

255 B : ウン モトン ショッタ コトワナ、  
うん 以前[から] していた ことはね、

ホント ヤPPER フン ワスレラレンノジャワイ。  
本当 やっぱり うん 忘れられないのだよ。

256 C : アー、 ワスレラレンヨ。  
ああ、 忘れられないよ。

257 B : ジャーナー。  
そうだね。

258 C : カンガエテナ。 モー キチャーット。  
考えてね。 もう きちんと。

259 B : ジャー。  
そうだ。

260 C : ドッチカ。 ソヤケン、 ヤー アノ トシヨリガ スルト、  
どちらか。 だから、 いや あの 年寄りが すると、

コドモモ ミナルルノワ ミナルルヨ。  
子ども[たち]も 見慣れるのは 見慣れるよ。

261 A : ソージャナ。  
そうだね。

262 C : フン。  
うん。

263A : ナンボカ ヤッパナー (C ウン)

いくらか やっぱりね (C うん)

チガウ トコロガ アルワー。

違う ところが あるよ。

264C : キョーワ バーチャン オセックジャナー。

「今日は おばあちゃん お節句だね。

バーチャン オハナオー、 ショーブ トッチアルゴタール チ  
おばあちゃん お花を、 菖蒲[が] とってあるようだ」 と

フン ショーブガ トッテアルヨ チュチ。

「うん 菖蒲が とってあるよ」 と言って。

オマンガ ソッキータ モモオー ドコマッデン

おまえが // // // 桃[の花]を どこまでも

モモン ハナオ トリ イッチキチ、

桃の 花を とりに 行ってきて、

キチャット モモンセックオ シチカラニ。

きちんと 桃の節句を して。

265A : ヤッパー ヤッパ ショーガトウカラ

やっぱり やっぱり 正月から

イチバン ヤッパー、 アレ イチネンガジュー オワッテ

いちばん やっぱり、 あれ 一年中 終わって

大分 21-5

アゲー        イーヨッタ。 ムカシン シガ  
あのように 言っていた。 昔の        人が

ショーゴクガツジャンナンノ    イーヨッタナーエ。  
正五九月だとか                      言っていたね。

266 C : ソージャー。  
          そうだ。

267 A : アリャ ナーンノ イミカ シランケド  
          あれは なんの        意味か 知らないけれど

ショーゴクガトウガ タイセツチャ トカ。  
「正五九月が                      大切だ」        とか[言ってね]。

ショーガットー (C {笑}) ゴガット クガーツ。  
正月と                      (C {笑}) 5月と        9月。

268 C : クガツガナー。  
          9月がね。

269 A : ナーエ。  
          ねえ。

270 C : ウン。  
          うん。

271 A : アゲー        イーヨッタンジャ。 ショーゴクガツ。  
あのように 言っていたのだ。    正五九月。

大分 21-6

272 B : ソレワ ソージャケド ムカシノ シガ  
それは そうだけど 昔の 人は

ヨー カンガエチョンナー。  
よく 考えているね。

ホント アゲン イクフーニ アルヨーニ アルワイ。  
本当 あんなに いくように あるように あるよ。

273 C : フーン。  
うん。

274 B : ショーガトゥワ ホント ナンニモ セン。  
正月は 本当 なにも しない。

シゴトモ ナンニモ セン。  
仕事も なにも しない。

ユックリ シタ トウキノヨーニ アルケンド、  
ゆっくり した 月のように[=で] あるけれど、

ナニカ アッタラ ヤッパー ワリーワ。  
なにか あったら やっぱり 悪いよ。

275 C : ウフン ソーナー。  
うん そうね。

276 B : フーン。  
うん。

21 ↑

大分 22-1

277A : ヤッパ イチネンノ デハジメガ ヨカリヤ  
やっぱり 1年の 出だしが よければ

↑22

ヤッパ ソンー (C ソー) トシガ イーンジャロナー。  
やっぱり その (C そう) 年が いいのだろうね。

(C ウン ウン) ショーゴクガツチューチ。  
(C うん うん) 正五九月といって。

278C : ウン ソーヨ。  
うん そうよ。

279A : ゴガトゥガ マター タウエジナーエ。  
5月が また 田植えでね。

280C : ソージャー。  
そうだ。

281A : イチバン オモナ トキジャーシ。  
いちばん 大事な 時だし。

282C : ウン オモナ トキ。  
うん 大事な 時。

283A : クガツワ アリヤ ナニガ、オモナ コトカ  
9月は あれは なにが、大事な ことか

ショーゴクガツジャンナンノ イーヨッタ。  
正五九月だとか 言っていた。

大分 22-2

284 B : ヤッパ、 ク クガ トウクンジャワナー。

やっぱり、 × 九 [= 苦] が つくんだよね。

(A {笑}) クガ トウクケン ワリー チュー

(A {笑}) 九 [= 苦] が つくから 悪い という

ワケジャロナ。

わけだろうね。

285 C : ソージャローナー。

そうだろうね。

286 A : ホヤキ ヤッパー キオ トウケナ ワリー チュー

だから やっぱり 気を つけないと 悪い という

イミジャローナ アレモ。

意味だろうね あれも。

287 B : ソージャーナー。

そうだね。

ホント アレワ ヤッパー ヨー ユーチャルワナー。

本当 あれは やっぱり よく 言ってあるよね。

ムカシノ シガ。

昔の 人が。

288 C : モー アンター、 ドコデモ クリナンカデモ アルケド、

もう あなた、 どこでも 栗なども あるけれど、

大分 22-3

クガトゥン クリゼックチ クガトゥ ココノカニニャナーエ。  
9月の 栗節句といって 9月 9日にはね。

289A：ソー ジャ ソー ジャ。 アー アレ  
そう だ そう だ。 ああ あれ

クリゼックチ イーヨッタナ クガツワ。(C ヘー)  
栗節句と 言っていたね 9月は。(C ええ)

ハー ヤッパ セックジャッタナ。 アー アー アー。  
はあ やっぱり 節句だったね。 ああ ああ ああ。

290C：ヘー セックジャ。 ホジャケン アンタ、  
ええ 節句だ。 だから あなた、

クリオ ユガイチナ、 キチャーット。  
栗を ゆがいてね、 きちんと。

291A：ソー ソー。  
そう そう。

292C：イマー モ アンタ モー、 メイゲツ、モー ハー  
今は もう あなた もう、 名月も はあ

イマ ハー メイゲツオ、 アン ナニナー アンタ  
今[は] はあ 名月を、 あの なにね あなた

ハチガトゥカイナー。  
8月かね。



293 A : ソー ソー。

そう そう。

294 C : ミー ワシダチャー ミーゲニチ〔38〕チュチ イーヨッタ。

×× 私たちは みいげにちと 言っていた。

295 A : アー ミーゲニチナ。

ああ みいげにちね。

296 C : ウン。

うん。

297 A : アレ クガトゥノ メーゲツ。

あれ 9 月の 名月。

298 C : メイゲツヤ。

名月だ。

299 A : イマ メーゲツ チューケンド、

今〔は〕 名月 と言うけれど、

ミーゲニチ イーヨッタナーエ。

みいげにち 〔と〕言っていたね。

300 C : ミーゲニチ。 {笑}

みいげにち。 {笑}

301 A : {笑} ミーゲニチ。 (C {笑}) {笑}

{笑} みいげにち。 (C {笑}) {笑}

アレ イーカタガ カワッチョンキナーエ。

あれ[は] 言い方が 変わっているからね。

(C ソー {笑}) イマン アタラシー シャー

(C そう {笑}) 今の 新しい[時代の] 人たちは

メイゲツオ ナガメタ トカ。

「名月を 眺めた」 とか[言う]。

ワシドー ミーゲニチ チチ イーヨッタ。 {笑}

私たち[は] みいげにち と 言っていた。 {笑}

302C : ミーゲニ {笑} (A {笑})

みいげに[ち] {笑} (A {笑})

ミゲニチン トキニャ ヨソソ モソノ ナニ トッテン

みいげにちの 時には よその ものを なに[を] とっても

303A : ソージャー。

そうだ。

304C : イートカ ナントカ ユーチナーエ。 (A ウソ)

いいとか なんとか 言ってね。 (A うん)

ヨソソ ミカン チギッター、 カキ チギッター

よその ミカン[を] もいだり、 柿[を] もいだり

シテン、 オトガメナシジャンノ ユーチカラ。

しても、 おとがめなしだの [と]言って。

大分 22-6

305A：ソー ソー ミーゲニチ {笑} (C {笑})  
そう そう みいげにち[の時は] {笑} (C {笑})

カクレチ イッチ トッテンナーエ、(C ソージャ)  
隠れて 行って とってもね、(C そうだ)

ヨカッタ。  
よかった。

306C：アンタ アーン、 アノン トーチャンガ ヨー  
あなた あのう、 あの [私の]おとうさんが よく

コイサ ナニ トッテン インジャ チ イワレチ  
「今晚は なに[を] とっても いいんだ」と 言われて

(A {笑}) ヨカッタキナー。  
(A {笑}) よかったからね。

307A：ソージャー。  
そうだ。

308C：トリ キヨッタガ。 イマ モー。  
[私のところにも]とりに 来ていたが。 今[は] もう。

309A：アラ ミーゲニチャー アラー クガトゥダケジャーエ。  
あれは みいげにちは あれは 9月だけだね。

310C：イー ジューガトゥモ アルヨ。  
いや 10月も あるよ。

311A : ジューガトゥガ アルカナナー。  
10月が あるかね。

312C : クガトゥ ジューガトゥ。  
9月[と] 10月。

313A : ニヘンカナ。  
2度かね。

314C : ニヘン アル。  
2度 ある。

315A : ニヘン アリヨッタナー。  
2度 あったね。

316C : クガトゥガ ナンジャ。  
9月が なにだ。

22↑23

317A : クガツー  
9月

318C : ハチグットゥト  
8月と

319A : クガツガ トイモー〔39〕ジ。  
9月が 唐芋で。

320C : ソージャー。  
そうだ。

321A : ヤッコメガ アリャ  
焼米が あれは

322C : ジューガトゥカナ。  
10月かね。

323A : ジューガツカー。(C フン) ジューガツィー ナリャ  
10月か。(C うん) 10月に なんと

ヤッコメガ デクンノヤナ。  
焼米が できるのだね。

324C : ソージャ。  
そうだ。

325A : ソジャ ヤッコメーガー アッタ。(C {笑})  
そうだ 焼米が あった。(C {笑})

ヤッコメガー、ヤッコメ ミーゲニチガ ジューガッチャナー。  
焼米が、 焼米[と] みいげにちが 10月だね。

326C : ソージャ ジューガッチャ。  
そうだ 10月だ。

327A : ソージャ ソージャ。アレ オモイダスワ。  
そうだ そうだ。あれ[を] 思い出すよ。

アレ シヨットンジャ。フン。  
あれ[を] していたのだ。うん。

大分 23-3

モー イマ ヤッコメジャンナンノ ダーレン トウ克蘭。  
もう 今 焼米など だれも 作らない。

アレ オイシカッタケンドナー。(B・C {笑})  
あれ おいしかったけれどね。(B・C {笑})

トニカク ヤッパ アマカッタンジャ、  
とにかく やっぱり 甘かったのだ、

ヤッコメンヤターナ。(C フン) ウーン。  
焼米というやつはね。(C うん) うん。

アレオ モー コドモン トキャ  
あれを もう 子どもの 時は

アレオ ニギッチ クーチ アルキヨッタ。  
あれを 握って 食べて 歩いていた。

(C ソー) {笑}  
(C そう) {笑}

ミチュクンダリ クーチ アルキヨッタ。(B・C {笑})  
道をずっと 食べて 歩いていた。(B・C {笑})

328C：ナーオ。(A {笑}) オトッコワ アンタ アンー、  
ねえ。(A {笑}) 男の子は あなた あの、

ポケットニ フクノ ポケットニ イレチョッチ。  
ポケットに 服の ポケットに 入っていて。

329 A : フクジャ ネーンジャ オバン。  
服では ないのだ おばさん。

セッ アン ソデナシジャー。  
×× あの 袖なしだ。

330 C : ソデナシ。 {笑}  
袖なし。 {笑}

331 A : ソデナシチュー ヤツ キチナ、  
袖なしという やつ[を] 着てね、

ソデナシニ コー ポケットが ツイチョット。  
袖なしに こう ポケットが ついていた。

アリ アンタ ヤッコメ イッパー イレチョッチ アンタ  
あれに あなた 焼米[を] たくさん 入れていて あなた

(B {笑}) ミチュクンダリ {笑} アン ヤッコミ コー  
(B {笑}) 道をずっと {笑} あの 焼米を こう

ポーット クーチ アルキヨッタ。  
ぽっと[口に入れて] 食べて 歩いていた。

23↑

## 大分県大分郡挾間町1978注記

### 〔1〕 カワッチシモータ

接続助詞「て」「で」は、「チ」「ジ」が一般的。「シモータ」のウ音便も高年層では一般的だが、このすぐあとでは「カワッテシマッタ」も聞かれるなど、共通語の影響も見られる。

### 〔2〕 アンタ モー ホテー

間投詞的用法。「アンタ」（あなた）も「モー」も「ホテー」も、これという深い意味がなく、会話のつながりとして使う相の手。「オマエ」「オマイ」「アノー」「ナニ」「ナニシテ」「ナンジャ」なども同様の用法があり、会話の中でよく使われる。

### 〔3〕 チューチ イヤー

「チュー」は「と言う」の詰まったもの。「と言う」は、「～チュチ ユーチ」（直訳は「～と言って言って」）のように重ねて言うことが多い。

### 〔4〕 オーゴ

長子のこと。

### 〔5〕 オトゴ

末子のこと。

### 〔6〕 オシャクニン

結婚式の三三九度でお酌をする人のこと。「オシャクトリ」（お酌取り）とも言い、オーゴ（長子）とオトゴ（末子）がつとめた。女の子で長子が選ばれると、もう一人は必ず男の子の末子が選ばれたという。

### 〔7〕 カラ

理由を表す接続助詞は、「キー」「キ」で表すのが一般的だったが、最近では肥筑方言的な「ケン」「ケ」や、共通語形の「カラ」も使われるようになっている。この談話中にもそれらが混在している。

### 〔8〕 デンデン

全然。大分県の方言には、ザ行とダ行の混同が見られる。特に高年層においては、「ザ」「ゼ」「ゾ」をそれぞれ「ダ」「デ」「ド」と発音する傾向が顕著。



〔9〕 ナーエ

「ナーエ」「ナエ」は、親しみを込めてよく使われる文末詞。

〔10〕 バーサン

ここでは、自分の妻（話し手B氏）のこと。

〔11〕 ホゲンジョー

でたらめばかり。「ホゲ」は「でたらめ」「むちゃくちゃ」などの意。「～ンジョー」は「～ばかり」の意と、「マゴンジョー」（孫たち）のように複数の意がある。

〔12〕 オバン

親しみ・軽い敬意を含んだ「おばさん」。ここでは、話し手C氏に対して言われたもの。C氏は、話し手A氏の妻であるB氏といとこ同士であり、3人は親しい間柄にある。

〔13〕 キンコンシキラシー

「キンコンシキングタル」が伝統的な言い方。

〔14〕 シ

「シ」は「衆」の転。本来は複数のはずだが、場合によって、単数「人」にも複数「人たち」にも用いられる。

〔15〕 ヒセー

「久しい」の意。「ヒサイ」の「アイ」という二重母音が、「エー」のように長音化したもの。

〔16〕 イトゥンナカメー

大分県方言では、「ツ」に相当する音を破裂音の「トゥ」で発音する傾向が顕著である。中年層くらいまで聞かれることもあるが、次第に破擦音の「ツ」になりつつある。この談話中でも混在している。それと並行して、「ヅ」にも破裂音「ドゥ」が聞かれる。

〔17〕 コタエン

たまらない。がまんできない。

〔18〕 マンゴンヤツ

「マンゴ」は「孫」。「ヤツ」は「奴（やつ）」であるが、ここでは「あの子」くらいの親近感を持ったことば。

- [19] ヨメジョ  
「嫁女」で、「ヨメゴ」（嫁御）よりもやや敬意が薄いようである。
- [20] トククッチカラ  
作って。産んで。順接の「～して」という文脈で、「～シチカラ」がよく使われる。この場合、「カラ」には特に意味はない。
- [21] シトメン  
「どうしようもない」の意。「シトメル」に打消の「ン」（ない）がついたもの。
- [22] タマガッタ  
タマガル。タマゲル。「非常に驚く」「びっくりする」の意。
- [23] ツブイタ  
サ行イ音便。人によっては「ツビータ」ともなる。
- [24] キチミナイ  
来てみなさい。「ナイ」は動詞の丁寧な命令形で、「～なさい」の意。話しことばで使用され、自分と同等か目上に対して用いられることが多い。目下に対する場合は、「～シチミヨ」となる。
- [25] ハナ  
はじめ。以前。
- [26] シノー  
収納。農作物の取り入れのこと。
- [27] イネジノ  
イネジノー。稲の取り入れのこと。
- [28] モミスリ  
粳すり。粳から粳殻を取り除いて、米と粳殻を分けること。
- [29] ワシドー  
私たち。「ドー」（ども、たち）は複数を表す。
- [30] ボン  
めんこ。
- [31] ワカキムカエ  
若木迎え。正月用の薪、または、小正月の飾りに使う新木（にゅうぎ）

に用いる木を山からとってくる行事。

[32] グワンジトゥ

合拗音の「グッ」。「正月」も「ショーグッツ」となってもいいところだが、そうはなっていない。

[33] リンポハン

隣保班。隣近所の人々によって組織された互助組合。

[34] モンノ

ナ行連声。「モン」など「ン」で終わる語のあとに、助詞の「は」や「を」が続くと、「モンナ」や「モンノ」「モンヌ」などになる。

[35] ダイジョーゴンサマ

大將軍神社（だいじょうごんじんじゃ）。挾間町篠原にある神社。松原神社とも言われ、牛や馬の神様として知られる。毎年、農耕牛馬の安全や健康を祈願する大祭が開催される。

[36] オヒマッサマ

お日待ち様。正月・5月・9月などの特定の日に、近隣の村人が神社などに集まり、前夜から泊まり込んで、日の出を拝む行事。

[37] フトゥ

フツ。ヨモギのこと。

[38] ミーゲニチ

明月日。名月様。名月。

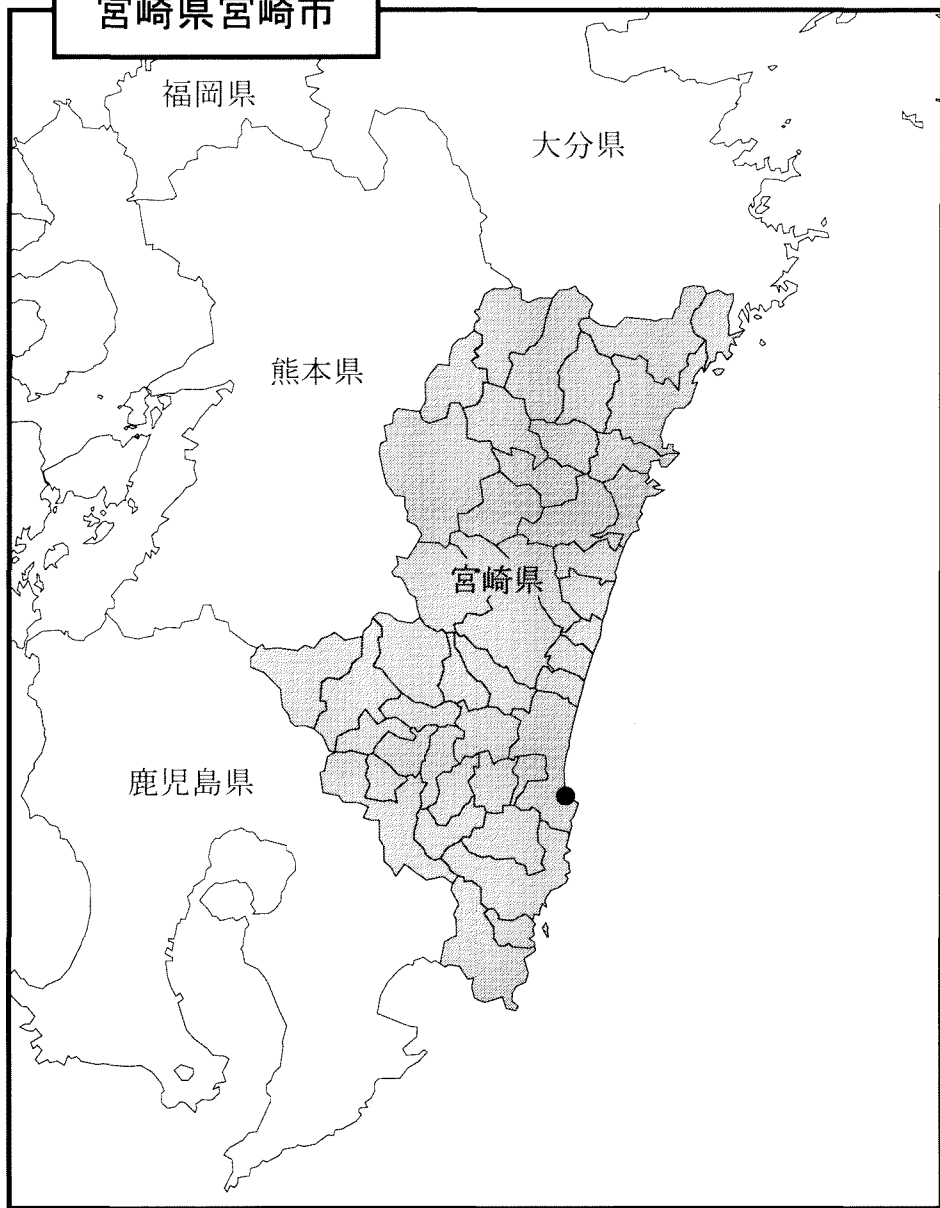
[39] トイモ

唐芋。さつまいものこと。

# **Ⅲ. 宮崎県宮崎市**

## **1981**

宮崎県宮崎市



## 宮崎県宮崎市1981話者・担当者

### 「各地方言収集緊急調査」

話者	黒木 久七 由浅 ツチエ
司会者	湯地 安美
収録担当者	比江島 修一
文字化担当者	比江島 修一
共通語訳担当者	比江島 修一
解説担当者	比江島 修一

(敬称略 項目別50音順)

### 「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一 江川 清 田原 広史 井上 文子
編集協力者	日高 貢一郎 鳥谷 善史 熊谷 康雄

## 宮崎県宮崎市1981解説

### 収録地点名

みやざきけんみやざきし あおしま  
宮崎県宮崎市青島

### 収録地点の概観

#### 位置

宮崎市は宮崎県の中中部海岸平野にあり、青島地区は宮崎市の中心部から南へ約16km、宮崎市の南部海岸に位置する。

#### 交通

青島地区は、宮崎駅から日南線で約25分、青島駅下車。バスは宮崎市中心部より約35分。国道220号線が走っており、交通の便はよい。

#### 地勢

青島地区は、宮崎平野の単調な砂浜海岸と、岬や入江に富んだ日南海岸との接点に位置する。東部は砂浜海岸に面し、西部は鰐塚山系<sup>わにつか</sup>の山地が広がっている。海岸正面には観光地として有名な青島があり、島に続く北部の海岸は水のきれいな海水浴場としても知られている。黒潮暖流が海岸線に沿って流れ、高温多湿でほとんど霜が降りない。青島には亜熱帯植物が繁茂し、北半球最北のヤシ科植物の群落があり、特別天然記念物の指定を受けている。

#### 行政区画

この地は、古くは「海幸彦・山幸彦」<sup>うみさちひこ やまさちひこ</sup>（青島神社祭神）の神話に始まり、多くの史誌にも記されている。藩政時代には飫肥藩（居城は現在の日南市）に属していた。1889(明治22)年、折生迫・内海<sup>おりゆうご うちうみ</sup>の2か村が合併して北那珂郡<sup>きたな かの</sup>青島村が成立。1896(明治29)年からは、宮崎郡に所属。1951(昭和26)年、宮崎市に編入され、宮崎市の大字となる。1963(昭和38)年、宮崎市折生迫の一部が宮崎市青島町となり、1979(昭和54)年、青島町の一部と折生迫の一部が宮崎市青島となった。

#### 戸数・人口

1981(昭和56)年10月1日現在、青島地区の世帯数1,774戸、人口5,357人。

#### 産業

観光地として、国道220号線沿いに大きなビルやホテルが立ち並び、土産物

店・食堂・商店が軒を連ねている。南岸の入江には港があり、沿岸漁業の拠点となっている。古くからの住民は港周辺の折生迫地区に多く住み、漁業・農業・林業を営んでいる。

## 収録地点の方言の特色

### 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

宮崎県の方言は、かつて日向と呼ばれた地域の大部分で用いられる豊日方言ほうじつ(ほうにち)と、鹿児島藩に属していた諸県地方ひゅうがで使われる諸県方言に大別される。

豊日方言は、海岸に近い平野部の方言と、九州山地に近い山間部の方言とに分けられる。平野部の方言はいわゆる日向方言の主軸を成し、山間部の方言は隣接する熊本県の方言に影響され肥筑系の特色を含んでいる。諸県方言は薩隅方言に属し、豊日系の日向方言と一線を画している。

宮崎市青島地区の方言は、日向方言の平均的な方言であるといつてよい。

### 音韻

- (1) 連母音「アイ」が「エ」または「エー」になる。

アケ (赤い)

セタ (咲いた)

デコン (大根)

ネー (ない)

- (2) 連母音「オイ」が「イ」または「イー」になる。

クリ, クリー (黒い)

フチ, フチー (太い)

- (3) 連母音「ウイ」が「イ」または「イー」になる。

アカリ (明るい)

サミー (寒い)

- (4) 連母音「エイ」が「イ」または「イー」になる。

カシ (加勢)

クリー (←くれい) (くれ)

ウキー (←受けい) (受けろ)



- (5) ワ行五段活用動詞に「テ」「タ」が続く場合は、ウ音便が生じる。

オーテ（会って）

コータ（買った）

ウトータ, ウトタ（歌った）

ユデ（←ヨーデ）（呼んで）

ヌダ（←ノーデ）（飲んだ）

- (6) 共通語の「せ」が「シェ」, 「ぜ」が「ジェ」に発音される。

イッシェン（1 銭）

ジェンジェン（全然）

- (7) ワ行音「ウェ」「ウォ」が見られる。

ウェータ（沸いた）

イウォ（魚）

サウォ（竿）

- (8) 合拗音「クッ」「グッ」が見られる。

クッシ（菓子）

エイグッ（映画）

- (9) 「ヒ」が「シ」, 「ウ」が「イ」になることがある。

シト（人）

イゴク（動く）

イウォ（魚）

- (10) 語頭の「ン」が見られる。

ンニャ（いいえ）

ンメー（うまい）

## 文法

- (1) 名詞と助詞の語形の融合が起こる。

マチャ（町は）

フカ（服は）

コラ（これは）

コドマ（子どもは）

イシ（椅子に）

ソキ（そこに）

アシュ（足を）

- （２）共通語の一段活用動詞が二段に活用する。最近では共通語の普及から一段活用も混じってきている。

オケン（起きない）

オケタ（起きた）

オクル（起きる）

オクリャ（起きれば）

オキー（起きろ）

- （３）「見る」「着る」「出る」などの動詞は、未然形が五段に活用する。

ミラン（見ない）

ミタ（見た）

ミル（見る）

ミリャ（見れば）

ミヨ（見ろ）

- （４）断定の助動詞は「ジャ」「チャ」である。また、強い断定表現として「サル」がある。

アトワ ミンナ ヨソジャ（あとはみんなよそだ）

ベンキョー サセヨッタツチャ（勉強をさせていたんだ）

ワルイノワ アンシトッサルガ（悪いのはあの人だ）

- （５）推量表現は「ジャロ」である。高年層は「ドー」も用いる。

アレガ ユクジャロ（あの人が行くだろう）

アレガ ユクドー（あの人が行くだろう）

- （６）尊敬表現は「ナハル」「ナル」を用いる。敬意は高い。命令形は「ナハイ」「ナイ」となる。

アントモ シナハッタジャロ（あなたもなさったでしょう）

アントモ シナナッタジャロ（あなたもなさったでしょう）

ハヨ シナハイ（早くしなさい）

ハヨ シナイ（早くしなさい）

また、軽い敬語表現に「ヤル」がある。

シゴツモ シャルワ (仕事もされるよ)

(7) 方向を表す助詞は「サネ」である。

ドッチサネ イタ (どちらに行った?)

(8) 原因・理由を表す助詞には「カリ」「カイ」がある。高年層では「カリ」が一般的で、中年層以下では「カイ」も用いられる。さらに、若年層では共通語と同じ「カラ」も使われる。

エーキョー スルカリ (影響するから)

カンケヤ ネットチャカイ (関係はないのだから)

(9) 接続助詞「のに」は「トニ」, 「て」は「チ」「チェ」となる。

オレガ スットニ (私がするのに)

エイガオ ミチェ メシ クタ (映画を見て、食事をした)

(10) 終助詞「の」にあたる「ト」「ツ」が多用される。

オマエ イクト (あなた [が] 行くの?)

イッタツカ (行ったのか)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿、および、『宮崎県の方言調査報告書(宮崎県の方言一方言収集緊急調査報告書一)』(宮崎県教育委員会, 1985年)によるものである。)

## 宮崎県宮崎市1981凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

### 文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が方言談話音声の文字化、下段がその共通語訳である。ただし、方言の語形と共通語の語形が必ずしも1対1で対応しない場合もあり、方言の語形と共通語訳とがずれている場合もある。

方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造などは、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味の取りやすさを優先して処理をした部分がある。

### 発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中に、話し相手のあいづちや同じ単語の繰り返しなどが入る場合もある。

## 発話番号 <半角>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

## 話者記号 <全角>

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1 A

## 固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

## 記号

### 。（句点） <全角>

文字化については、ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所に句点を打った。ただし、実際の発話では、一文の終わりがわかりにくい場合もある。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス      ソーデス

そうです。      そうです。

### 、（読点） <全角>

文字化については、基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所に読点を打った。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、

意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケイトイテ？

預けておいて？

↓ 〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタンダナー↓

よく やったんだなあ。

( ) 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時に同意を示したり、さえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。( ) の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、( ) 内のあいづちと、独立した発話として扱ったあいづちに近い発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑い、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

\*\*\*

〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

///

〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」 なんですネ。

[ ]

〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

=

〈全角〉

[ ] 内の＝は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| |

〈全角〉

注意書きなど。

例：| A に対して |

[ ]

〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[ ] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサノオモチ [1]

## 音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある「再生」の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

## CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「宮崎24-1」はCDトラック番号が24で、その1ページ目ということである。「宮崎24-1」「宮崎24-2」……「宮崎24-5/25-1」……「宮崎34-6」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑24, 24↑25, …… 33↑34, 34↑のように表示される。

第18巻のCD（67分11秒）には、宮崎県宮崎市の談話，【船乗りの時の話，同級生や友だちのこと】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間：分：秒
24	p. 189・ℓ. 1	p. 193・ℓ. 19	00：01：58
25	p. 194・ℓ. 1	p. 199・ℓ. 9	00：02：04
26	p. 199・ℓ. 11	p. 204・ℓ. 9	00：02：01
27	p. 204・ℓ. 11	p. 209・ℓ. 15	00：01：59
28	p. 209・ℓ. 17	p. 214・ℓ. 9	00：02：02
29	p. 214・ℓ. 11	p. 219・ℓ. 3	00：02：02
30	p. 219・ℓ. 3	p. 224・ℓ. 7	00：02：04
31	p. 224・ℓ. 7	p. 229・ℓ. 1	00：02：04
32	p. 229・ℓ. 3	p. 233・ℓ. 7	00：01：59
33	p. 233・ℓ. 9	p. 238・ℓ. 5	00：01：59
34	p. 238・ℓ. 7	p. 243・ℓ. 11	00：02：24
計			00：22：36



## 宮崎県宮崎市1981談話

収録地点

みやざきけんみやざきし あおしま  
宮崎県宮崎市青島

収録日時

1981(昭和56)年 8 月19日

収録場所

宮崎県宮崎市青島 青島公民館

話題

船乗りの時の話, 同級生や友だちのこと

話者

A	男	1899(明治32)年生	(収録時82歳)	漁業
B	女	1909(明治42)年生	(収録時72歳)	

司会者

C	男
---	---

調査者

男	(収録談話中に発話なし)
---	--------------

収録時間 (CD)

22分36秒

なお、「各地方言収集緊急調査」の報告書として、『宮崎県の方言調査報告書  
(宮崎県の方言一方言収集緊急調査報告書一)』(宮崎県教育委員会発行, 1985  
(昭和60)年3月)が作成されている。

【船乗りの時の話、同級生や友だちのこと】

話し手

A 男 1899(明治32)年生 (収録時82歳)

B 女 1909(明治42)年生 (収録時72歳)

C 男 司会者

1 A：オマエンカタン フネオ ノッチク トキニャ マコツ  
あなたの家の 船に 乗っていく 時には 本当に

↑24

イチバン リョーシノ ウッテ クルシー トキジャッタモンナ。  
いちばん 漁師の うちで 苦しい 時だったものね。

2 B：ジャッターナ。  
そうだったな。

3 A：アー。 デ オヨバン〔1〕 トキニャ  
ああ。それで 苦しい 時には

オヤカタ ゼニュー カシナランカー ユチカリ イエバ  
「親方 お金を 貸してくださらないか」〔と〕言って 言えば

ホンノ キモチヨー カシテクリャリ〔2〕ヨッタ〔3〕カリヨナ  
本当に 気持ちよく 貸してくださっていたからね

(B ンー マーコツ)

(B うん 本当に)

宮崎 24-2

オリガ マエニワ ツコー X1サーガ ヤッチョッタツヨナ  
私の 前には ××× X1さんが やっていたのよね

ドーネンノヨナ。(B ソー ソー、ソー ソー)  
同年のね。(B そう そう、そう そう)

ソレン アトー ワタシガ アトガマオ、  
そのの あとを 私が 後釜を

ア ヒキウケチー、イー  
ああ 引き受けて ××

4 B:ソー ジャッタナー。ソー。マーコツ ホンデン  
うん そうだったね。うん。本当に それでも

X1サンダカ リョーオ リョー シヤッタガナー。(A アー)  
X1さんだか 漁を 漁を されたがね。(A ああ)

モノスゴ リョー シヤッタヨー。アンシタチャー。  
ものすごく 漁を されたよ。あの人たちは。

5 A:アンタノ ムコサンノ X2サンヨナ、(B ハイ ハイ)  
あなたの お婿さんの X2さんはね、(B はい はい)

コンシタ ハタラキテジャッタナー モノスグー。(B ハイ)  
あの人は 働き手だったな . ものすごく。(B はい)

ムネデワ キカン キ キカンシオ ヤルシー  
船では ××× × 機関士を するし

宮崎 24-3

6 B : ソー。 ナンデモカンデモ ヤリヨリャッタ。  
うん。 なんでもかんでも やっておられた。

7 A : ナンデモカンデモ、 マタ タイカクモ イカッタ。  
なんでもかんでも、 また 体格も よかった。

ヘイタイ イッチョリャッタカンナー。(B ハイ ハイ)  
兵隊[に] 行っておられたからね。(B はい はい)

モー ヨカランナ[4]ッセ。 ストー モー  
もう 気がきいて。 それと もう

ケイサン スッ トキニャヨ、 X2サント ワタシト フタリヨナ。  
計算 する 時にはね、 X2さんと 私と 二人よね。

アー コレコレニャ ナンボ コレ。 コレニャ ナンボ コレ。  
ああ これこれには いくら これ。 これには いくら これ。

モ ソーン ウーン シトニー イー  
もう その うん 人に ××

フコーヘイナシニ イー ワリツクットニ  
不公平なく ×× 割りつけるのに

ヒジョーニ シンパイ シヨッタケンドン[5]、 X2サンノ  
非常に 心配 していたけれども、 X2さんが

ソイデ イットカ。 ソンデ イットカ ユーチカリ オン  
「それで いいのか。 それで いいのか」 [と]言って ××

宮崎 24-4

アントトコン      ワカオヤカタガ、アー ト  
 あなたのところの 若親方×      ああ と

フタッデ キメテ ヤリヨッタ。(B ジャロナー)  
 二人で 決めて やっていた。(B そうだろうね)

デン      アン ノルコワナ、マンゾクシチェ[6]  
 それでも あの 乗り子はね、満足して

ダレモ モンク ユー シトワ オラジャッタナ。  
 だれも 文句[を] 言う 人は いなかったね。

8 B : マコツナ。(A アン) アンコロワ アンマリナ (A ハイ)  
 本当にね。(A うん) あの頃は あまりね (A はい)

アン フネガ ヨキ スクネカッター。(A スクネウッ)  
 あの 船が ×× 少なかったね。(A 少ないうち)

イマ モー コジン コジンデ  
 今[は] もう 個人 個人で

フネ モッチョルケンドンナー。アンゲナ  
 船[を] 持っているけれどもね。 あんな

9 A : イマー クミアイカラ オカネオ モー  
 今は 組合から お金を もう

ジコシキンヌ[7] ツクレバ、フネオ ツクルホダー  
 自己資金を 作れば、 船を 作るほどは

宮崎 24-5

ナンゼンマン イッテモデスヨ、  
何千万[と] いってもですよ、

ソレニ ソートースル チョッ チョチクオ スレバ  
それに 相当する ××× 貯蓄を すれば

カシテクルル[8]カンナ。(B ソー ソー)  
貸してくれるからね。(B そう そう)

トコロガ ムカシャ イッシェンモ カシテクルッ シター  
ところが 昔は 1 銭も 貸してくれる 人は

オラジ。  
いなくて。

10B：ソーヨ ジブンノ チカラデ (A ソーン ジブンノ チカラデ)  
そうよ 自分の 力で (A うん 自分の 力で)

センナランカラナー。 ナカナカ フネワ デキンヨッタワ。  
しなければならないからね。 なかなか 船は できなかったよ。

11A：イゼン アノー リョーシノ キンユーキカンチュ ヤター  
以前[は] あの 漁師の 金融機関という ものは

ネカッタモンナ。  
なかったものね。

12B：マコツ マコツ。(A ン)  
本当に 本当に。(A うん)

24↑

イマー ムカシャ ホンデン リョーガ アリヨッタケンド  
今は 昔は それでも 漁が あったけれど

↑25

イマー マーッデ ネゴツナッタナー。  
今は まるで なくなったね。

13A：ネゴツナッタ。 シニャ ネゴツナッタ ト ユーノワ  
なくなった。 いや なくなった と いうのは

ドュー ワケカ チュト ワタシニ イワスレバナ、(B シー)  
どういう わけか というと 私に 言わせればね、(B うん)

キンチャクアミ [9] ジャナー。(B ジャー ジャー)  
巾着網だね。(B そうだ そうだ)

アー ホッジャカリ モー、 モー ボーケアミ [10] ノ  
ああ だから もう もう 棒受網の

アラ テキジャッタ。(B マコツナ。 マーコツ)  
あれは 敵だった。(B 本当にね。 本当に)

イシト イッボンズンノ テキ。  
/// 一本釣りの 敵[だ]。

14B：ボーケアミチナレバ ムカシャナー (A アー)  
棒受網といえば 昔はね (A ああ)

ボケアミガ デヨッタガナー。  
棒受網が 出ていたがね。

宮崎 25-2

15A : トル トッタド ワタシガ スッ トキニャ。

×× とったよ 私が する 時には。

(B ンーン ウーン マコ イワシガ)

(B うん うん 本当 イワシガ)

オマエンカタン ジョサン[11]ノヨ (B ンー)

あなたの家の おじいさんがね (B うん)

ジョサンノ エサナゲジャッタガ コー コロシテヨ、  
おじいさんが 餌投げだったが こう こうしてね、

(B ンー) モー ジョーズザッタワ。(B ンー)

(B うん) もう 上手だったよ。(B うん)

ホンデ マ オ オヤカター、 トシヨリオヤカタ、 ソリャ  
それで まあ ×「親方、 年寄親方、 それは

ナンジャド? アン アシハコ[12]カ ナンカ  
なんだよ、 あの アシハコか なにか[を]

フマニャ[13] アブラデ ケガ スッド  
履かないと 油で けが[を] するぞ」

イーイー ユテカイ スト、 (B ンー)

××××・[と]言って すると (B うん)

ジョール[14] ニソクモ サンゾクモ フミヤリヨッタワエ。  
草履を 2足も 3足も 履いておられたよ。



16B：ウチノ ジサンモ ハタラキヤヨリヨッタ  
うちの おじいさんも 働かれていた

(A アー タイタット) モー アサナ、

(A ああ // // // //) もう 朝は

サンジン ナット モー オケテ、 デテイキヨリヤッタヨ。  
3時に なんと もう 起きて、 出ていっておられたよ。

17A：イヤ ソリガナ、 イエイヨー トッチョリヤルカリ  
いや それがね、 栄養を とっておられるから

ソングシテ ハヨー オクル。(B ンー)  
そんなに 早く 起きる。(B うん)

アー フツーノ オー ヒトジャッターラ メワ サメンワー。  
ああ 普通の ×× 人だったら 目は 覚めないよ。

(B マコツナー) ジャロ？

(B 本当にね) そうだろう？

サカナデモナ イートト ワリトガ アッテナ、  
魚でもね いいのと 悪いのが あってね、

サーラ〔15〕トカ サゴシ〔16〕トカ ダス〔17〕トカ ユー ヤツオ  
サワラとか サゴシとか ダスとか いう ものを

ツクッテ タブットナー メザメガ イッチャケンドンナ、  
作って 食べるのなら 目覚めが いいのだけれどもね、

ホカン サバトカ イロンナ モン タベチャ  
ほかの サバとか いろんな もの[を] 食べても

メワ サメンヨッタ[18] ツ。

目は 覚えなかったよ。

18B:イー サカナガ メガ サムットヨ。

いい 魚だと 目が 覚めるのよ。

19A:オマエンカタン ジョサン、 ジョサンノ イッツモ  
あなたの家の おじいさん、 おじいさんは いつでも

イヤリヨッタ。(B ンーン) ジャカイ サカナワネ、  
言っておられた。(B うん) 「だから 魚はね

イーツ タベント メザメワ シェントド チ。(B ホー)  
いいのを 食べないと 目覚めは しないのよ」と。(B ほう)

ダレワ ヤマントド チ ユーチョリャッタ。  
「疲れは とれないのよ」と 言っておられた。

(B エー エ ソーナ ハー ハ) ワタシー

(B ええ ええ そうね はあ はあ) 私に

イヤッタチャカリ モー (B ンーン) マチガイネーワ。  
言われたのだから もう (B うん) 間違いないよ。

(B ンー マコー) キオクン ノコッチョットヨ ソリガ。

(B うん 本当) 記憶に 残っているのよ それが。

宮崎 25-5

20B：モー ヒサシイナー、 ナンネン ナッドカイ。  
もう 久しいね、 何年[に] なるだろうか。

21A：エート ジューネンバカリ ナルモンナー。  
ええと 10年ばかり[に] なるものね。

22B：ジューネン？ (A ハーイ) ジューネンタ イワンワー。  
10年？ (A はい) 10年とは 言わないよ。

マタ ナニ イーナット[19]ナ アンタ マタ。  
また なに[を] 言いなさるのか あなた[は] また。

アンタ モー  
あなた もう

23A：エート ワシガ ゴジュー (B ンー ジャロナー。 ンー)  
ええと 私が 50 (B うん そうだろうね。 うん)

アーア ソジャ ソジャ、 ゴジューロクジャカイ  
ああ そうだ そうだ、 56[歳]だから

(B モー サンジューネン) ジューロクネンバカリ ナル。  
(B もう 30年) 16年ばかり[に] なる。

24B：サンジューネングライ ナンナッドガー。  
30年くらい[に] なりなさるだろうが。

25A：ンニャ ソンゲワ ナラン。 サンジューネンチュト  
いや そんなには ならない。 30年というと

ワシガ ゴジュージャモン。 ゴジューカイ ウエジャッタモン。  
私が 50[歳]だもの。 50[歳]より 上だったもの。

アンタカタン フネオ  
あなたの家の 船を

26 B : ゴジューカイ ウエン トキャ アンタモ  
50[歳]より 上の 時は[=上なら] あなたも

ハチジューナンプジャロー？  
80何歳[かになる]だろう？

ジャカイ サンジューネングライ ナルワー。  
だから 30年くらい[に] なるよ。

25↑26

27 A : マーコツ オマエンカタン キカイシェンガ オル コロニャ  
本当に あなたの家の 機械船が ある 頃には

マコ イー リョーガ アッテ コラ。  
本当 いい 漁が あって これは。

28 B : アッタガナー アンコロワナー。(A ボーケアミガ)  
あったよね あの頃はね。(A 棒受網の)

サカナドミャヨ ハラヒトツ、ハラヒトツ  
魚などはね 腹いっぱい 腹いっぱい

ワタリヨッタ[20]ガナ。  
もらえていたがね。

宮崎 26-2

29A：ソレモジャロガ ヒトニ クレナットガ オイカッタログ。  
それもだろうが 他人に おやりになるのが 多かっただろうよ。

30B：ウーン モー マイアサヨ。(A ウン) ダシクバリガ、  
うん もう 毎朝ね。(A うん) 出汁配りが[忙しくて]

ドコニャ コル ヤレ。ドコニャ ココニャ モッチケ  
「どこには これを やれ。どこには ここには 持っていけ」[と]

31A：ワシドンガヨナ センズデサヨナー (B ウーン) コドモニヨ、  
私たちのような 船頭でさえね (B うん) 子どもにね

アスコニ モッチタカ? ココニ モッチタカ?  
「あそこに 持っていったか? ここに 持っていったか?」

ユチェ (B ウーン ムカシャ アンナコツ)  
[と]言って (B うん 昔は あんなこと)

ムカシャ イナカノ ノーソンノ シトトナ? (B ー)  
昔は 田舎の 農村の 人とね、 (B うん)

タゲガ アン タガイチ オタガイチ、  
お互いが あの お互いと お互いと、

タゲテ イヨッタナ コッチン コトバデナ。  
「タゲ」と 言っていたな こちら[=この土地]の ことばでね。

モー キョーダイミタゴテヨ。  
もう 兄弟みたいにね。

サカナガ ツレタラ アッコニ モッチカニャ。  
「魚が 釣れたら あそこ[の家]に 持っていかなければ。」

アッコン オジサントコニ モッチカニャ チッ。  
あそこの おじさんのところに 持っていかなければ」と。

ホデト、コドモモ シェイキュー ショッタ。  
それで、子どもも 請求 していた。

アスコニャ モッテイカンテン イートカ テ ユー グライニ  
「あそこには 持っていかななくても いいのか」という 具合に

コドモガ ジ  
子どもが ×

32B：ホスト モッチクト ゼニ モロタリ。  
そうすると 持っていくと お金[を] もらったり。

33A：ソー。ゼニュー モラウ コツガ (B {笑}) {笑}  
うん。お金を もらう ことが (B {笑}) {笑}

ソレ ソレモヨ、(B ハイ) ジッセングライ モラウトナラ  
×× それもね、(B はい) 10銭くらい もらうのなら

(B \*\*\* マイ コトナ) イーケンド、  
(B \*\*\* うまい ことね) いいけれど、

イッセンズツ モラウトガ (B ホント ムカシャナ)  
1銭ずつ もらうのが (B 本当 昔はね)

タノシミジェナー。

楽しみでね。

34 B : ソーヨ ソーヨ。 \* \* \*

そうよ そうよ。 \* \* \*

35 A : コドモガ、 シニャ コドモニ ソンゲ ヨキ クレチェン

子どもが、 いや 子どもに そんなに たくさん やっても

イカンカラ、 チュー ユー コッチ。

いけないから と いう ことで。

36 B : マーコツ マコツ。

本当に 本当に。

37 A : アイニャ、 ミカンヌ モロタ、 ナニ モロタ

間には、 ミカンを もらった、 なに[を] もらった

ツチュテ コドモガ ヨロコンデ、 (B シー) コー

と言って 子どもが 喜んで、 (B うん) こう

ツルタケジョケ[21]ツチュチェナー。

ツルタケジョケといってね。

38 B : ソー ソー。 アンゲナチ サゲテナー。 (A ウーン)

そう そう。 あんなものを さげてね。 (A うん)

シー。

うん。

宮崎 26-5

39A：コー ニギユルトガ デケチョッタワエ。 マンマール  
こう 握るのが できていたよ。 まんまる

(B ソー ソー ソー ソー)

(B そう そう そう そう)

シテ ウエカリ フタオ カブスッ。

そして 上から ふたを かぶせる。

ア アル モッテ イッツン モッチキヨッタモンジャ。

× あれを 持って いつも 持っていったものだ。

40B：マーコッチャガ。 マーコート アンタタチガ ホンノ \*\*\*  
本当だよ。 本当に あなたたちが 本当に \*\*\*

41A：モー アー タルデー ゴジッテム トッタラ  
もう あの 樽で 50手も とったら

ジッテグライ クルルヨッタナ。 ジャカイヨナ

10手くらい やっていたね。 だからね

42B：イマン ボケアミナンカワナー (A アー)  
今の 棒受網などはね (A ああ)

ヨー クレヨッタワナー サカナワナー。

よく やっていたよね 魚はね。

43A：アンター ゴジュッテチュト アノ イットダルニナ、  
あなた 50手というと あの 1斗樽にね、



ウーン ゴジューオ トッ トキニャ モー ジ ジュー  
うん 50を とる 時には もう × ×××

ジューグライ ヒトニ ヤリヨッタ。(B マーコート)  
10くらい[は] 人に やっていた。(B 本当に)

シト ワケシガ ノッチョットナ、 シッチョル シトガ クット、  
そして 若い人が 乗っているとね、 知っている 人が 来ると、

オリ イッペ ヤックレナリ チュテ イッペ コー  
「私に 1杯 分けてください」 と言って 1杯 こう

ジブンデ コーチヨ、 ソシテ クルットヤカラー。  
自分で 買ってね、 そして やるのだから。

26↑27

44B：マー ムカシャ イザケガ アリヨッタナー。(A ハイ ハイ)  
まあ 昔は 祝いが あったね。(A はい はい)

リョー シタ チュチャ ノミカタ[22]。(A ハー)  
漁を した と言っては 飲み会[をする]。(A はあ)

マー カツオドン ツッタ トキャナ、(A ハー)  
まあ カツオなど 釣った 時はね、(A はあ)

モー ホンーノ イザケデナ、(A ウン)  
もう 本当に 祝いでね、(A うん)

ドンードン イキヨッタ \*\*\*  
どんどん 行っていた \*\*\*

45A：アラ モー イワイジャモンナ。

あれは もう 祝いだものね。

46B：ウーン。 サケノミガ アリヨッタド。

うん。 酒飲み[会]が あったものだったよ。

イマ マコツ アンゲナ コツガ ネナッタワナー。(A ウン)

今[は] 本当に あんな ことが なくなったよね。(A うん)

イマ モー キンチャクアミバッカジャモンナー。

今[は] もう 巾着網ばかりだものね。

47A：キンチャク、オル キンチャクアミトユー モノガ デケテナ

巾着、 ×× 巾着網という ものが できてね

(B ウン) ブラクニ カネガ ハイットナラ イーケンドン

(B うん) 集落に お金が 入るのなら いいけれども

ミーンナ (B マコツ、ヨソシ シトジャーナ)

みんな (B 本当に、よその 人だね)

ソー ヨソシ シトバッカノ (B ヨソシ。ソー ソー)

うん よその 人ばかりの (B よその。そう そう)

フツクロジ。

懐[に入るだけ]で。

モー アトワ トレテン トレンテン ノトナレ ヤマトナレ。

もう あとは とれても とれなくても 野となれ 山となれ[だ]。

宮崎 27-3

サカナガ トレントヤガ アンシトタチニャ  
魚が とれないのだが あの人たちには

カンケヤ ネッチャカイ。(B ンー マコッチャ)  
関係は ないのだから。(B うん 本当だ)

ンジャカイ、アイツガ チョット ムジュンシチョッ トコガ  
それだから あれが ちょっと 矛盾している ところが

(B ハーイ) アットヨナ。  
(B はい) あるのよね。

48B：ジモトノ シトワ ソンスンナー、(A ンー)  
地元の 人は 損するね、(A うん)

キンチャッグ キタラナー。  
巾着[網]が 来たらね。

49A：モー モ、 マ イチ ジダイノ ナミニャ  
もう もう まあ ×× 時代の 波には

ヨー カナワンケンドンヨ。(B ウーン) アレオ マスコシ  
かなわないけれどもね。(B うん) あれを もう少し

イマノ シェイネンナ アタマン ナカニ イレテナ、  
今の 青年は 頭の 中に 入れてね、

ブラクノ ハッテント クミアワセテ (B マーコッチャガ)  
集落の 発展と 組み合わせて (B 本当だね)

宮崎 27-4

シゴトー スレバー (B ウーン マコツ マコツ)  
仕事を すれば (B うん 本当に 本当に)

アー マダー ナンブカ ココワ シェガ イーッチャカリ、  
ああ まだ いくらか ここは 潮流が いいのだから、

ワキノ ブラックカル ミットナ。(B マコツ)  
よその 集落から 見るとね。(B 本当に)

アー リョーワ サビレントヨ。  
ああ 漁は さびれないのだ。

ケッドン アンタ コーケイシャガ オランゴッ ナッタガ。  
けれども あなた 後継者が いないように なったね。

(B マコツナー) ウーン。 ミンナ モー キリカエ シテヨ。  
(B 本当にね) うん。 みんな もう 切り替え してね。

50B: イマー シテ ナンジャジナー、 ワカイ コドモワ  
今は そして なんだよね、 若い 子どもは

リョーシニ ナル コワ オランガ。(A ハイ ハイ)  
漁師に なる 子は いないよ。(A はい はい)

モー ナンジャナ、 リョーシワ モー  
もう なんだね、 漁師は もう

ゼンゼン モー (A ハイ) オランゴツ ナルワナ。  
全然 もう (A はい) いないように なるよね。

宮崎 27-5

51A：モー トニカク シ シコクノ モンノ、 オーン  
もう とにかく × 四国の 人の うん

バション ナルワ。(B マコツ)  
場所に なるよ。(B 本当に)

イマデサエ シコクノ シトガ オイグライ。  
今でさえ 四国の 人が 多いくらい[だ]。

52B：マコツ。 シコクノ シトガ オイナー。  
本当に。 四国の 人が 多いね。

53A：ハイ。 ソコビキアミバッカナー。  
はい。 底引き網ばかりね。

54B：イマン テンプラ[23]ヤオ ミテンナイ。  
今の てんぷら屋を 見てみなさい。

シコクノ シトバッカッジャネーカ。  
四国の 人ばかりではないか。

55A：ハイ。 X3ジャチェー アレジャチェー。  
はい。 X3だって あれだって。

56B：ヨー マタ ハタラキャンナー、 アンヒトタチャーナー。  
よく また 働かれるね、 あの人はね。

57A：シコクノ ニンゲンナ ハタラクテ。  
四国の 人間は 働くよ。

58B : ウーン アサモ ハヨカラナー。

うん 朝も 早くからね。

59A : シコカ オニグン

四国は 鬼軍

60B : ミンナー、 シテ カネモチ ナッチョリャッジ〔24〕ナー。

みんな そして 金持ち〔に〕 なっておられるよね。

61A : ソー。(B ソー) ミンナ アオシマン ヒトー、

そう。(B うん) みんな 青島の 人は

リョーシデ キタ クミジャットジャガ、(B マコツナ)  
漁師で〔=として〕 来た 人たちだったのだが、(B 本当にね)

モー ショーバイオ キリカエテナ、 ミンナー  
もう 商売を 切り替えてね みんな

62B : ミンナ イエヤシキオ モトメテナー。

みんな 家屋敷を 求めてね。

63A : イエヤシキオ イー トコニ カマエヤッタガエ。

家屋敷を いい 所に 構えられたよ。

27↑28

64B : オシテ ブゲンジャン ナッチョリャール ミンナー。

そして 分限者〔=金持ち〕に なっておられる みんな。

ミンナー テンプラヤワ  
みんな てんぶら屋は

宮崎 28-2

65 A : シコクニャ ワタシガ イ イタガ X3ガエドマナ、  
四国には 私が × 行ったが X3の家などはね、

チーサイ アンタトコノ サンプンノイチモ ネー  
小さい あなたのところの 3分の1も ない

ヤ ヤシキジャッタワエ。(B アラー) トールボタンノ。  
× 屋敷だったよ。(B あら) 道端のね。

(B ウーン) シト アノー ナルトカイキョン  
(B うん) そして あの 鳴門海峡の

ガンベキノ ネキ アッタモンジャカリ チーット  
岸壁の そば[に] あったものだから ちょっと

キタカゼガ フクト ナミガ イエン ナケ  
北風が 吹くと 波が 家の 中へ

トブコムヨーナ (B ホー) トコジャッタナ。(B ーン)  
飛び込むような (B ほう) 所だったよ。(B うん)

ワタシ アン フネ コケ[25] イタカイ  
私[は] あの 船[を] 買いに 行ったから

シッチョットヨ。(B エー ソーナ) エー。  
知っているよ。(B ええ そうね) ええ。

66 B : X4アタリガ オッコノ ナリヤッタドー。  
X4などが 大きく なられたよ。

67A：ウーン X4ャナー。

うん X4はね。

68B：ウーン モノスギッ。 キカイドミャ モー

うん ものすごい。 機械などは もう

イーッパイ ハイッチョル。(A フーン) モー

いっぱい 入っている。(A ふうん) もう

69A：マタ シゴツモ シヤルワ。(B シヤルナー)

また 仕事も されるよ。(B されるね)

シコクノ ニンゲンナ (B ウーン) ネバツズイッチャカリ。

四国の 人間は (B うん) 粘り強いんだから。

70B：アンゲナ シンボーワ ウチヘンノ シトタチャ デケンワ。

あんな 辛抱は このあたりの 人たちは できないね。

71A：アー。 マッ ツス シコクノ ツギャ オーイタケンジャロ。

ああ。 まず ×× 四国の 次は 大分県だろう。

(B {笑}) {笑} フン マコツ。

(B {笑}) {笑} うん 本当に。

ニンゲンノ イタ カゴシマケント ミヤザッケンガ

人の いいのは 鹿児島県と 宮崎県が

イチバン イガ。 ジョ シューデモ ダンセーデモ。 マコッチャ。

いちばん いいよ。 女性でも 男性でも。 本当だ。



72B：ジョーデーモ ダンサーデーモ {笑}

女性でも 男性でも {笑}

73A：マコツヨ。(B ウーン) カゴシマケン、 アンマリ ソンゲナ、  
本当にね。(B うん) 鹿児島県、 あんまり そんな、

ジブンサエ イケリヤ シトワ ドンゲ ナッテン  
自分さえ よければ 人は どんなに なっても

イー チュー シター オランモン。  
いい という 人は いないもの。

オタガイニ クーテイコヤ ト ユータラナ、  
お互いに 食べていこうよ と いったらね、

ミヤザキケントカ \*\*\*  
宮崎県とか \*\*\*

74B：ココヘンノ シトワヨ、 アン ヨソシ シトオバ ギョーサン  
このあたりの 人はね、 あの よその 人を 非常に

モゾガッ トコジャジナー。(A ソー。ソー ソー)  
かわいがる ところだがね。(A そう。そう そう)

アーユー イー トコジャナ ココヘンナナ。(A ンー)  
ああいう いい ところだね このあたりはね。(A うん)

ヨソシ シトン シタラ タマランワー。  
よその 人に したら[=してみたら] たまらないよ。

75A：ムカシャナ (B ウン) ヨソン モンガ、ヨソン モンガ クット  
昔はね (B うん) よその 者が、よその 者が 来ると

カタ イシュ ナゲタリ (B ウン) ナンタリ ショット。  
×× 石を 投げたり (B うん) など していた。

ワタシタチガ オヤッタッノ ジダイニャナー。(B ウン)  
私たちの 父親たちの 時代にはね。(B うん)

トコロガ イマ ソーユー ワケニヤイカン。  
ところが 今[は] そういう わけにはいかない。

ヨソン シトオモ (B カワイガルネー) ダイジニ シテヨ、  
よその 人をも (B かわいがるね) 大事に してね、

(B ダイジニ スルヨー) トコロン シトワ モー  
(B 大事に するよ) 土地の 人は もう

ドンゲデン イー。(B ウーン)  
どんなでも いい。(B うん)

アレガ チット カゲチョルワナ。(B {笑})  
あれが ちょっと 欠けているよね。(B {笑})

ウン チット カゲチョル。  
うん ちょっと 欠けている。

ヤッパ チモトン シトワ チモトン シット ナカヨクナッテ、  
やはり 地元の 人は 地元の 人と 仲よくなって、

(B ソーヨナー) ヨソソ シトモ カワイガッテヤットガ

(B そうよね) よその 人も かわいがってやるのが

ホントージャー。 (B アー ハイ)

本当だよね。 (B ああ はい)

76C : コン ムカシワ アメガ フット リョーニ

この 昔は 雨が 降ると 漁に

イケンカッタヤロ オキニ。 (A ハイ)

行けなかつたろう 沖に。 (A はい)

ソンゲン トキニャ ドンゲ シヨンナツタカ。

そんな 時には どのように していなかつたか。

28↑29

77A : ソントキャナイ フネノ ドーグノ テイレオ セン シタナ、

その時はね 船の 道具の 手入をを しなひ 人はね、

モー ザッシカ ホンカオ ヨマント、

もう 雑誌か 本かを 読まないと、

ナーニキャ シゴツガ ネット アンタ、 モー シガエ

なにか 仕事が ないと あなた、 もう ×××

78B : リョーシワナ、 ウーン。 シテ モーナ、

漁師はね、 うん。 そして もうね、

イッシューカン オキ イカンカッタラ [26] モー、 モー

1週間 沖[に] 行かなかつたら もう、 もう

チャガ ワカントジャー。 {笑}

お茶が 沸かない[=お茶を沸かすお金もない]のよね。 {笑}

ゼニュー カシテクレナリ。 コメン カワリ カシテクレナリ  
「お金を 貸してください。 お米の 代わり[を] 貸してください」

モー アリガ ヤマランジャッター。

もう それが 止まらなかった。

79A：ソレ、ソレガ タメニ オヤカタ チ イヨッタチャエー。  
それ、その ために「親方」 と 言っていたのだよ。

80B：ウーン。アレガ ヤマランヨッタジャー。 マコー。  
うん。 それが 止まらなかったよね。 本当に。

ジャカイ オヤカタモ リョーガ ネット オヨバン  
だから 親方も 「漁が ないと きつい」

イヨッタットー。 ノリコー ヤシナワンナランカリ。  
[と]言っていたの。 乗り子を 養わなければならないから。

イマ ホンデン アンゲナ コツガ ネーカッデ イーワナ。  
今[は] それでも あんな ことが ないから いいよね。

81A：ミンナー オヤカタジャモン。  
みんな[=各人が] 親方だもの。

82B：ミンナー オヤカタジャモンナ。  
みんな 親方だものね。

モー イマ ノリコチューワ オランナー。

もう 今[は] 乗り子というのは いないね。

モー ジェンジェンナー。(A オラン オラン オラン)

もう 全然ね。(A いない いない いない)

ミンナー フネモッチャナー。

みんな 船持ちだね。

83A : ウィジ ノリコニ ナッタラ、イマ ノリコニ ナッタラ  
それで 乗り子に なったら、今 乗り子に なったら

クッ[27]ジ オランナランガ ツレチカンカリ ヒトオ。  
食わずに いなければならぬよ 連れていかぬから 人を。

84B : マコッチャナー。 ツレチカン マコッナー。  
本当だね。 連れていかぬ 本当だね。

85A : イマ アンタ モー フネオ コーカイスルデモ ナニ、  
今 あなた もう 船を 航海する[=させる]のでも なに、

ジドー ジドーハツデン、 アン ハツデンキチュ ヤツガ アッテナ、  
××× 自動発電 あの 発電機という ものが あってね、

アオシマカリ、 ゲンバノ ゲンバニ イク トキニヤ  
青島から 現場の 現場に 行く 時には

ソレー ハリオ スエテ ピシャッ、  
それに 針を 据えて ぴったり、

宮崎 29-4

ジジャクデ デンキデ ソレオナ、 カジモ ナンモ ヤムナカシ。  
磁石で 電気で それをね、 舵も なにも // ///。

ソッジェネケリャ アンタ サカナム トランナラン、  
それでなければ あなた 魚も とらなければならない

ドーグモ センナランチャーカリヨ。  
道具[のこと]も しなければならないのだからね。

(B ンー マコツナー) オモチニ イテン カジガ  
(B うん 本当にね) 舳先に いても 舵が

マワットヤカリ。 イマ ジドーシキニ チャーント ウエシタ  
回るのだから。 今[は] 自動式に ちゃんと 上下

アー ムケチカリ デンキデ ハシルゴツ ナッチョットヤカリ。  
ああ 向けて 電気で 走るように なっているのだから。

ホッジャネケラ アンー、 ニヒャクバリキヤ  
そうでなければ あの 200馬力や

ヒャクロクジューバリキジーノ フネガデスヨ (B ウーン)  
160馬力の 船がですよ (B うん)

ジットンカンノ フネガ アノー ヒトッデ  
10トンからの 船が あの 一人で[=自動で]

イキョットヤカリ。  
行っているのだから。

86 B : ウーン。 アンタ マダ リョーニ イキナットカ。  
うん。 あなた[は] まだ 漁に 行きなさるのか。

87 A : ウーン イキ イキマスヨ。 ヒマナ トキャナ。  
うん ×× 行きますよ。 暇な 時はね。

サカナツリ。  
魚釣り[に]。

88 B : ホー ゲンキジャー。 (A ハイ) ンー  
ほう 元気だね。 (A はい) うん

89 A : ウンチャ アンー コドモガ ツレチカンケンドン  
いいえ あのう 子ども[=息子]が 連れていけないけれども

90 B : ホンデン ムスコタチガ モー ツレチ ツレテイキャランドガ。  
それでも 息子たちが もう ××× 連れていかれないだろうが。

トシガ イキナッタカイ。  
年が いきなさった[=年をとりなさった]から。

91 A : アンー ヨメサンガナ、 (B ウーン)  
あのう お嫁さんがね、 (B うん)

モー イキナンナ イキナンナ、  
「もう 行きなさるな 行きなさるな」

(B イクナ イクナ。 ンー)  
(B 行くな 行くな。 うん)

ジャケンドン ウチノ サキノ トナンノ X5サンヨ、  
だけれども 私の家の 先の 隣の X5さんよ、

(B ウーン) X5 (B X5サン) ウーン アラ アンタ、  
(B うん) X5 (B X5さん) うん あれは あなた、

29↑30

ジブンデ イクトジャカイ フネオ モチ  
自分で 行くのだから 船を 持って

92B : アンシタ マタ ヒトッデ イキナルカ  
あの人は また 一人で 行きなさるか

アンシトワ マダ ツイワ アンタヨリモー。  
あの人は まだ 強いね あなたよりも。

93A : ツイムン。 アー アノー、 アオシマン シエイネンジャモンナ、  
強いもの。 ああ あの 青島の 青年だものね、

アンシタ。  
あの人は。

94B : マッコー。 オモシリ シトデナ。(A ハイ)  
本当に。 おもしろい 人でね。(A はい)

ウーン。 マッコー。  
うん。 本当に。

95A : コエノ フテ〔28〕 シトワ オトコデン オナゴデン  
声の 太い 人は 男でも 女でも



アンゲ タッサナトヨ。  
あんなに 達者なのよ。

96 B : {笑} ゲンキナ シトジャー。  
{笑} 元気な 人だよ。

97 A : ウン コエカイ ハズレタ シトワ アンマリ トシヨリ ナッチ  
うん 声から はずれた 人は あんまり 年寄り[に] なって

98 B : アンタモ ゲンキナワー。 マケナランガ。  
あなたも 元気だよ。 負けなさないよ。

99 A : ダメジャー ヤッパ バサンガ シンデカリ  
だめだよ やっぱり おばあさん[=妻]が 死んでから

モー カタウデオ オトサレタゴタルモン。  
もう 片腕を 落とされたようだもの。

100 B : ウーン ソラ ソンゲヨナ。 (A ウン)  
うん それは そんなだよ。 (A うん)

ヤッパ ヒトリ ナットナー。 (A ハイ) サビシーワ。  
やっぱり 一人[に] なるとね。 (A はい) 寂しいよ。

101 A : シニャ コドモ オナゴンコワ タッタ ハチニン  
いや 子ども 女の子は たった 8人

モッチョルケンドンナ。  
持っている[=いる]けれどもね。

102 B : イー ジャネカ。 ハチニン  
いいではないか。 8 人

103 A : コッチニャ コッチニャ、 シャチ [29]、  
こちらには こちらには 弟、

オトートガ ヒトリ クレチョッダケデ  
弟が [=に] 一人 [嫁に] やっているだけで

アトワ ミンナ ヨソジャ ミヤザキノ  
あとは みんな よそだ 宮崎の

104 B : エー。 ミンナ ヨソナ、 オナゴンシタ。(A アー?)  
ええ。 みんな よそか、 女の人。(A はい?)

ミンナ ヨソカ、 オナゴンシター。  
みんな よそか、 女の人。

105 A : ハー ハーイ ハイ。 イチバン スエッコ、 アン  
はあ はい はい。 いちばん 末っ子、 あの

X6 チュテ オッタガナ (B フン フン フン フン フーン)  
X6 といって いたがね (B うん うん うん うん うん)

アッコン シャチゴニ イトコドーシ クレチョッダケ。  
あそこの 弟の子に いとこ同士 [嫁に] やっているだけ。

106 B : エー ソーナ。 エー。  
ええ そうか。 ええ。

宮崎 30-4

107A : アトワ ミンナ ミヤザキヤラ ナゴヤヤラ (B オー)  
あとは みんな 宮崎やら 名古屋やら (B おお)

トーキョーアタリニ。

東京あたりに。

108B : オー オー オー。 トイ トコジャナ。  
はい はい はい。 遠い 所だね。

109A : ミー ガッコ ダシタカリヨ。(B ンー)  
いい 学校[に] 出したからね。(B うん)

モドッ モー モドックッ トキニャ オキヤクサンジャモン。  
××× もう 帰ってきた 時には お客さんだもの。

(B オキヤクサンジャ) ハイ。 ホンジャカイ  
(B お客さんだ) はい。 それだから

チョーナンノ ヨメサンガ イチバン クロー スルワ。  
長男の お嫁さんが いちばん 苦勞 するよ。

110B : アンタダッノ ドーネンジャヨー、(A ハイ)  
あなたたちの 同年ではね、(A はい)

アンタタチガ ゲンキナ ウッチャロガ。(A ハイ) ナー。  
あなたたちが 元気な ほうだろうね。(A はい) なあ。

マコー イーワー。  
本当に いいよね。

111A：イナカノ ホージャ モー ドーネンモ  
田舎の ほうでは もう 同年も

ヨキ オランワ。

たくさん[は] いないよ。

シテ ガッコン デッ トキニャー オナゴモ オトコモ  
そして 学校に 出る 時には 女も 男も

オイカッタデスワナ。(B ウーン)

多かったですよ。(B うん)

オナゴト オトコト イッション ナライヨッタカイ。  
女と 男と 一緒に 習っていたから。

112B：ソー ソー ムカシャナ。  
そう そう 昔はね。

113A：ウン。 デ ワタシドンガ ンー ドーネンノ  
うん。 それで 私たちが うん 同年の

オナゴト オトコソエチ ハチジュー、ロクメイ  
女と 男を 合わせて 86名

オッタモンナ。

いたものね。

114B：ホー ソンゲ オイカッタナ。(A ア オイヨ) ホー。  
ほう そんなに 多かったの。(A ああ 多いよ) ほう。

115 A : ホイデ ホントーニナ、 アー ナンノ シトワ オルケンドン  
それで 本当にね、 ああ なんの 人は いるけれども

ムカシャナ、 チョゴ オクレチョッター、 イロンナ  
昔はね、 ちょっと 遅れていたり、 いろいろな

116 B : ムカシャ アレガ アットヨナ。(A アーン)  
昔は それが あるのよね。(A うん)

ホッジャカリ ワカランワ。  
だから わからないよ。

30↑31

117 A : モー ガッコーワ ラクダイワ サセヤラヤッタケンドン  
もう 学校は 落第は させなさらなかったけれども

シェーシェキノ ワリ モンナ、 アトデ  
成績の 悪い 者は、 あとで

118 B : ンダー〔30〕 アンコロワ ラクダイガ アッタドー。  
ああ あの頃は 落第が あったよ。

119 A : ウン アッタ。(B ンー)  
うん あった。(B うん)

ハリダシガ シチャリヨッタカンナー。  
貼り出しが してあったからね。

120 B : ウン。 アッタツナ ラクダイガー。  
うん。 あったね 落第が。

121A : マーコッ アン ハリダシュ ミケ イク トキニャ、  
本当に あの 貼り出しを 見に 行く 時には、

モ ワタシシャ シェンシェーカッ タタカレタ コツガ  
もう 私は 先生から 叩かれた ことが

アットヨ コー ミエター。(B ハー ー)

あるのよ こう 見えても。(B はあ うん)

シテ X7サンチュテ シューニューガカリ  
そして X7さんといって 収入係[に]

キショリッター ヤクバニ。(B エー)

来ておられた 役場に。(B ええ)

ノベオカカンナー (B エー ソーナ) ウーン。  
延岡からね (B ええ そうか) うん。

X7サンテ メガネオ カケタ (B エー)

X7さんという 眼鏡を かけた (B ええ)

バーチャント フタッデナ。(B エー エー)

おばあさんと 二人でね。(B ええ ええ)

ジェ アーン ソンゲ アン

それで あの そんな あの

X7サン X7サン ワタシガ イチバン シューシェッカ

「X7さん X7さん 私が いちばん 成績が

宮崎 31-3

コンダ オイカッタッチャガ、  
今度は 多かった[=よかった]のだが、

シチバンメニ シチャルモンナ ユータラ、  
7番目に してあるものな」[と]言ったら、

ソングナ ハザ ネー、 オリガ ガッコン イッテ  
「そんな はずは ない、 私が 学校に 行って

シラベチミテクッ チュテ、 シラベッキタラ  
調べてみてくる」 と言って、 調べてきたら

オマエガ イチバン ウエジャッタッチャ。  
「あなたが いちばん 上だったのだ」

122 B：イチバンジャッタナ  
1番だったの？

123 A：ウン イチバンジャッタ。 ヤッパリ。  
うん 1番だった。 やっぱり。

124 B：ホー ドーシテ イー コツガ、 ソエナ。 {笑}  
ほう なんと いい ことが、 そんな。 {笑}

125 A：ソーシテ ヤカマシュ ユータ、 ワタシガー センセイニ。  
そして やかましく 言った、 私が 先生に。

(B ウン ウン) モー コンゲナ ヤッチャカリ。

(B うん うん) もう こんな 人間なのだから。

宮崎 31-4

126 C : ソーン アンタタチワ ムカシワナー、  
その あなたたちは 昔はね、

オトコト オンナガ コー アソブ バショ、  
男と 女が こう 遊ぶ 場所、

シリアウ バショワ ドンゲン トコヤッタ  
知り合う 場所は どんな 所だった？

127 A : ガッコーヤラ ヤマジャッタナ。 ソシト ソレカラー  
学校や 山だったね。 そして それから

128 C : ソロソロ ハナシテンナイ ソンコツ。 ソソコツ。  
それでは 話してみなさい [=話してください] そのことを。

アー アー アンタト フタッデ。  
ああ ああ あなたと 二人で。

129 A : シンヤー (B ハーイ) コンシトタチットワ マー  
いや (B はい) この人たちとは まあ

トシガ ダイブシ チガウカンナ。(C ンー)  
年齢が だいぶ 違うからね。(C うん)

モー ドーネンノ クミトナ、 イッシヨニナ、  
もう 同年の 人たちとね、一緒にね、

ガクヒオ トリケ イク ハナシオ イタシマス[31]。 スルワ。  
学費を とりに 行く 話を いたします。 するね。



トー                    ワタシドンガナ、  
と[いうのは] 私たちがね、

サンヨッタリ   マー   オトコデ   イソー   オー   モー  
3、4人            まあ   男で            磯を            おお   もう

キゲンシェッ [32]ノ   コロカル   スミヨッタ [33]デスナー。  
紀元節の                    頃から            潜っていましたね。

キゲンシェッテ   イエバ   ニグワッノ   トーカジャアリマセンカエ。  
紀元節と                    いえば   2月の            10日ではありませんかね。

(B   ソー   ソー)   ソシト   シュー   ソシテナー、  
(B   そう   そう)   そして   ×××   そしてね、

ソンコロニ   ジョシェーガー   サンニングライ、  
その頃に            女性が                    3人くらい、

ダンシェーガ   ジューニングライデナ   イソスミ   イキヨッタツヨ。  
男性が                    10人くらいでね            磯潜りに            行っていたのよ。

130B：アラ   イッショニ。 (A   ンー)   ホー   オトコト   オナゴト。  
あら   一緒に？            (A   うん)   ほう   男と            女と。

131A：デナ、            ジョセヤー   スマセントヨ。            (B   ンー)  
それでね   女性は            潜りはしないのよ。 (B   うん)

ワタシドンガ   トッテキタ   アー   ナガラメ [34]ヤラ   サザエオ  
私たちが            とってきた   ああ   ナガラメやら            サザエを

ウル ヤクメヨ。

売る 役目だよ。

31↑32

132B：オー ホー ホー。 エー ウル ヤクメ。

おお ほう ほう。 ええ 売る 役目。

トルコタ オトコガ トッチ。

とることは 男が とって。

133A：ウン ウシテ アトノ フタリワ アノー タキモン

うん そして あとの 2人は あの 薪[を]

ヒルッキテ オッドミ スクマスーッ。(B エー)

拾ってきて 私たちを 温めさせる。(B ええ)

フデ トッテキタ モンナ (B エーエ)

それで とってきた ものは (B ええ)

ミンナ キョードーヨ。(B エーエ) シナモンナナ。

みんな 共同だよ。(B ええ) 品物はね。

ヨキ トッタトカ スクノ トッタトカワ ナクシテ

たくさん とったとか 少なく とったとかは [関係]なくて

ミンナ キョードーデ ガクヒオ コータリ

みんな 共同で 学費を 買ったり [=支払ったり]

ドシタリ スル、ジダイガ アッタナ。(B ーン)

どうしたり する 時代が あったね。(B うん)

宮崎 32-2

ヒジョーニ アーン オヤモ カテーテキニモ タスカルシナ、  
非常に あの 親も 家庭的にも 助かるしね、

オストー ホンニタチモ イロイロナ ハチガッカトカ  
そうすると 本人たちも いろいろな 8学科とか

イロナ ホンヌ カウヨッタ〔35〕ワエ。(B エー)  
いろいろな 本を 買っていたよ。(B ええ)

シテ アノ トージワ ウマイ モンガ ネクシテム〔36〕  
そして あの 当時は おいしい ものが なくても

ハトラケバ サザエデン ナガラメデン オイシカッタモンナ。  
働けば サザエでも ナガラメでも おいしかったものね。

134 B : マコツ マコツ。 イソモンナ ンメモンナー。  
本当に 本当に。磯のものは おいしいものね。

135 A : ウン。 スト オヤカリ ガクヒオ モラワンテム、 ン  
うん。 すると 親から 学費を もらわなくても、 うん

イッシューカンニ イックウイズツ ソーユー コトー ヤレバ、  
1週間に 1回ずつ そういう ことを すれば、

オカネワ モッチョッタモン。(B ウン)  
お金は 持っていたもの。(B うん)

ミヤザキデム イッシューニ イタリ。  
宮崎でも 一緒に 行ったり。

宮崎 32-3

ソソ ソソゲシテ ナカヨク〔37〕 アソビヨッタ。  
×× そんなにして 仲よく 遊んでいた。

(B ソー ソーナ) アー。

(B うん そうか) ああ。

アンタタツノ ジダイワ マタ チガウワナー。  
あなたたちの 時代は また 違うよね。

136 B : ウソ ワシドンガ コロワ、 アンマー ソソゲナ コター  
うん 私たちの 頃は、 あんまり そんな ことは

セソゴタール。  
しないようだ。

137 C : ドソゲン トコデー ソノー オトコト オンナガ  
どんな 所で その 男と 女が

ナカヨク ナリヨッター (A ハー?)  
仲よく なっていた? (A はあ?)

138 B : マー ドソゲナ トコテ アンマリ ダー マー {笑}  
まあ どんな 所って あんまり ×× まあ {笑}

アソバンゴタッダー、 オトコト オンナゴワ。 マー  
遊ばないようだったよ、 男と 女は。 まあ

139 A : オンダロマ〔38〕 ヨー アソビヨッタ。  
私たちは よく 遊んでいた。

宮崎 32-4

140 B : エー アノー ワシドマ アンマリ アソバンカッター。  
ええ あの 私たちは あんまり 遊ばなかった。

141 A : ンデン オナゴン イエン、ノー ウチガ  
でも 女の子の 家の 家は

カテーテキナ、 カネモチガ オイカッタワ。  
家庭的[に]ね、 金持ちが 多かったよ。

X8チャンジャー X9サンジャー。 アン Cカネ  
X8ちゃんだの X9さんだの。 あの Cがね

シッチョンナッドガ、 (B ンー) アリドム。  
知っていなさるだろうが、 (B うん) あの人たち。

ウチガ ウチガン イー クミバッカッジャッターワ。  
家が 家が いい 人たちばかりだったよ。

ワタシトコン キンジョワ。  
私の家の 近所は。

オシト、 マ ソレ イグワイノ シトワナー  
それと、 まあ それ 以外の 人はね

トシナ シトガ、 ミッツモ ヨッツモ ウエノ シトガ、  
年[上]の 人が、 三つも 四つも 上の 人が、

アノー ハイッチョリヨッタワ。  
あの 入っていたよ。

ドーユー モンカ シランケンドン、  
どういふ ものか 知らないけれど、

ガッコー ソツギョー セン ウチナー、  
学校を 卒業 しない うちにね、

ドーキューセイデ ヨメサンニ イテ  
同級生で お嫁さんに 行って

コガ デケタリ スル シトガ オイカッタヨ。  
子どもが できたり する 人が 多かったよ。

32↑33

オシター、 トシオー アン コセキオ シラベチミタツヨ  
そしたら、 年を あの 戸籍を 調べてみたのよ

ワタシドンガ。 オシタラ アンタ ミッツン ヨッツン  
私たちが。 そしたら あなた 三つも 四つも

ウエン シトジャモン。(B アラー。 エー ンラン)  
上の 人だもの。(B あら。 ええ うん)

デモナー。 デ カラダモ オーキーカッタワー、  
それでもね。 それで 体も 大きかったよ、

ワタシドンヨリモー。 ミッツ  
私たちよりも。 三つ

142B : ソンゲナ シトタット ナカヨシ ナッチョンナッタツカ。  
そんな 人たちと 仲よし[に] なっていなさったのか。

143A : イヤ イヤー ソラ ツ ソン  
いや いや それは × その

144B : ナカヨシト チガウトカ。  
仲よしと[は] 違うのか。

145A : ナカヨシ シタ。(B ンー) ドーネングライ、(B ンー)  
仲よく した。(B うん) 同年くらい (B うん)

オー ドーネンノ シト。 ソンゲナ シトガ ヤッパー  
うん 同年の 人。 そんな 人が やっぱり

ジューニングライ マジッチョッタテ  
10人くらい 混じっていたって

146B : マダ X8チャンモ ゲンキナジ (A ウン)  
まだ X8ちゃんも 元気だよ (A うん)

キションナッタ ボンニ。  
来ておられた お盆に。

147A : コナイダ オータラ (B ンー) ハカニ マイッタ  
この前 会ったら (B うん) 墓に 参った

チューチカリ。  
と言って。

148B : ウーン。 マイッチョンナッター。 \* \* \*  
うん。 お参りしていなさった。 \* \* \*

149 A : コナイダ X9サンノ、オー ココン オリガ ウシロニ  
この前 X9さんが、×× ここの 私の 後ろに

X9サンヨ、(B ウーン) コリガ マタ スワッチョチカリ  
X9さんよ、(B うん) これが また 座っていて

アンタ ダレカエ ミタヨーナ シトジャケンドン。  
「あなた だれかな? 見たような 人だけれど」[と言うのだ]

ナン トボケチョットカ チュチ  
「なに[を] とぼけているのか」 と

オリューザコ[39]ン コトバデ イエバヨ、(B ウン)  
折生迫の ことばで 言うよね、(B うん)

オレジャガー ユータラ、  
「私だよ」 [と]言ったら、

ンマーコツ オラ ボケタッチャネードカイ  
「本当に 私は ぼけたのではないだろうか」

チ イヨリヤッタ。  
と 言っていなさった。

150 B : ウーン。 アンシトモナ イマナ、  
うん。 あの人もね 今ね

サドワラ[40]ン ホニ オンナットト。  
佐土原の ほうに いなさるのだって。



(A ハイ ハイ) ンー。 トユナッター チナルガ。

(A はい はい) うん。 遠くなった と言いなさるよ。

ホロホロ イナルガ。

ほろほろ [愚痴を]言いなさるよ。

アンシトモ ジーチャンガ ナクナンナッタカンナー。

あの人も おじいさん [= 夫] が お亡くなりになったからね。

(A ンー) シンナッタモンジャカイヨ、

(A うん) 死なれたものだからね、

サビシュナンナッタツチャワイ。

寂しくなれたのだね。

151A : ンジャカイ トキドキャー モー ドーネンカイニ カエッテコイ  
それだから 「時々は もう 同年会に 帰ってこい」

チュチ、 (B ンー) ドーソーカイ ハイリ。

と言って、(B うん) 同窓会[に] 入りに [= 参加しに]。

ンニャー ハイッチョルコター ハイッチョットヨナ。

いや 入っていることは 入っているのよね。

152B : ンー。 マダ ドーネンコー シナットカ。

うん。 まだ 同年講を しなさるのか。

153A : ハーイ シ シマスヨ。

はい × しますよ。

154 B : ヘー ソラ マタ メズラシーガ。 シーン。  
へえ それは また 珍しいね。 うん。

155 A : コンダ ワタシトコガ ヤドジャ コラー。  
今度は 私の家が 宿だ これは。

ババガ オランケンドン ヨメジョガ オルカリ。  
おばあさん[=妻]が いないけれども 嫁が いるから。

156 B : アンタトコワ ヨメサンガ ヨカランナカイ。 ウーン。  
あなたの家は お嫁さんが いい人だから。 うん。

157 A : ウチン ヨメジョワ ハタラクジナー。  
うちの 嫁は 働くよね。

158 B : X10サンガ チカゴロ ミランガー。  
X10さんは 近頃 見ないよ。

159 A : アシガ ワリツ。 (B ウーン) X10クンナナ。  
足が 悪いのだよ。 (B うん) X10君はね。

160 B : X11サンニナ (A ー)   
X11さん[=医院]にね (A うん)

マイーニチ アッコン オクサンガ ツレチイキヨンナッタツヨ  
毎日 あそこの 奥さんが 連れていきなさっていたよ

マイーニチ。 (A X11サントコニジャロー)  
毎日。 (A X11さんのところにだろう)

X11サンニ。 チカゴロ チコット ミランカイナ。

X11さんに。 近頃 少しも 見ないからね。

161A：アシガ ワリツ。

足が 悪いのだよ。

162B：アシガ ワリッチャロカイ。 ウーン。

足が 悪いのだろうか。 うん。

33↑34

163C：アントト ドッチガ ウエ X10サント (A アー?)

あなたと どっちが 上[か] X10さんと (A ああ?)

164B：ド ドーネンヨナ ドーネン。 (A ハイ)

× 同年だよな 同年。 (A はい)

165C：ドーネン。 X10サンモ? ソカー ソコノ X12モ?

同年。 X10さんも? それから そのの X12も?

(A ウーン。 アン X12) X12モ?

(A うん。 あの X12) X12も?

166B：ウーン X12サンモ イッショジャ。

うん X12さんも 一緒だ。

167C：アレモ イッショナ、(B イッショジャ)

あれ[=あの人]も 一緒かな? (B 一緒だ)

アラ ボク イトコン ナットヨナ。 アラナー。

あの方は 私[と] いとこに なるのよね。 あの方はね。

宮崎 34-2

168 B : ウーン。 イトコン ナンナットジャガナー。

うん。 いとこに なりなさるのだよね。

ドーカー ワリデスゲナナー アンシター。

どこか 悪いそうですね あの人は。

169 C : ソー。 モー チット ワリナ アリモナー。

うん。 もう 少し 悪いね あの人もね。

170 A : ア アラ ガッコーデ デクルヨッタ〔41〕ワエ、

× あの人は 学校で できていたよ、

X12ワー。(B ソー) X12ワ ヤッパ

X12は。(B うん) X12は やっぱり

サンブン シバングライジャッタナ。(B ウーン)

3番 4番くらいだったな。(B うん)

ジューニングライワ ワシトコワ アノー

10人くらいは 私のところは あの

ワシタッタッノ キューワナ、 アタマン イートガ オッタワ。

私たちの 級はね、 頭の いいのが いたよ。

X13ナ、 X10、 スト アノ X14ハンノ ムスコン

X13ね、 X10、 それと あの X14さんの 息子の

バシャヒキノ X15チュートガ オッタワ。(B エー エー)

馬車ひきの X15というのが いたよ。(B ええ ええ)

宮崎 34-3

X15、ソレニ X16。 アラ オマエン オジサンカ ナンカ、  
X15、それに X16。 あれは あなたの おじさんか なにか

(B ウン オジキノナー) ンー。 ミンナ

(B うん おじのね) うん。 みんな

アタマン イー クミバッカイジャッタガ。 X13。

頭の いい 人たちばかりだったよ。 X13。

171B：アタマン イートガ オラニャ アンタ、

頭の いいのが いなければ あなた、

グゥンタレ[42]ガ オロカ マター。 {笑}

悪いのが いるだろうか また。 {笑}

172A：アンター ホンジャカンナー、 アンゲナ ソンナ

あなた それだからね、 あんな[人の] それ[=血筋]は

ヤッパ イマデン デクッジナ、 マゴドンガナ。

やっぱり 今でも できるよね、 孫たちはね。

コーコーン デチョッチェン ヤッパ イー シェーシェキデー

高校を 出ている ヤッパ いい 成績で

エー アッコー スンデキテモー ダイガク ソツギョー

ええ あそこを すませてきても 大学[を] 卒業

シテキテム、 シュショッカ ハエジナー アンゲナ タ。

してきても、 就職が 早いよね あんな 人は。

173C : ムカシャ ベンキョー サセヨッタッチャ アオシマー。  
昔は 勉強を させていたんだ 青島は。

174A : シヨッタヨー。  
していたよ。

175B : アオシマワ ワリト、 ベンキョー サスッ トコデスガナー。  
青島は わりと 勉強[を] させる ところですよ。ね。

176A : ベンキョーワ シヨッタヨ。(B ウン) アンタ  
勉強は していたよ。(B うん) あなた

ジナン サンナン  
次男 三男

77B : アンタ ガッコン センセーデモヨ ワリト オイデスヨ。ナー。  
あなた 学校の 先生でもね わりと 多いですよ。ね。

(A ン) ココン アオシマワナー。  
(A うん) ここの 青島はね。

178A : イチバン オイー。 ガッコン センセイヤ。  
いちばん 多い。 学校の 先生は。

オシテ ソレモジャガナ、 アノー イナカン シトデモ  
そして それもだがね、 あの 田舎の 人でも

アンマリ シサンガ ナイカッデ[43]、  
あまり 資産が ないから、

宮崎 34-5

ジナン サンナンニ ワケテ クルット  
次男 三男に [財産を]分けて やると

ジブンタチガー アー エーキョー スルカリヨ  
自分たちが ああ 影響 するからね

ベンキョー サセヤルカリ アタマン イー コドモワ  
勉強 させなざるから 頭の いい 子どもは

デケチョル ワケヨナ。  
できる わけよね。

ホンジャカリ アン マ タ タワ ヘヤ セントヨ  
それだから あの まあ × 田んぼは 増えは しないのよ

チョーナンノ ホカリ。  
長男の ほうから。

ホジェーン ザイサンナ ネケンドン カラダニ ミオ  
////// 財産は ないけれども 体に 身を

アノー ガクモンオ ミニ ツケチョルカリ  
あの 学問を 身に つけているから

ジブンタチガ、 ショーライ オーキク ナッテン〔44〕  
自分たちが、 将来 大きく なっても

コマルヨナ コタ ネットチャガエー。  
困るような ことは ないのだよ。

宮崎 34-6

ミンナナ ヨソニ イッチョンナットヨ。 ジナン サンナンナ。  
みんなね よそに 行っていなさるのよ。 次男 三男は。

X9サントコンー コガ オランムンジャカイ  
X9さんの家は 子が いないものだから

X12クンガ コガ オランモンジャカイ、  
X12君は 子が いないものだから、

アノ オトートガ コドモオ モロチョンナットヤロガー。  
あの 弟の 子どもを もらっていなさるのだろうが。

179C : X17ントコン コオナ。(A ア X17サンノ)  
X17の家の 子をね。(A ああ X17さんの)

(B エー エー ジャゲナナー)  
(B ええ ええ そうだってね)

34↑



## 宮崎県宮崎市1981注記

〔1〕 オヨバン

「やる気が起きない」「苦しい」「きつい」「おっくうだ」といったニュアンスの語。もっぱら否定形で使われる。宮崎では、同様の意味合いの語の「ヨダキー」（古語「よだけし」の転）や「ノサン」と並んで、消極的な県民性を話題にする時によく引き合いに出される。

〔2〕 クリヤリ

「クレヤル」の転。「ヤル」は軽い敬語。

〔3〕 ヨッタ

過去の習慣を表す。

〔4〕 ヨカランナ

「世話好き」「気がきく」といったニュアンスの語。

ただし、文脈によっては「余計なおせっかいをする」といったマイナスの意味合いで使われることもある。

〔5〕 ケンドン

逆接は、「けれども」の転じた「ケンドン」が一般的。「ケンド」とも言う。

〔6〕 チェ

「て」にあたる接続助詞は「チェ」がもっとも古く、その次に「チ」が古い。さらに、若年層では、共通語と同じく「テ」が使われる。

〔7〕 ジコシキンヌ

ナ行連声。「自己資金」「本」「新聞」など、「ン」で終わる語に助詞の「は」「を」が続く時は、「ホンナ ヨマン」（本は読まない）、「シンブンヌ ヨンダ」（新聞を読んだ）のようになる。

〔8〕 カシテクルル

中年層、特に男性は、動詞の二段活用をよく使う。

〔9〕 キンチャクアミ

巾着網。裾に金属製の環をつけ、その環に1本の網を通した網。または、それを用いた漁法。船で網を円形に張り、網を引き締めると、巾着の口のように網の底がくくられ、魚をとる。

- [10] ボーケアミ  
棒受網。方形・円形・箕形袋状の網。または、それを用いた漁法。一方の端に浮きをつけ、他方の端を水中に沈めておき、明かりや餌で魚を誘い集めて、網の裾を引き上げてとる。
- [11] ジョサン  
「おじいさん」「おばあさん」を「ジョサン」「バサン」と言う。長音は短く発音されることが多い。
- [12] アシハコ  
履き物の一種か。
- [13] フマニャ  
靴や草履や下駄などを「履く」ことを「フム」と言う。
- [14] ジョール  
「草履」は「ジョリ」または「ジョーリ」と言う。ここは「草履を」で、「ジョール」となっている。
- [15] サーラ  
魚名。サワラ。
- [16] サゴシ  
魚名。サワラの幼魚。
- [17] ダス  
魚名。
- [18] サメンヨッタ  
覚えなかった。「サメンカッタ」または「サメンカリヨッタ」が一般的か。
- [19] イーナット  
「イウ」（言う）＋「ナル」（敬語）＋「ト」（準体助詞）の転。「言いなさるの」の意。「ナル」は高い敬意のある敬語。
- [20] ワタリヨッタ  
「ワタル」は「配分される」「配分にあずかる」の意。
- [21] ツルタケジョケ  
「ショケ」は、「ざる」または「かご」。ここでは、「ツルタケジョケ」と連濁を起こしている。

〔22〕 ノミカタ

飲み方。一般に「焼酎を飲む会合」のことを言う。なお、「カタ」には、「菓の飲み方」のような共通語と同じ使い方もある。

〔23〕 テンプラ

魚のすり身に塩・砂糖・でんぷんなどを加え、油で揚げたもの。さつま揚げの一種。

〔24〕 ジ、ジー

文末詞。共通語の「だよ」のニュアンスでよく使われる。

〔25〕 ケ

「ミケ イク」（見に行く）、「クミケ イク」（汲みに行く）などのように、動詞のあとについて目的を表す。

〔26〕 イカンカッタラ

現在では、過去の否定は「イカンカッタ」が主流だが、かつては、「イカザッタ」が高年層に聞かれた。

〔27〕 クッ

合拗音の「クッ」「グッ」は、高年層では比較的よく保たれているが、個人差も世代差もある。

〔28〕 フテ

太い。大きい。「フティ」「フティー」「フチ」「フチー」が一般的。

〔29〕 シャチ

舎弟。「弟」の意。「長兄」は「スリョ」（惣領）と言う。

〔30〕 ンダー

「ンダ」「ンダー」「ンダマ」「ンダマー」は、驚いた時に発する間投詞。

〔31〕 イタシマス

ここは妙に改まってしまった。すぐに気づいて、次に「スルワ」と言いなおしている。

〔32〕 キゲンシェッ

紀元節。1872(明治5)年に神武天皇即位の日を設定して祝日としたもの。2月11日。

- [33] スミヨッタ  
「スム」は「潜る」の意。ここでは、磯潜りのことを言っている。
- [34] ナガラメ  
貝の名前。トコブシ。
- [35] カウヨッタ  
買っていた。「カイヨッタ」が一般的か。
- [36] ネクシテム  
なくても。「ネーシテム」が一般的か。
- [37] ナカヨク  
仲よく。「ナカユー」が本来。
- [38] オンダロマ  
「オンダ」(私) + 「ドモ」(複数) + 「ワ」(助詞) の転。私たちは。
- [39] オリューザコ  
地名。宮崎市折生迫。
- [40] サドワラ  
地名。宮崎市佐土原町。旧・宮崎郡佐土原町。
- [41] デクルヨッタ  
「デケヨッタ」(できていた) の言いそこないか。
- [42] グウタレ  
「粗悪品」の意。人についても言う。
- [43] ナイカッデ  
ないから。「ネーカリ」が一般的か。
- [44] オーキク ナッテン  
「オッコノ ナッテン」「オーキュー ナッテン」が一般的か。

# 作成・公開の経緯

## 「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次(昭和52(1977)～54(1979)年度)から第7次(昭和58(1983)～60(1985)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

### (1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

### (2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

### (3) 調査内容

- ①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)
- ②老年層の男性2人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)

③老年層の女性 2 人の対話、または、老年層の女性 3 人の会話（1 時間）

④老年層と若年層との対話、または、両者を含む 3 人の会話（1 時間）

⑤老年層の男性 2 人の、目上の者と目下の者の対話（2 時間）

⑥場面設定の対話（1 時間、各場面につき 1 ～ 3 分程度）

場面に応じて、老年層の男性 2 人の対話、または、老年層の男女各 1 人による対話

⑦当該地域に伝わる民話（1 時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は、

⑧老年層の女性 2 人の、目上の者と目下の者の会話（1 時間）、

または、

⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の、2 人の対話（1 時間）

を収録する。

①～⑤、⑧、⑨については、話題は自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は、自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ、「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各都道府県教育委員会が協議して、全国共通の数場面を設定する。

#### (4) 調査地点

調査地点は、各都道府県について 5 地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて、各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上、複数の区域に分かれる場合は、方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に、離島など、特色の認められる方言は可能な限り収録する。

#### (5) 話者

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

#### (6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

#### (7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域の密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。



なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

## 「各地方言収集緊急調査」地点一覧

### 北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡檜法華村(→函館市)
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

### 青森県

- 02a 下北郡川内町(→むつ市)
- 02b 北津軽郡市浦村(→五所川原市)
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町
- 02e 弘前市

### 岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

### 宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町(→南三陸町)
- 04b 栗原郡築館町(→栗原市)
- 04c 仙台市
- 04d 亶理郡亶理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

### 秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村(→仙北市)
- 05d 河辺郡雄和町(→秋田市)
- 05e 湯沢市

### 山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡櫛引町(→鶴岡市)
- 06d 東田川郡朝日村(→鶴岡市)
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

### 福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町(→会津美里町)
- 07c 大沼郡昭和村

### 茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村(→常陸太田市)
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村(→鹿嶋市)
- 08e 古河市

### 栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町(→佐野市)

### 群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀨町
- 11f 入間郡大井町 (→ふじみ野市)

千葉県

- 12a 海上郡飯岡町 (→旭市)
- 12b 印旛郡印西町 (→印西市)
- 12c 長生郡長生村
- 12d 木更津市
- 12e 館山市

東京都

- 13a 台東区
- 13b 西多摩郡檜原村
- 13c 大島町
- 13d 三宅村
- 13e 八丈町

神奈川県

- 14a 愛甲郡愛川町
- 14b 横須賀市
- 14c 秦野市
- 14d 小田原市

新潟県

- 15a 村上市
- 15b 西蒲原郡分水町 (→燕市)
- 15c 十日町市
- 15d 糸魚川市
- 15e 佐渡郡佐和田町 (→佐渡市)

富山県

- 16a 黒部市
- 16b 富山市
- 16c 氷見市
- 16d 砺波市
- 16e 東礪波郡上平村 (→南砺市)

石川県

- 17a 羽咋郡押水町 (→宝達志水町)

福井県

- 18a 坂井郡芦原町 (→あわら市)
- 18b 勝山市
- 18c 南条郡南条町 (→南越前町)
- 18d 敦賀市
- 18e 遠敷郡名田庄村 (→大飯郡おおい町)

山梨県

- 19a 塩山市 (→甲州市)
- 19b 大月市
- 19c 韭崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曽郡開田村 (→木曽町)

岐阜県

- 21a 高山市
- 21b 大野郡白川村
- 21c 中津川市
- 21d 岐阜市
- 21e 揖斐郡徳山村（→揖斐川町）

静岡県

- 22a 静岡市
- 22b 榛原郡本川根町（→川根本町）
- 22c 磐田郡水窪町（→浜松市）
- 22d 賀茂郡松崎町
- 22e 浜名郡新居町

愛知県

- 23a 北設楽郡設楽町
- 23b 西春日井郡師勝町（→北名古屋市）
- 23c 岡崎市
- 23d 豊橋市
- 23e 常滑市

三重県

- 24a 安芸郡美里村（→津市）
- 24b 阿山郡阿山町（→伊賀市）
- 24c 志摩郡阿児町（→志摩市）
- 24d 北牟婁郡海山町（→紀北町）
- 24e 南牟婁郡御浜町

滋賀県

- 25a 長浜市
- 25b 高島郡安曇川町（→高島市）
- 25c 神崎郡能登川町（→東近江市）
- 25d 大津市
- 25e 甲賀郡甲賀町（→甲賀市）

京都府

- 26a 中郡峰山町（→京丹後市）
- 26b 舞鶴市
- 26c 船井郡丹波町（→京丹波町）
- 26d 京都市
- 26e 相楽郡山城町

大阪府

- 27a 高槻市
- 27b 大阪市
- 27c 八尾市
- 27d 河内長野市
- 27e 泉佐野市

兵庫県

- 28a 豊岡市
- 28b 朝来郡生野町（→朝来市）
- 28c 神戸市
- 28d 相生市
- 28e 洲本市

奈良県

- 29a 大和郡山市
- 29b 宇陀郡榛原町（→宇陀市）
- 29c 五條市
- 29d 吉野郡下北山村
- 29e 吉野郡十津川村

和歌山県

- 30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町  
（→岩出市・紀の川市）
- 30b 和歌山市
- 30c 御坊市
- 30d 田辺市
- 30e 新宮市

鳥取県

31a 鳥取市

31b 米子市

31c 日野郡日野町

島根県

32a 仁多郡仁多町（→奥出雲町）

32b 出雲市

32c 浜田市

32d 隠岐郡西郷町（→隠岐の島町）

32e 隠岐郡西ノ島町

岡山県

33a 勝田郡勝央町

33b 新見市

33c 岡山市

33d 小田郡矢掛町

33e 笠岡市

広島県

34a 三次市

34b 府中市

34c 広島市

34d 因島市（→尾道市）

34e 安芸郡倉橋町（→呉市）

山口県

35a 萩市

35b 大島郡大島町（→周防大島町）

35c 徳山市（→周南市）

35d 美祢市

35e 豊浦郡豊北町（→下関市）

徳島県

36a 鳴門市

36b 阿南市

36c 美馬郡脇町（→美馬市）

36d 海部郡海南町（→海陽町）

36e 三好郡東祖谷山村（→三好市）

香川県

37a 小豆郡土庄町

37b 木田郡三木町

37c 丸亀市

37d 仲多度郡多度津町

37e 観音寺市

愛媛県

38a 越智郡大三島町（→今治市）

38b 西条市

38c 松山市

38d 大洲市

38e 宇和島市

高知県

39a 室戸市

39b 高知市

39c 高岡郡檜原町

39d 幡多郡三原村

福岡県

40a 北九州市

40b 遠賀郡芦屋町

40c 築上郡新吉富村（→上毛町）

40d 飯塚市

40e 嘉穂郡稲築町（→嘉麻市）

40f 福岡市

40g 八女市

佐賀県

41a 東松浦郡鎮西町 (→唐津市)

41b 鳥栖市

41c 佐賀市

41d 武雄市

長崎県

42a 壱岐郡芦辺町 (→壱岐市)

42b 平戸市

42c 長崎市

42d 南松浦郡奈良尾町 (→新上五島町)

熊本県

43a 阿蘇郡阿蘇町 (→阿蘇市)

43b 熊本市

43c 球磨郡錦町

43d 天草郡天草町 (→天草市)

大分県

44a 東国東郡国東町 (→国東市)

44b 宇佐市

44c 大分郡挾間町 (→由布市)

44d 佐伯市

44e 日田郡前津江村 (→日田市)

宮崎県

45a 延岡市

45b 東臼杵郡椎葉村

45c 宮崎市

45d 北諸県郡山田町 (→都城市)

45e 日南市

鹿児島県

46a 出水市

46b 揖宿郡穎娃町

46c 熊毛郡上屋久町

46d 大島郡龍郷町

沖縄県

47a 国頭郡今帰仁村

47b 那覇市

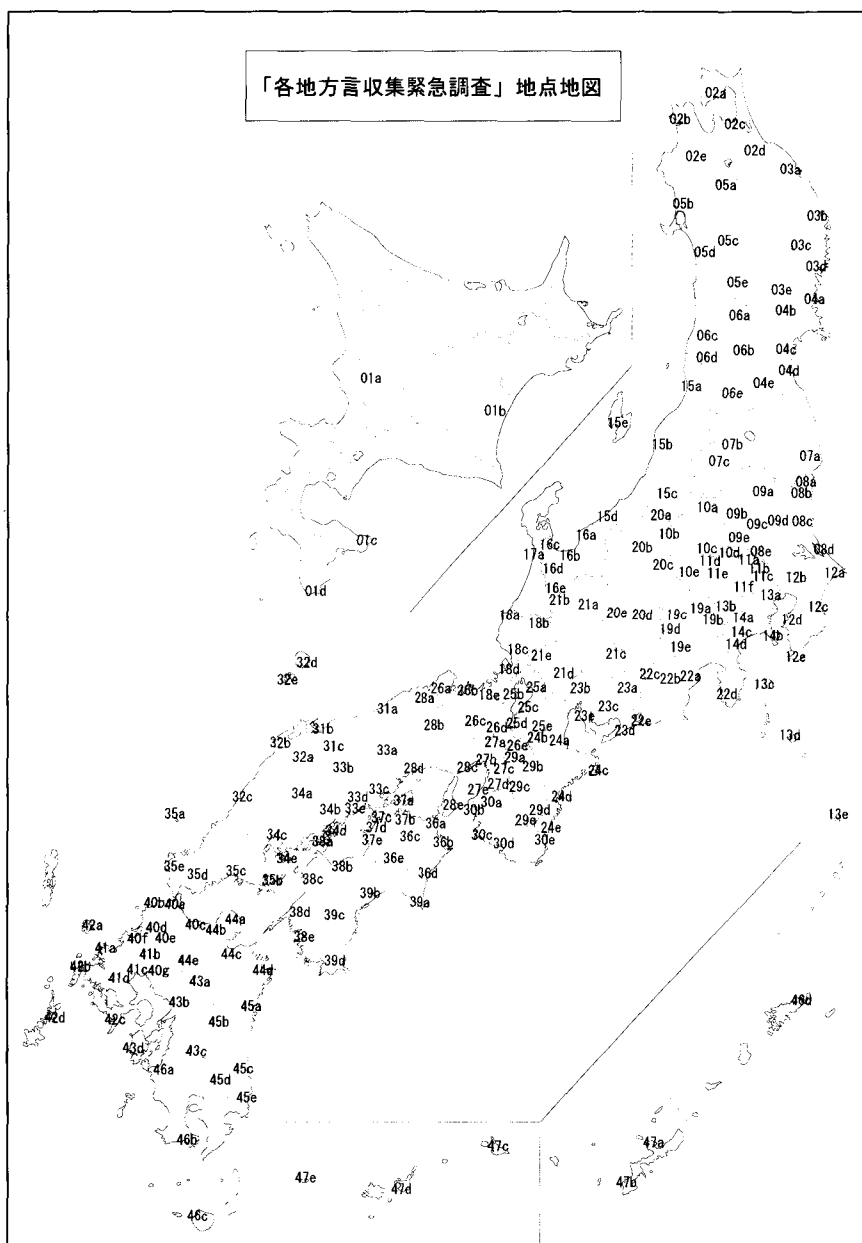
47c 平良市 (→宮古島市)

47d 石垣市

47e 八重山郡与那国町

(2006.09.30. 作成)

「各地方言收集緊急調査」地点地図



(2004. 06. 30. 作成)

## 各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

### 1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

### 2. 調査県一覧

第1次 (S.52~54)	第2次 (S.53~55)	第3次 (S.54~56)	第4次 (S.55~57)	第5次 (S.56~58)	第6次 (S.57~59)	第7次 (S.58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8 県	8 県	6 県	8 県	10 県	3 県	4 県



## 各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年 5 月 1 日

文化庁長官裁定

(昭和62年 6 月 1 日廃止)

### 1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

### 2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

### 3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

### 4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

### 5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

(別紙)

名称	対象経費の区分	項	目	目の細分	説 明
各 地 方 言 収 集 緊 急 調 査 事 業	主 た る 事 業 費	各 地 方 言 収 集 調 査	報償費	〇〇謝金 〇〇文字化謝金 〇〇協力謝金	調査員、調査補助員等謝金
			旅費	普通旅費 費用弁償 特別旅費	資料
			需用費	消耗品費 印刷製本費 会議費	野帳等文具、録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会
			役務費 使用料及び賃借料	通信運搬費 会場借上料 器具借上料	郵便、電信電話料等
			委託料	〇〇委託費	事業の一部を委託して実施する場合(特に認められた場合に限る)

## 各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年 7 月28日

文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

### 1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

### 2. 録音内容・話者

#### ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

(1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話

(2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話

(3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

#### イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則とし

て20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

ウ 目上の者と目下の者の会話

収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的最長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ 場面設定の会話

目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ 民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

### 3. 録音機・録音技術

必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

② 内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないので、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかかなりの差があることが多いので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

#### 4. 文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

#### 5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

## 各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

### 1. 調査（方言収録）の年次計画（（ ）は実施要領・文字化の時間数）

#### ○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話, 又は, 男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話, 又は, 老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

#### ○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話, 又は, 老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

#### ○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

（注）3年次の「③ 民話」の収録不能のときは, 2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

### 2. 調査報告書の提出部数

#### (1) 録音テープ

- ・正……収録した生のテープ 1部
- ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

#### (2) 文字化原稿

- ・正……手書き原稿 1部
- ・副……正のコピー 2部

### 3. 調査報告書の様式等

#### (1) 録音テープの記録票

<p>○ ○ 県</p> <p style="text-align: center;">各地方言収集緊急調査録音記録票</p> <p>1 採録地点 _____</p> <p>2 採録年月日 _____</p> <p>3 話題・時間    <u>  A面  </u> _____ (    ) 分</p> <p style="padding-left: 100px;"><u>  B面  </u> _____ (    ) 分</p> <p>4 話者 _____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>5 採録機種 _____</p>	<p>NO. <u>正</u> _____</p> <p>_____ ○</p> <p>(副) _____</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">補助要項 の記号</p> </div>
--	---

テープのケース箱に張り付けてください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1)録音内容記録票、(2)収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3)録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
〇〇県（昭和      年度）	
各地方言収集緊急調査 文字化原稿	
（正） 又 は 副	
調査地点	〇〇〇〇

(3) 文字化原稿の用紙

- |            |            |
|------------|------------|
| ① 録音内容記録票  | } （別紙のとおり） |
| ② 方言資料割付用紙 |            |
| ③ 方言調査解説用紙 |            |

## 調査実施上の留意事項について

### 1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1 年次	① 老年層の男女各 1 人による対話、又は、男女を含む 3 人の会話（ア-(1)）	10	2
	② 老年層の男性 2 人の対話、又は、老年層の男性 3 人の会話（ア-(2)）		1
2 年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性 2 人）(ウ)	10	2
	② 老年層の女性 2 人の対話、又は、老年層の女性 3 人の会話（ア-(3)）		1
3 年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
	③ 民話（オ）		1
	（民話が収録できないときは、（注）参照。）		
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため、収録が不可能な地点は、老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の 2 人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが、長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

### 2 調査報告書の提出部数

#### (1) 録音テープ

正……収録した生のテープ 1 部  
副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2 部

#### (2) 文字化原稿

正……手書き原稿 1 部  
副……正のコピー 2 部

### 3 調査報告書の様式等

#### (1) 録音テープの記録票

<p>○ ○ 県</p> <p>各地方言収集緊急調査録音記録票</p> <p>1 採録地点 _____</p> <p>2 採録年月日 _____</p> <p>3 話題・時間 A面 _____ ( ) 分</p> <p style="padding-left: 100px;">B面 _____ ( ) 分</p> <p>4 話者 _____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>5 採録機種 _____</p> <p>_____</p>	<p>NO.正 _____</p> <p style="text-align: center;">—○</p> <p>(副)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>補助要項 の記号</p> </div>
--	--

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

#### (2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1)録音内容記録票、(2)収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3)録音文字化原稿の順で表紙（B4 板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
<p>○○県（昭和      年度）</p> <p>各地方言収集緊急調査 文字化原稿</p> <p>（正） 又 は 副</p> <p>調査地点      ○○○○</p>	



(3) 文字化原稿の用紙

- |            |   |          |
|------------|---|----------|
| ① 録音内容記録票  | } | (別紙のとおり) |
| ② 方言資料割付用紙 |   |          |
| ③ 方言調査解説用紙 |   |          |

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について(国語研・言語変化研究部でまとめたもの)

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)
- ② 割付用紙の左端の[ ]には話し手の略号を記入する。
- ③ カウンター付きの録音機を使用した場合は、その番号を所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。
- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位に分ち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」、「」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は、カ°キ°ク°…のように表わす。

例 カカ°ミ [kaɕami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。

例 マンド [ma~do] (窓)

カンゴ [ka~go] (籠) ー高知方言などー

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクッ, グッのように表わす。

例 クッジ [kwaʒi] (火事) ー九州方言などー

(オ) [ʃe] [dʒe] はシェ, ジェのように表わす。

例 シェナカ [ʃenaka] (背中) ー九州方言などー

(カ) [ti] [di] はティ, ディ, [tu] [du] はトゥ, ドゥのように表わす。

例 トゥキ [tuki] (月) ー高知方言などー

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ, フィ, フェのように表わす。

例 フェンビ [ɸe~bi] (蛇) ー奥羽方言などー

(ク) [je] の音はイエで表わす。

例 イェダ [jeda] (枝) ー九州方言などー

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ, カエ, サエのように表す。

例 アカエー [akæ:] (赤い) ー岡山方言などー

(コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエア, ケア, セアのように表わす。

例 アゲア [agɛ] (赤い) ー奥羽方言などー

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ(注)→注 [kɕimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には、~~~~線をつけておく。

例 カステクレアー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを~~~~線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレアー(注)→注「カステクロエ」または「カステクロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する(意識する)発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を~~~~線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には、~~~~線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線をつける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように( )を利用し、発言

が重複する部分に\_\_\_\_線を付ける。

例 A ヒルマ<sup>マ</sup>デ マズ スコ<sup>ト</sup>モ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレ<sup>ア</sup>ー) アト スク<sup>イ</sup> モツテクッカラ

ウ 重複部分が長い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には、改行して、重複部分に\_\_\_\_線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシエ マズ。チョイット  
ナカ<sup>ス</sup> キター。

B イヤ イソカ<sup>ス</sup>ィンダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に×××××を付ける。

例 アノー ワズカナ <sup>ゴ</sup> <sup>ゴ</sup> <sup>ジュ</sup>  
ゴ<sup>ジュ</sup>ーエングラ<sup>エ</sup>ー<sup>××</sup>ジャツタ<sup>×××××××</sup>カナ<sup>ー</sup>。

オ 笑い声などは文字化本文中に（ ）に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

- ⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

- ⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを（ ）に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声の特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所

所に注を付けてほしい。

#### 解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

##### A 収録地点とその方言について

###### 1 地点名

2 収録地点の概観(位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など)

###### 3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

② 音韻上の特色(モーラ表・音声の特徴)

③ 文法上の特色(要点のみ。箇条書き)

###### 4 その他(地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など)

##### B 表記について

それぞれの符号(カナ・音声符号)で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての説明、判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説，注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

## 「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)～17(2005)年度は、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んだ。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子（情報資料部門第一領域）であった。所外研究委員として、佐藤亮一氏（元東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成18(2006)年度からは、「日本語に関する蓄積資料の整備」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門は、情報資料部門資料整備グループ、担当者は、井上文子（情報資料

部門資料整備グループ）である。所外研究委員として、佐藤亮一氏（元東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所），江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行っている。

その一方で，平成9（1997）～13（2001）年度には，作成データベース名「全国方言談話資料データベース」，作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として，また，平成14（2002）～18（2006）年度には，作成データベース名「全国方言談話データベース」，作成委員会名「全国方言談話データベース作成委員会」として，科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け，音声資料，文字化資料を電子化する作業を進めた。作成委員長は，佐藤亮一氏（元東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所）であり，「各地方言収集緊急調査」当時，国立国語研究所言語変化研究部第一研究室室長として，調査の計画段階から指導・助言にあたり，調査および報告資料の全体像を把握していた。作成委員としては，江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），井上文子（国立国語研究所情報資料部門資料整備グループ）が担当した。平成13（2001）年度から，「全国方言談話データベース」の公開を開始している。

なお，このデータベースの作成事業で受けた，科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円
平成16年度	168037	7,000,000円
平成17年度	178036	6,500,000円
平成18年度	188023	6,600,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的良好に残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、談話内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化部分の、文字化テキストと、それに対応するデジタル化した録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の

統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。

- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。  
『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。
- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要、収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報、話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに、文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを作成する。さらに、それをpdfファイルにする。
- ⑫文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを用いて、文字化のtextファイル、共通語訳のtextファイルを作成する。
- ⑬音声データは、サンプリング周波数22.050kHz、量子化ビット数16bitでデジタル化して、音声ファイル（wave形式）を作成する。そして、それを、文字化と共通語訳を２段組に対照させたページに従って、ページ単位に切り、文字化・共通語訳のpdfファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROMは、データベースソフトを利用して、文字化・共通語訳の文字列による検索、話者による検索などができるようにする。
- ⑮CDには、トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については、必要に応じて、現地へ赴き、収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら、入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには、可能な限り、文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において、ある程度のデータが蓄積された段階で、CD-ROM、ま



たは、音声はカセットテープ・MD、文字はFDを媒体とした試作版を作成し、モニターに依頼して意見・要望を求め、データベースに反映させる。

⑱検索情報の整備、検索マニュアル、利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は、冊子、CD-ROM、CDから成り、方言談話の音声（waveファイル）、文字化（カタカナ表記、textファイル）、共通語訳（漢字かなまじり表記、textファイル）、文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの（冊子、pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった、音声、文字化、共通語訳の電子化データを備えているので、研究や教育のために加工して、自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては、国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として、熊谷康雄（情報資料部門）、委員として、熊谷智子（研究開発部門言語生活グループ）、三井はるみ（研究開発部門言語問題グループ）、井上優（日本語教育基盤情報センター用例用法グループ）、井上文子（情報資料部門資料整備グループ）が担当した。

刊行計画は下記のとおりである。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本の  
ふるさとことば集成』 全20巻

各巻：冊子 1冊 A5判 約250ページ，CD-ROM 1枚，CD 1枚

巻数	巻名	ISBN
第1巻	北海道・青森	978-4-336-04361-0
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6
第14巻	鳥取・島根・岡山	978-4-336-04374-0
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9
第18巻	福岡・大分・宮崎	978-4-336-04378-8
第19巻	佐賀・長崎・熊本	978-4-336-04379-5
第20巻	鹿児島・沖縄	978-4-336-04380-1

国立国語研究所資料集 13-18

全国方言談話データベース  
日本のふるさとことば集成

第18巻 福岡・大分・宮崎

2008年 7 月22日 発行

編集：独立行政法人国立国語研究所

〒190-8561

東京都立川市緑町10-2

TEL：042-540-4300（代表）

FAX：042-540-4339

URL：<http://www.kokken.go.jp>

発行：国書刊行会

〒174-0056

東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>

印刷：エーヴィスシステムズ

製本：青木製本